

府ノ訓令ニ基キ二月十日竝ニ同月十二日國務省係官ニ面會シ公然トナク其ノ注意ヲ喚起スル所アリ然ルニ二月十五日下午院委員會ハ當時同委員會ニ於テ審議中ノ「アルメニア」避難民入國許可案(S. 4092)ノ前文ノミヲ保存シ其本文ト「ジョンソン」案ノ本文トヲ置換シ可決ノ上下院ニ報告セリ而シテ委員會ハ其贊成報告書(二月十五日附)中日本移民ニ關シ次ノ要旨ヲ述ヘタリ

(一) 一億一千万ノ人民竝ニ其ノ自然ヲ保護スルハ米國民固有ノ權利ニシテ國務省ハ右固有ノ權利ニ干涉シ又ハ干涉スル外國ヨリノ申出ヲ承認スルコトナカルヘク議會亦右ノ權利ヲ些少ナリトモ危殆ナラシムルカ如キ法律ヲ制定スルコトナカルヘシ而シテ合衆國大審院ハ既ニ東洋人ハ米國ニ於テ歸化權ヲ享有セサルコトヲ決定セルヲ以テ移民委員會ニ於テハ單ナル覺書ナリト諒解セラルルニ拘ラス日米通商條約附屬書ニ依リテ從來數年間或種ノ效力ヲ有シ來レル所謂紳士協約ヲ訂正スルノ規定ヲ提議スルヲ以テ妥當ノ措置ト思惟ス

(二) 委員會案トシテ歸化不能外國人ノ入國禁止ニ對シ(一)再渡航者(二)教師、僧侶、學者及其妻子(三)學生ノ場合ニ例外ヲ設ケタルハ委員會トシテ此例外ハ所謂紳士協約ヲ明カニシタルモノニシテ該協約ヲ法律ト爲スコトニ依リ初メテ最困難ナル問題ヲ容易ニ終結セシムルヲ得ヘシト信シタレハナリ

然ルニ議會閉會期切迫シ諸種ノ法案輻輳セル爲通常順位ニ依リテハ到底本期中ニ兩院ノ審議ヲ完了スルコト困難ナルニヨリ「ジョンソン」等ハ下院領袖等ニ了解ヲ求メ本案ニ對シ優先順位ヲ與ヘ議事ニ上サンコトニ努力シタルモ竟ニ下院ニ提出セラレタル儘三月初第六十七回議會閉會ヲ見ルニ至レリ

第二節 一九二四年米國移民法制定ト日米交渉經過

第一、概 說

一九二三年十二月五日華州選出共和黨議員「アルバート・ジョンソン」ハ米國下院ニ歸化不能外國人入國禁止條項ヲ含ム移民法案ヲ提出シ之ト同時ニ歸化不能外國人ノ子ノ國籍ニ關スル憲法改正案モ亦「ジョンソン」等ニヨリ夫々上下兩院ニ提出セラレタルヲ以テ在米埴原大使ハ十二月十三日國務長官ニ面會之ニ對スル米國政府ノ注意ヲ喚起スル所アリタルカ同大使ハ更ニ一九二四年一月一日附帝國政府ノ訓令ニ基キ移民法案中ノ排日條項ニ關スル覺書ヲ作成シ國務長官ニ之ヲ提示シ懇談ヲ遂ケ尙憲法改正法案ニ付テモ更ニ同長官ノ注意ヲ促シタリ然ルニ「ジョンソン」ハ勞働長官「デヴィス」ノ修正意見ヲ參酌シテ自己ノ原案ニ多少ノ修正ヲ加ヘタル新改正法案ヲ

二月一日下院ニ提出シタルカ二月八日國務長官ハ下院移民委員長タル同氏ニ宛テ書翰ヲ送り同案ハ(一)商人ノ入國滞在ニ對シ制限ヲ加フル點ニ於テ現行日米通商航海條約ニ牴觸シ(二)日本人ニ對スル差別的排斥ヲ定ムル點ニ於テ日本ノ感情ヲ激發セシムヘキコト等ヲ指摘シ其修正ヲ勸告シタルカ下院移民委員會ハ國務長官ノ前記勸告中第一點ノ修正ニハ同意ヲ表シタルモ第二點即チ歸化不能外國人入國禁止條項ハ依然トシテ之カ維持ヲ主張シ三月二十四日其ノ旨下院ニ報告スルニ至レリ

之ヨリ先上院ニ於テハ二月二十日「ペンシルヴァニア」州選出共和黨議員「リード」ヨリ「ジョンソン」案ニ對スル修正案ノ提出アリ同案ハ歸化不能外國人入國禁止規定ヲ含マサリシカ上院移民委員會ハ右「リード」案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ改メテ「條約又ハ移民ニ關シ特ニ定メタル協約ノ規定ニヨリ入國シ得ル者ハ非移民トシテ入國シ得」ルコトヲ規定シ三月二十七日之ヲ上院ニ報告セリ上院ハ四月四日ヨリ八日ニ至ル間四回ニ互リ右委員會案ニ付キ討議シタルカ上院委員長「コルト」「リード」氏等ノ委員會案贊成演說ニ對シ加州選出共和黨議員「ジョートリッヂ」加州選出共和黨議員「ハイラム・ジョンソン」等ノ反對論アリ結局四月十日ノ會議ニ於テ之ニ關スル可否ヲ票決スルコトナレリ

然ルニ前記下院移民委員會ヨリ下院ニ提出セラレタル報告書ヲ見ルニ我國ノ嚴守シツツアル紳士協約ノ目的及精神ハ一般ノ充分ニ理解スル所トナリ居ラサルヤニ看取セラレタルヲ以テ在米埴原大使ハ帝國政府ノ訓令ニ基キ紳士協約ノ骨子及之カ實行ノ現況等ヲ認メタル文書ヲ四月一日國務長官ニ送付シタルカ同長官ハ之ニ對スル書翰ヲ埴原大使宛發送スルト共ニ右往復文書寫ヲ上下兩院移民委員長ニ送付シ且之ヲ公表セリ

其ノ後下院ハ四月十二日大多數ヲ以テ「ジョンソン」案ヲ可決シ上院ニ於テハ右往復文書ノ發表ト共ニ形勢變化シ「リード」案中ヨリ前述ノ「條約協約ニヨリ入國シ得ルモノヲ非移民トシテ除去スル條項」ヲ削除シタル上「ジョンソン」案同様ノ歸化不能外國人入國禁止條項ヲ挿入シ同案ハ四月十八日大多數ヲ以テ上院ヲ通過セリ

斯シテ上下兩院ノ意思ハ歸化不能外國人ノ入國禁止條項ニ付キ一致ヲ見タルモ之カ實施期日ヲ始メ移民制限手續等ニ付兩院ノ意見相違シ居リタルヲ以テ移民法案ハ兩院協議會ニ附議セラルルニ至リ同協議會ハ四月二十五日ヨリ審議ヲ開始シタルカ大統領及國務長官ハ此間ニ於テ議會其ノ他ノ方面ノ有力者ト會見シ再三排日條項ノ緩和ニ努メタル趣ニテ五月七日兩院協議會ハ排日條項ノ末尾ニ「本項ノ入國禁止ニ關シテハ一九二五年三月一日迄效力ヲ發生セサルヘク大統領ハ其ノ以

前ニ本問題ニ關スル現行協定廢棄ニ關シ日本國政府ト商議センコトヲ求ムトノ但書ヲ附スルコトヲ決議セリ

然ルニ下院ニ於テハ右但書ヲ承認セサリシヲ以テ五月十日更ニ兩院協議會開カレ協議ノ結果遂ニ排日條項ノ實施期ハ下院原案通り之ヲ七月一日ト爲スコトニ決定シ次テ右ハ上下兩院ノ承認スル所トナリ移民法案ハ五月十七日大統領ノ手許ニ送付セラレ大統領ハ五月二十六日竟ニ同法案ヲ裁可シ之ト同時ニ歸化不能外國人排斥條項ヲ移民法案ヨリ引離ス能ハサルヲ遺憾トスル旨ノ陳述書ヲ公表セリ

今回ノ移民法案カ上下兩院ノ議題トナリテヨリ之カ大統領ノ裁可ヲ見ルニ至ル迄我在米大使ハ帝國政府ノ訓令ヲ奉シ終始米國政府ニ對シ交渉是レ努メタルモ遂ニ遺憾ナカラ排日條項ヲ含ム移民法ノ制定ヲ見ルニ至リタルヲ以テ帝國政府ハ改メテ同大使ニ訓令ヲ發シ五月三十一日之ニ關スル我嚴正ナル抗議ヲ國務長官ニ提出セシメタルカ六月十六日同長官ハ我抗議ニ對スル米國政府ノ回答ヲ在米大使ニ手交セリ

第二、一九二四年移民法制定

一、「ジョンソン」移民法案下院ニ提出

一九二三年十二月五日華州選出下院議員「アルバート・ジョンソン」ハ移民制限法案ヲ下院ニ提出シ直ニ移民委員會附託トナリタリ其ノ内容ハ「ジョンソン」カ前議會ニ提出シタルモノニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナルカ主要ノ條項ニハ殆ト變更ナシ我方ニ直接關係アル修正ハ歸化不能外國人^(註)中例外トシテ入國ヲ許可セラルル移民ニ關スルモノニシテ主ナルモノ左ノ如シ(附屬書第百四號)

(一) 再入國者ノ外國滞在期間ヲ一年以內トシ特ニ其ノ延期ヲ許スコトアルヘキ期間ヲ六ヶ月以內ニ限定ス

(二) 布教師教授等カ入國出願前其ノ職業ニ從事シ居リタルコトヲ要スル年數ヲ延長シテ四年トス
(三) 學生ノ年齡ヲ高メテ十八歲以上トシ尙米國ニテ入學スヘキ學校ヲ「カレッジ」、「アカデミー」、「セミナリー」、「ユニヴァーシテイ」ト明記ス

(四) 米國ニ入國スル船舶ノ船員中歸化不能外國人アルトキハ出港ニ際シ少クトモ入港當時乗組居リタルト同數ノ歸化不能外國船員ヲ有スルニ非サレハ該船舶ノ出港ヲ許可セス右ニ違反シテ出港シ又ハ出港ヲ企ツルトキハ船主船長其ノ他ニ對シ不足船員數ニ應シ三千弗乃至一萬弗ノ罰金ヲ科ス

尙「ジョンソン」法案中注意スヘキ點次ノ如シ

(一) 移民トハ米國外ヨリ米國ニ來ル一切ノ外國人ヲ指ス但シ左記ノモノヲ除外ス

(イ) 官吏並ニ其ノ家族從者僕婢及雇人

(ロ) 旅行者又ハ用務若ハ觀光ノ爲一時的ニ渡米スル者

(ハ) 米國ヲ横切リテ繼續的通過ヲ爲ス者

(ニ) 接壤國ヲ通過シテ米國內ノ一地方ヨリ他ノ地方ニ赴ク者

(ホ) 善意ノ船員ニシテ職務ノ爲米國ニ上陸スル者

(二) 毎年入國ヲ許可スヘキ各國ノ移民ハ特定ノ例外ヲ除キ一八九〇年ノ國勢調査ニ基ク米國在留各國人々口ノ二「パーセント」ニ二百ヲ加算シタル數

(三) 歸化不能外國移民ハ再渡航者、布教師、大學教授又ハ學術的職業ニ従事スル者並其ノ妻子及學生ヲ除クノ外入國ヲ禁止ス

尙十二月六日上院議員「ロッヂ」(上院外交委員長「マサチューセツ」州選出共和黨)モ亦「ジョンソン」法案ト同一内容ヲ有スル移民法案ヲ上院ニ提出シタルカ其ノ後ニ於ケル上院議事ノ發展ニ徴スルニ右ハ重要ナル意味ヲ有セサリシモノノ如シ

(註) 合衆國改正法典第二一六九號ハ「歸化ニ關スル規定ハ自由ナル白人及阿弗利加土人並阿弗利加人ノ子孫タル外國人ニ之ヲ適用ス」ト規定シ日本人カ歸化權ヲ有セサルコトハ一九二二年十月十三日合衆國大審院判決ニヨリ決定セラレタリ

二、歸化不能外國人ノ子ノ國籍ニ關スル憲法改正決議案

十二月六日上院本會議ニ於テ「ジョンズ」(華州選出共和黨)ハ歸化不能外國人ノ子ノ國籍ニ關スル左記趣旨ノ憲法改正決議案 (concurrent resolution) ヲ提出シ直ニ同院法制委員會ニ附託セラレタリ (附屬書第百五號)

上院ハ(下院ノ賛成決議ヲ待チ)憲法改正案トシテ左記條項ヲ各州ニ提議シ該條項カ四分ノ三以上ノ諸州議會ニ依リ批准セラレタル時ハ憲法ノ一部トシテ完全ニ效力ヲ生スヘキモノナルコトヲ決議ス

憲法補則第十九條 米國內ニ於テ外國人タル親ヨリ今後生レタル子ハ其ノ兩親カ共ニ歸化權ヲ有スルニ非サレハ米國國籍若ハ歸化權ヲ有セス又從前米國內ニ於テ生レタル者ハ其ノ兩親カ共ニ米國國籍又ハ歸化權ヲ有スルニ非サレハ本條項採用後米國國籍若ハ歸化權ヲ有セス

尙十二月五日下午院ニ於テモ「レーカー」(加州選出民主黨)及「ジョンソン」ヨリ各別ニ前掲ト同趣旨ノ憲法改正決議案 (joint resolution) ヲ提出シ何レモ下院法制委員會ニ附託セラレタリ右二決

議案モ上院ノ「ジョンズ」案ト同様四分ノ三以上ノ多數諸州議會カ批准セハ其ノ儘完全ニ效力ヲ生スヘキモノナルコトヲ前文ニ掲ケ而シテ「レーカー」案ニハ「米國內ニ於テ外國人タル親ヨリ今後生レタル子ハ其ノ兩親カ共ニ歸化權ヲ有スルニ非サレハ云々」トノ規定アルノミニテ從前生レタル者ニ關シ規定スル處ナク「ジョンソン」案ニハ「米國ニ於テ外國人タル親ヨリ生レタル子ハ歸化權ヲ有セス」云々トアリテ「從來」若ハ「今後」等ノ文字ヲ用ヒ居ラス

三、移民法案及憲法改正決議案ニ關シ在米大使國務長官ト會談

十二月十三日在米埴原大使ハ不取敢國務長官「ヒューズ」ニ面會最近上下兩院ニ提出セラレタル移民制限法案及國籍ニ關スル憲法改正決議案ニ言及シ前者ニ付テハ現行日米通商條約及紳士協約ニ關スル諒解ト相容レサル條項アルコト竝ニ後者ニ付テハ其ノ成立ノ曉ニハ延テ在米邦人ニ及ホス影響ノ重大ナルヘキコトヲ指摘シ右ハ已ニ長官ノ注意ニ上リタル議ト思考スルモ尙今後トモ同長官ニ於テ之ニ關シ適當ノ注意ヲ咨マレサラムコトヲ希望スル旨ヲ申入レタリ

四、勞働長官「デヴィス」ノ移民法試案

十二月三十一日勞働長官「デヴィス」ハ其ノ作成ニ係ル移民試案ヲ議會ノ參考トシテ上下兩院移民委員會ニ送致セリ右試案中我方ニ關係アル要點左ノ如シ（附屬書第百六號）

- (一) 歸化不能外國移民ハ入國ヲ許可セス
- (二) 移民トハ米國外ヨリ米國ニ來ル一切ノ外國人ヲ指ス但シ左記ノ者ヲ除外ス
 - (イ) 官吏竝ニ其ノ家族、從者、僕婢及雇人
 - (ロ) 旅行者又ハ用務若ハ觀光ノ爲一時的ニ渡來スル者
 - (ハ) 米國ヲ横切リテ繼續的通過ヲ爲ス者
 - (ニ) 接壤國ヲ通過シテ米國內ノ一地方ヨリ他ノ地方ニ赴ク者
 - (ホ) 再入國者（出發ヨリ再入國迄ノ期間ハ原則トシテ六ヶ月ヲ超ユルヲ得ス）
 - (ヘ) 十八歳以上ノ善意ノ學生ニシテ勞働長官ノ認可セル一定ノ「カレッジ」、「アカデミー」、「セミナリー」又ハ「ユニヴァーシティ」ニ於テ勉學ノ爲入國セムトスル者
 - (ト) 職務ノ爲入國スル海員（但シ歸化不能外國人タル海員ニ關シテハ別ニ一時醫療ヲ受クル爲ノ場合又ハ勞働長官ノ定ムル規則ニ準據スル場合ノ外之カ上陸ヲ許ササル旨ノ規定アリ）
 - (チ) 米國入國出願直前合衆國ニ接壤セル外國領土ニ五年以上繼續居住スル者ニシテ勞働長官ノ免許ヲ得一定期間一定ノ場所ニ於テ一定ノ勞働ニ従事スル爲入國セムトスル者
 - (リ) 適法ノ用務ノ爲常ニ國境ヲ出入スル者

五、移民法案及憲法改正決議案ニ關シ在米大使宛外務大臣訓令

一九二四年一月一日伊集院外務大臣ハ在米埴原大使ニ對シ今般米國議會ニ提出セラレタル移民法案中歸化能力ヲ標準トスル差別的條項ヲ設クルコトニ付テハ現行移民法制定當時帝國政府ノ最モ強硬ニ抗議シタルモノニシテ極力反對セサルヲ得ス又國籍ニ關スル憲法改正決議案ニ付テハ其成立ノ曉在米邦人ニ及ホス影響ノ重大ナルニ鑑ミ帝國政府ノ頗ル痛心スル所ナルノミナラス從來飽迄穩健說ヲ持シ來レル有力ナル本邦有識階級ノ論調モ之カ爲現ニ著シキ變化ヲ來シツツアルニ付國務長官ニ面會シ前記二點ニ關シ篤ト懇談ヲ遂ケ尙移民法ニ付テハ左記甲號、憲法改正決議案ニ付テハ乙號ノ諸點ヲ參照シ適宜措置方ヲ訓令セリ

甲號

(一) 一九一一年ノ現行日米通商航海條約締結ニ際シ日本政府カ舊條約第二條末項ノ削除ニ努メ且同條約附屬文書ヲ以テ宣言(附屬書第二十六號參照)ヲ爲シタルハ一九一六年四月二十一日珍田大使ヨリ大統領宛覺書中ニ明ナルカ如ク偏ニ米國側ニ於テ國內法ニ依リテ移民ニ關スル差別待遇ヲ規定スルノ必要ナカラシムルヲ目的トシタルモノナリ從テ新移民法案ハ前顯條約ノ精神ニ違反ス

(二) 一九一一年一月二十三日附日本大使館宛國務省ノ書面中ニハ當時米國政府ニ於テ右舊條約末

項ノ削除ヲ以テ移民制限ニ關スル米國ノ主權ヲ毀損スルモノニ非スト了解セシ旨明記セラレ居ルモ(附屬書第二十三號參照)右ハ一般的移民ノ制限ニ關スル主權ヲ毀損セストノ意味ニシテ差別的規定ヲ設クルノ趣旨ニ非サルハ當時米國側ノ言明ニ徴スルモ疑ヲ容レス又上院カ前顯條約ヲ批准スルニ際シ該條約ハ移民法ノ何レノ條項ヲモ廢止シ又ハ變更スルモノニ非ストノ條件ヲ附シタルモ亦同一ノ意味ヲ明ニセントシタルモノナリ此點ニ關シ最重要ナルハ一九一一年二月十五日附國務長官ノ書翰ニシテ同長官ハ右書翰中ニ於テ移民法中ニハ差別的規定ナキカ故ニ日本政府ニ於テモ別段上院ノ附シタル條件ニ對シ異存ナキモノト思考スル旨陳述セリ若シ當時ノ移民法中日本人ニ對シ何等差別的規定存在シタリシナラムニハ日本政府ハ現行條約ノ批准ヲ爲ササリシナルヘシ(附屬書第二十九號參照)

(三) 右ノ理由ニ基キ日本政府ハ一九一七年制定現行移民法カ議會ニ於テ審議セラレタル際本邦人ニ對スル差別的規定ノ削除ヲ要求シタルカ米國政府ハ之ニ同意シ差別的規定ハ全部削除セラレタリ(附屬書第七十號參照)

(四) 移民ノ制限ハ日本ノミナラス他ノ東洋人ニモ均シク適用セラルルモノナリトノ辯明ヲ爲ス者

アルモ支那人ニ付テハ支那人排斥法アリ又其ノ他ノ東洋人ニ付テハ既ニ現行移民法中ニ緯度及經度等ニ依リ制限ヲ設ケ居ル點ヨリ見レハ新移民法案中ノ差別條項ハ特ニ日本人ヲ主タル目的トスルモノト云フヘシ

(五) 本邦人ニ對スル差別的規定制定セラルルニ於テハ右制定ト同時ニ日本政府ハ當然紳士協約ニ依ル義務ヲ免レ從來米國本土竝ニ其ノ隣接國ニ渡航スル者ニ對シテ實行シ來レル制限ヲ撤廢スルヲ得ヘシ然ルニ移民ノ制限ヲ完全ニ行ハムトセハ移民出發國ノ協力ヲ必要トスヘク出發國ノ共助ナキ場合ニ完全ニ移民制限ノ目的ヲ達成スルノ困難ナルハ從來ノ經驗ニ依リ米國政府ノ知悉スル處ナルヘシ

新移民法中ニ差別的規定ヲ包含セサルニ於テハ日本政府ハ紳士協約ヲ繼續實行スヘク此場合ニ於テ本邦人渡航者ハ紳士協約ニ依ル制限ノ外移民法ニ依ル制限ヲモ受クルコトナルヘシ詳述スレハ紳士協約ノ下ニ渡航シ得ル者ハ再渡航者、商人、學生及在米邦人ノ家族等ナルカ前三者ハ新移民法案ニ於テモ定員外ニ在ルヲ以テ差シタル問題ナカルヘキモ在米邦人ノ家族ハ紳士協約ノ下ニ於テハ無制限ニ渡航シ得ルモ新移民法實施ノ上ハ其ノ渡航數ハ新移民法所定ノ定員内ニ限定セラルルモノトス

(六) 要之移民法中ニ差別的規定ヲ設クルハ日本政府カ條約ヲ改正シ紳士協約ヲ遵守シ多年ノ間幾多ノ犠牲ヲ意トセス甚大ノ苦心ヲ重ネテ維持シ來レル政策ヲ一朝ニシテ破壞スルモノナリ

乙號

(一) 元來一國ノ市民トシテノ適否ハ個人ノ具備スル條件ニ依リ個々ニ判定スヘキモノニシテ人種等ノ區別ニヨリ概括的ニ決定ヲ下スヘキモノニ非ス米國歸化法カ歸化能力ノ有無ニ付獨斷的決定ヲ爲シ日本人ヲ以テ歸化シ得サル人種トシテ排斥スルコトハ日本國民ノ正當ナル自負心ヲ損傷スルモノナリ

(二) 殊ニ今回ノ憲法改正決議案ノ如ク兩親カ歸化權ヲ有セサル場合ニ其ノ子モ亦米國內ニ生レタルニ不拘當然市民權及ヒ歸化權ヲ有セサルモノトスルハ甚タ其ノ當ヲ得ス實際ノ事例ニ徴スルニ米國出生日本兒童ハ多クハ寧ロ米國文化ノ雰圍氣内ニ生長シ米國ノ思想ト精神トヲ體得スルモノナリ

(三) 太平洋沿岸諸州ニ於ケル本邦人ハ單ニ歸化權ヲ有セサルノ故ヲ以テ既ニ各種ノ權利ヲ奪ハレ其ノ結果生業ヲ失ヒ今ヤ殆ト前途ノ處置ニ窮シツアルノ實情ナリ然ルニ前記決議案ハ更ニ一步ヲ進メテ何等罪ナキ彼等ノ子孫ヨリ其ノ公然享有シ得ヘキ各種ノ公權私權ヲ剝奪シ彼等ヲシ

テ將來全ク人類ニ必須ナル向上的的精神ト希望トラ喪失セシメ米國內ニ於ケル不幸ナル少數民族トシテ終始セシメントスルモノナリ

(四) 歸化法ニ關スル問題ハ國內問題ニ屬スルノ見地ヨリ同問題ニ關シテハ從來努メテ論爭ヲ避ケ來リタルモ近來ノ傾向ヨリ見ルニ同法ハ各種排日立法及言說ニ口實ヲ與フルコトナリ殊ニ今回ノ決議案ハ本邦輿論ノ反感ヲ衝動シ兩國ノ親善關係ニ面白カラサル影響ヲ與フルノ虞アルヲ以テ帝國政府ハ本問題ニ關シ米國政府ノ慎重ナル考慮ヲ求メサルヲ得ス

六、本邦ノ輿論

一九二四年一月十二日松井外務大臣ハ在米埴原大使ニ對シ前記移民法案及憲法改正決議案問題ニ付本邦ノ輿論ハ其ノ經過ニ對シ甚大ナル注意ヲ拂ヒ居リ新聞紙等カ今日迄ノ處比較的冷靜ノ態度ヲ持シ居ルヤノ觀アルハ主トシテ國內問題ニ忙殺セラレ居ル結果ニシテ之ニ依テ本問題ニ對スル我國論ヲ推斷スルコトヲ許サス却テ從來飽迄穩健說ヲ唱道シ來レル有識有力階級ノ人士迄モ本件最近ノ展開ニ關シテハ頗ル之ヲ心外トシ纔ニ米國政府ニ於テ何等カ適當ナル對策ヲ講スルナラムトノ希望ニ依リ其ノ憤懣ノ情ヲ制シ居ル實狀ナルニ付國務長官ニ對シ適當ノ機會ニ右ノ事情ヲ充分説明シ其ノ考量ヲ求ムヘキ旨訓令ヲ發セリ

七、在米大使ト國務長官ノ會見並移民法案及憲法改正案ニ關スル覺書ノ手交

一月十五日埴原大使ハ國務長官ニ面會移民法案ノ條項ニ付テハ曩ニ長官ノ注意ヲ喚起シ置キタルカ爾來下院ニ於テハ着々同案ノ審議ヲ進メツツアル模様ニテ我國民ハ其ノ成行ニ甚大ノ注意ヲ拂ヒツツアリ萬一ニモ右ノ如キ條項通過セムカ我國論沸騰ノ必然ナルニ鑑ミ我政府ノ憂慮措ク能ハサルハ實ニ當然ノ次第ニテ同大使ノ接受セル外務大臣ヨリノ訓令ハ斯ル事態ノ下ニ發セラレタルモノナリト述ヘ一月一日附外務大臣ノ訓令ノ趣旨ヲ參酌シ適宜作成シタル數頁ニ互ル覺書ヲ手交シ一讀ヲ求メタルニ長官ハ即讀ノ上實ハ過日貴官ノ注意モアリ本件ハ目下係官ニ於テ慎重研究中ニ屬シ大使提出ノ覺書ニ對シ今直ニ公然ノ回答ヲナス準備ナキモ何レ篤ト考究ヲ重ネ置クヘク本件日本政府ノ申出ニ關シテハ米國政府ハ細心ノ考慮ヲ盡シツツアル次第ナリト述ヘタリ尙右會見ノ席ニ於テ同大使ハ國籍ニ關スル憲法改正ノ件ニ付テモ國務長官ノ注意ヲ喚起シタリ

一月十五日附國務長官宛在米大使覺書譯文左ノ通(附屬書第百七號)

日本大使ハ千九百二十三年十二月十三日國務長官閣下ト會見セル際千九百二十三年十二月五日「ワシントン」州選出議員「ジョンソン」ニヨリ下院ニ提出セラレタル「合衆國ニ入國セムトスル外國移民ノ制限及移民撰擇制度其ノ他ニ關スル規定ヲ設ケムトスル法律案」ト題スル法案ト現行

日米通商條約竝兩國政府間ノ諒解トノ關係ニ付長官ノ注意ヲ喚起シタリ尙右ト同種ノ法案ハ千九百二十三年十二月六日「マサチューセツツ」州選出「ロツヂ」氏ヨリ上院ニモ提出セラレタリ

前記法案ノ規定中合衆國ニ歸化シ得サル外國人ハ之ヲ入國ヲ許可スヘキ階級ヨリ除外スルノ條項アリ(第十二條(b)項)

小澤孝雄對合衆國事件ニ於テ千九百二十二年十一月十三日合衆國大審院ノ下セル判決ニヨリ日本國民ノ合衆國ニ歸化シ得サルコト確定セリ

若シ前記法律案ニシテ該條項ヲ存シタル儘法律トナルニ於テハ他ノ外國國民ハ其ノ各個人ニ對シ適用セラルル均等ノ條件ノ下ニ入國ヲ許可セラルルニ反シ獨リ日本國民ハ其ノ個人的價值ノ如何ニ拘ラス單ニ日本人タルノ故ヲ以テ合衆國入國ヲ許可セラレサル旨ヲ合衆國ニ於テ公然宣言スルコトトナルヘシ然ルニ右ハ文明諸國ノ敬意ト考量トヲ受クル資格アル國民ノ特性ニ對スル專斷不當ノ差別待遇ナルハ容疑ノ餘地ナク且又斯クノ如キハ國際正義ヲ擁護シ米國民ニ對スル差別待遇ニ反對スル米國外交政策ノ本義ニ合致スルモノト思惟スルヲ得ス

千九百十七年日本政府力鈔カラサル犠牲ヲ拂ヒテ所謂紳士協約ヲ締結シ又千九百十一年日米通商條約ノ附屬トシテ同年二月二十一日附宣言ヲ爲シタルハ日本政府ニ於テ偏ニ合衆國政府ヲシテ合衆

國トノ友情ヲ保全スルニ最モ熱心ニシテ之カ爲如何ナル努力ヲモ辭セサル友邦ノ正當ナル國民的自尊心ヲ損傷スルカ如キ困難ナル立場ニ陷ラサラシメムコトヲ希望シタルニ依ルモノナリ

合衆國政府ハ同政府ノ德瀟及希望ニ基キ定メラレタル所謂紳士協約ノ條項ニ同意スルニ際シテモ亦千九百十一年通商條約ヲ締結スルニ際シテモ單ニ日本人タルノ故ヲ以テ日本人ニ對シ差別待遇ヲ設クルコトハ其ノ形式ノ如何ヲ問ハス日本ノ反對スルトコロナルコトヲ十分ニ理解シ諒悉セルコトヲ表示シ之ト同時ニ日本政府カ日本國民ノ自尊心ヲ保持スルカ爲ニ拂ヒタル犠牲ノ報酬トシテ將來合衆國側ニ於テ單ニ日本人タルノ故ヲ以テ差別待遇ヲ設クルカ如キコトナキ様盡力スヘキ旨ヲ事實上保障シタルモノト謂フヘシ抑々日本政府ニトリテハ千九百十一年通商條約ノ主要目的ノ一ハ目下問題トナレルカ如キ差別的立法ヲ避クルニ在リタルコト疑ヲ容レス例ヘハ國務長官ハ千九百十一年二月二十五日附ヲ以テ華盛頓駐劄日本大使ニ對シ日米通商航海條約ノ批准ヲ通告シタル書翰中ニ於テ左ノ如ク陳述セリ

「上院ハ千九百十七年二月二十日裁可セラレタル「外國人ノ合衆國移住取締法」ト稱セラルル法律ノ何レノ條項ヲモ廢止又ハ變更スルモノト認ムヘカラストノ了解ノ下ニ本條約批准ニ對スル協賛ヲ與ヘ且此了解ハ批准書ノ一部ヲ成スヘキモノナルコトヲ決議シタリ

本法ハ合衆國ニ移住スヘキ總テノ國ノ移民ニ適用セラルルモノニシテ何レノ國ノ利益ノ爲ニモ差別待遇ヲ設定セルモノニ非サルヲ以テ貴國政府ニ於テモ右了解ヲ批准書中ニ記載スルニ付別段ニ異議ナキモノト思惟ス」

上ニ引用セル末節ノ意味ニ付テハ茲ニ別ニ説明ヲ要セサルヘシ

率直ニ陳述セハ前顯法案中ニ斯ノ如キ差別的規定ヲ挿入セルハ明カニ日本政府カ合衆國政府及國民ノ必要ト希望トニ添ハムカ爲メ爲シタル最友誼的ニシテ且實效アル努力ヲ無視スルモノニシテ日本政府及國民ノ最苦痛トスル所ナリ然レトモ日本政府及國民カ此際隱忍維レ努ムル所以ノモノハ米國政府及國民ノ維持スル正義公平ノ觀念ニ鑑ミ同政府及國民ヲシテ前述ノ如キ差別的規定ヲ合衆國法律ノ一部ト成スノ要ナキヲ了解セシムルコト必スシモ困難ナラスト思惟スルヲ以テナリ

日本政府カ外國移民取締ニ關シテ一國ノ有スル主權ニ付云爲セムトスルノ意思ナキヤ云フ迄モナク又日本人ヲ歡迎セサル國ニ向テ移民ヲ送ラムト欲スルモノニモ非ス却テ日本政府ハ本問題發生ノ當初ヨリ合衆國ノ希望セサル種類ノ日本人ノ合衆國入國ヲ有效ニ阻止セムカ爲合衆國政府ト協力シ苟モ名譽ト兩立スヘキ一切ノ手段ヲ講スルニ吝ナラサル旨ヲ表明シ充分之力確證ヲ與ヘタリ

而シテ此ノ事タル米國政府ノ熟知スル所ナリ惟フニ本問題ハ日本ニ取リ便宜ノ問題ニアラスシテ主義ノ問題ナリ單ニ數百名乃至數千名ノ日本人カ他國ノ領域ニ入國ヲ許サルルヤ否ヤノ問題ハ延テ國民感情ノ問題ヲ惹起セサル限り何等重要ナルモノニアラス日本政府ノ重要視スル所ハ日本カ國民トシテ他ノ國民ヨリ相當ノ尊敬及考慮ヲ受クル資格アリヤ否ヤノ問題ナリ換言スレハ日本政府カ米國政府ニ對シテ要求スル所ハ畢竟一國民カ普通他ノ國民ノ自尊心ニ對シテ與フル所ノ正常ナル考量ニシテ是實ニ文明諸國間ニ於ケル友誼的國交ノ基調タルヘキモノナリ

仍テ本官ハ茲ニ日本外務大臣ノ訓令ニ基キ國務長官閣下カ本件ニ對シテ迅速且同情アル考慮ヲ加ヘラレンコトヲ請フト共ニ更ニ千九百二十三年十二月四日本官ヨリ國務長官閣下ニ手交スルノ光榮ヲ有シタル覺書(附屬書第百號參照)ニ對シテハ本覺書ト關聯シテ考慮セラレムコトヲ希望ス蓋シ右二個ノ申入ハ夫々別箇ノ問題ニ關スルモノナリト雖モ根本ニ於テハ其ノ一方ノ論點ハ他方ニ對シ等シク適用シ得ルモノナレハナリ

八、在米大使ト國務長官トノ會見

一月十九日在米埴原大使ハ重ネテ國務長官ニ面會其ノ後國務長官考量ノ結果如何ヲ問ヒタルニ長官ハ本件ハ同官ノ熱心ニ注意ヲ注キ居ル處ニシテ既ニ一應大統領トモ協議シタリト述ヘタルニ付

大使ハ重ネテ萬一斯ル條項カ法律トナルニ於テハ日米關係ノ上ニ生スヘキ大ナル影響ヲ恐ルルカ故ニ早キニ及テ適當ナル處置ヲ施サレムコトヲ希望スル趣ヲ述ヘタリ

九、「ジョンソン」第二次移民法案下院ニ提出

一九二三年十二月五日提出ノ「ジョンソン」移民法案ニ對スル下院移民委員會修正案一九二四年一月三十一日委員會ヲ通過シ「ジョンソン」ハ之ヲ自己ノ新法案タル形式ヲ以テ二月一日下院ニ提出直ニ委員會ニ附託セリ修正ノ要點左ノ通

(一) 歸化不能外國人ハ左ニ列舉スルモノニ非サレハ入國ヲ許サス

甲、非歩合移民 (non-quota immigrant) ノ内左ニ掲クルモノ

(イ) 再入國者

(ロ) 布教師、大學其他高等ノ學校ノ教員、公認セラレタル智能的職業ニ從事スル者及此等ノ

者ノ妻並ニ十八歳以下ノ未婚ノ子(但シ入國出願直前二年以上其職ニ從事シ居リタルコトヲ要ス)

(ハ) 學生(十八歳以上ニシテ大學其他ノ高等ノ學校ニ學フモノタルヲ要ス但シ結婚シタル時ハ特別入國者タル資格ヲ失フモノトス)

乙、移民ノ部類ニ屬セサルモノ

(イ) 官吏並ニ其家族、從者、奴婢及雇人

(ロ) 旅行者又ハ用務若ハ觀光ノ爲一時的ニ渡來スル者

(ハ) 米國ヲ横切リテ繼續的通過ヲナス者

(ニ) 接壤國ヲ通過シテ米國內ノ一地方ヨリ他ノ地方ニ赴ク者

(ホ) 職務ノ爲入國スル海員

(二) 前記非歩合移民トシテ入國ヲ許サル者ハ他ノ一般移民ト同シク米國領事館ノ發給スル移民許可證 (immigration certificate) ヲ所持スルニアラサレハ入國ヲ許サス

(三) 移民法規上入國スルヲ許サレサル外國海員ハ醫療ノ爲若ハ勞働長官ノ定ムル規定及條件ニ從ヒ入國ヲ許サル場合ノ外入國スルコトヲ得ス(但シ船舶碇泊中及船換ノ爲船待スル目的ニテ一時的ニ入國スルコトヲ得) 尙歸化不能外國人タル海員ヲ搭乘セシメ入國スル船舶出港ノ際此種海員ニ不足アル場合ノ處罰規定ヲ削除シ出港ノ際外國人海員數ニ不足アル場合ニ對シ處罰規定ヲ設ク

其後二月九日ニ至リ下院移民委員會ハ「ジョンソン」第二次移民法案ヲ可決スヘキモノトシテ下

院ニ報告セリ

十、「ジョンソン」宛國務長官「ヒューズ」書簡

一月二十八日下院移民委員長「ジョンソン」ハ國務長官ニ對シ「ジョンソン」移民法案ニ關スル國務省ノ意見ヲ求メ之ニ對シ國務長官ハ二月八日附ヲ以テ長文ノ回答ヲ送りタルカ其全文十三日公表セラレタリ其要領左ノ通

(一)「ジョンソン」法案第三條(二)ニ「一時的ニ用務若ハ觀光ノ爲ニ合衆國ニ渡來スル者」トアルハ短期間ノ入國ヲ目的トスル者ノミヲ意味スヘク通商條約ニ依リ入國ノ權利アル者(商人ヲ指ス)ヲ包含スルモノト解スルヲ得ス其結果同條項ハ歸化不能外國人ニ關スル第十二條(b)項ト相俟チ一面日本商人ノ入國ヲ全然禁止スルコトナルヘク日米通商條約ニ違反ス右ノ點ハ他ノ歐洲諸國トノ條約ニ付テモ同様ニ論スルヲ得ヘシ從テ予ハ第三條中ニ「條約ノ規定ニ依リ合衆國ニ入國シ得ル外國人」ノ一項ヲ附加セムコトヲ提議ス

(二) 歸化不能外國人ニ關スル規定

第十二條(b)項ハ第三、第四兩條ノ規定ト相俟チ前述ノ如ク日本商人ノ入國ヲ不可能ナラシメ通商條約ニ牴觸スルノ結束ヲ來スノミナラス右條約ノ範圍内ニ包含セラレサル移民ニ對シ入國禁

止立法ヲ設クルコトトナルヘシ此點ハ專ラ政策上ノ問題ナルカ日本國民ヲ激怒セシムヘキコト必然ナリ歸化不能外國人ニ關スル規定カ單ニ日本人ノミヲ目的トスルモノニ非スト辯疏スルカ如キハ無益ナリ何トナレハ支那人排斥法及他ノ亞細亞人ニ適用スヘキ禁止區域ニ關スル移民法ノ規定ハ依然存續スルモノナルカ故ニ(法案第二十五條)第十二條(b)項ノ實際的效果ハ日本人排斥ニ歸着スヘシ日本ハ必スヤ之ニ依リテ侮辱ヲ感シ日米關係ノ改善ニ資スルコロ大ナリシ華盛頓會議ノ結果モ爲ニ大部分水泡ニ歸スヘク震災ニ際シ日本ニ與ヘタル救援ノ如キ日本人ノ怒ヲ減スルニ足ラス日本人ノ怒ノ當否ヲ論スルカ如キハ無益ナリ最モ親善ノ關係ニアル友邦ニ對シ斯ノ如キ態度ニ出ツルハ米國ニ取リ何等得ル處ナシ歸化不能外國人ニ關スル第十二條(b)項ヲ削除シ日本移民ニモ他國同様ノ基礎ニ於テ步合ノ制限ヲ適用スルコトトセハ右步合ニ依リ入國シ得ヘキ日本移民ハ年々僅ニ二百四十六名ニ過キス從テ此方法ニ依ル時ハ紳士協約ト相俟チ移民ニ對スル旅券及移民許可證發給ニ關シ日本政府ノ有效ナル協力ヲ受ケ得ヘク更ニ日本政府ニ於テハ日本ヨリ合衆國接壤地ニ渡航スル者ノ取締ニ助力スヘキコト確實ナリ右ノ如キ措置ハ毎年二百五十名以下ノ日本移民ニ對シ二重ノ取締ヲ行フモノニシテ日本人入國禁止ヨリモ遙ニ有效ナリ予ハ入國禁止條項ノ必要ヲ認ムル能ハサルカ故ニ對外關係上之ヲ削除スルノ得策ナ

ルヲ力説ス日本政府ハ既ニ本件ニ關シ國務省ノ注意ヲ喚起シタリ

(三) 一八九〇年ノ國勢調査ニ步合ノ基礎ヲ置クノ點ニ關シ歐洲諸國殊ニ伊太利ハ之ヲ以テ同國ニ對スル差別待遇ナリト思惟シ申入ルル處アリタリ移民制限ノ必要ナルハ予ノ充分認ムル處ナルモ予ハ之ヲ適當ニ規定シ差別待遇云々ノ批難ヲ生セサル基礎ヲ發見セムコトヲ希望ス(附屬書第百八號)

右書翰譯文

予ハ移民選擇法案ニ關シ國務省側ノ勸告開示ヲ求メラレタル一月二十八日附貴翰竝ニ委員會印刷第一號「選擇移民法」ノ寫ヲ受領セリ予ハ又一九二四年二月七日貴下カ提出セラレタル下院法案第六五四〇號ノ寫ヲモ受領セルカ左ニ右法案ニ關スル予ノ所見ヲ開陳セントス
當然移民法ノ適用ヲ受クヘキ者ニ對シ移民許可證ヲ發給シ以テ現在諸種ノ難關ヲ一掃スルノ重要ナルコトハ予ノ充分諒知スル所ニシテ予ハ實ニ此政策ニ贊同スルモノナリ假ニ條約ニ違反スルコトナク又移民許可證カ當然移民ト認メラルル者ニ對シテノミ發給セラルルモノトセハ予ハ移民許可證發給ノ權限ヲ領事官ニ附與スルニ反對セス但シ領事館ニハ移民法ノ諸條項ヲ實行スルカ爲必要ナル職員ヲ適宜配置スヘキコト勿論ナリ予ノ見ル所ニ依レハ移民許可證ノ發給ハ廣義ノ領事職

務中ニ包含セラルルモノトシテ查證ト同様ニ取扱ヒ得ルカ如シ何等條約ニ違反スルコトナキニ於テハ當國ヘノ移民入國ハ米國法ノ規定ニ從ヒ移民許可證ノ發給ヲ受クルコトヲ條件ト爲シ得ヘキモ若シ特ニ移民官ヲ任命シ以テ獨立ノ機關ヲ外國ニ設置セムトセハ之ヲ適當ニ外國ニ駐在セシムルノ要アリ且移民官ハ駐在國ノ同意ナキニ於テハ職務ヲ遂行スルコト能ハサルコト勿論ナリト思

考ス
予カ移民ニ適當ノ制限ヲ設クルニ贊成ナルハ別ニ言明スルノ必要ナシ本法案ノ國際關係ニ及ホスヘキ影響ニ付特ニ國務省ノ考量シ居ル問題ハ(一)條約上ノ義務ノ問題(二)日本人排斥條項(三)一八九〇年ノ國勢調査ニ基ク步合制定ノ三トス

第一、條約 本法案ノ用語ニ從ヘハ「移民」トハ「合衆國外ノ或ル地點ヲ發シ合衆國ニ向フ外國人ヲ謂フ但シ次ノ者ハ此限ニ在ラス(一)政府ノ官吏並ニ其家族、從者、奴婢及雇人(二)一時的ニ旅行者トシテ又ハ一時的ニ用務若ハ觀光ノ爲ニ合衆國ニ渡來スル外國人(三)合衆國ヲ横切リテ繼續的通過ヲ爲ス外國人(四)適法ニ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル後同國ノ一地方ヨリ接壤外國領土ヲ通過シテ他ノ地方ニ赴ク外國人(五)合衆國ノ港ニ到着スル船舶ニ海員トシテ從業スル善意ノ外國人海員ニシテ單ニ其ノ職務ノ爲一時的ニ合衆國ニ入國セントスル者」(第三條)ヲ謂

フ

右移民ノ定義ニ從ヘハ前述ノ除外例中ニ包含セラレサル限り一切ノ外國人ハ本法案所定ノ制限ニ服スヘキ結果トナル茲ニ問題トナルハ前述ノ除外例ニ包含セラレサル者ニシテ而モ現行條約ノ下ニ入國ノ權利アル外國人アリヤ否ヤノ點ナリ

一九一一年締結日米條約第一條ハ左ノ如ク規定ス

兩締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ到リ旅行シ又ハ居住シ卸賣又ハ小賣商業ニ從事シ家屋、製造所、倉庫及店舖ヲ所有又ハ賃借シテ之ヲ使用シ自ラ選擇セル代理人ヲ雇使シ住居及商業ノ目的ノ爲土地ヲ賃借シ其ノ他一般ニ商業ニ附帶シ又ハ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトニ付其ノ國ノ法令ニ遵由スルニ於テハ內國臣民又ハ人民ト同一ノ條件ニ依リ之カ自由ヲ享有スヘシ

本法案中ニハ一九二一年步合法第二條(a)項(五)中ニ規定セララルル如キ除外例無キカ如シ依テ本件制限ハ日本ニ對シテハ單ニ日米條約ノ範圍内ニ屬セサル勞働者又ハ其ノ他ノ者ニ適用セララルルノミナラス前掲日米條約ノ條項中ニ包括セララルル者ニ付テモ適用ヲ見ルヘシ

一八一五年英米條約、一八二六年米丁條約、一八二七年米諾條約、一八七一年米伊條約、一九〇

二年米西條約ニ付テモ亦同様ニ論スルヲ得ヘシ(「マロイ」氏著條約集參照)第四條(C)項ノ規定アルニ鑑ミ「ラテン」亞米利加諸國ト米國トノ條約中ニモ前掲條項ト同様ノモノ存スルモ之カ引用ヲ省略セリ

本法案ノ「移民」ニ關スル定義ニ照スニ本法案ノ制限ハ條約ノ規定ニ牴觸スルモノト思考ス「一時的ニ用務若ハ觀光ノ爲ニ」合衆國ニ渡來スル外國人ニ關スル第三條(二)所定ノ例外ハ恐ラク曩ニ予ノ引用セル條約上ノ要求ヲ充タスモノニ非サルヘシ蓋シ該字句ハ通商條約ノ容認スルヨリモ更ニ短期ノ滞在ヲ意味スルカ如ク而モ條約ニ依リ確立セラレタル權利ハ苟モ條約ノ有效ナル限り之ニ違反スルコトナクシテハ毀損セラルヘキモノニ非ス仍テ予ハ茲ニ本法案第三條中ニ更ニ左ノ例外ヲ附加セムコトヲ提議ス

「條約ノ規定ニ準據シ合衆國ニ入國シ得ル外國人」

予ハ更ニ條約ノ規定ノ下ニ商業ヲ營ムノ目的ヲ以テ合衆國ニ入國、居住シ得ル者ハ移民ニ關スル制限ヲ加フルノ必要ナキヲ附言スヘシ

第二、第十二條(b)項ハ左ノ如ク規定ス

歸化不能外國人ハ左ノ場合ヲ除キ合衆國ニ入國スルヲ得ス

(一) 第四條(b)(d)若ハ(g)項ノ規定ニ依リ非歩合移民トシテ入國シ得ル者 (二) 前記(d)項ニ依リ入國シ得ル移民ノ妻又ハ十八歳未満ノ未婚ノ子ニシテ該移民ニ同伴シ又ハ呼寄せラレタル者 (三) 第三條ニ定メタル移民ニ非サル者

本規定ノ效果如何ヲ判定スルニハ第四條(l)項ハ「前ニ適法ニ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル移民ニシテ一時外國ニ赴キタル後歸還スル者」ニ關シ同條(d)項ハ單ニ「何レノ宗派タルヲ問ハス布教師ノ職又ハ「カレッジ」、「アカデミー」、「セミナリー」又ハ「ユニヴァーシティ」ノ教授ノ職」ニ從事スル目的ヲ以テ合衆國ニ入國セムトスル移民ニ關シ更ニ同條(g)項ハ善意ノ學生ニシテ勞働長官ノ認可セル公認ノ「カレッジ」、「アカデミー」、「セミナリー」又ハ「ユニヴァーシティ」ニ於テ勉學ノ爲合衆國ニ入國セムトスル移民ニ關スルモノナルコトニ注意スルヲ要ス

第十二條(l)項ハ本法第三、第四兩條ト相俟チ日本人ヲ排斥スルノ結果ヲ生スルコト明白ニシテ右ハ前掲一九一一年條約ノ規定ニ牴觸スルニ止ラス更ニ條約ノ適用ヲ受ケサル移民ニ關シ法律上ノ入國禁止ヲ設定スルモノトス

入國禁止立法ハ一ノ政策問題ナリ右ノ如キ立法カ日本國民ヲ激怒セシムヘキコト疑ヲ容レス本法案(第二十五條)ハ支那人ノ移住取締ニ關スル現行法規及亞細亞中支那以外ノ一定區域ヨリノ移住

ヲ禁止セル我移民法中ノ禁止區域規定ノ效力ヲ存續セシムルモノナリトノ理由ヲ以テ前掲規定カ日本人ヲ對象トセルモノニ非スト主張スルモ斯カル主張ハ全ク無益ノコトナルヘシ第十二條(b)項ハ實際上日本移民ノミヲ排斥ノ目標トスル結果トナルヘシ日本人ハ元來敏感ナル國民ナルヲ以テ此ノ種立法ヲ以テ其ノ面上ニ烙印ヲ加ヘタルモノト思惟スヘキコト疑ヲ容レス予ハ右ノ如キ立法行爲ハ日米關係改善ニ大ニ力アリタル軍備縮少ニ關スル華盛頓會議ノ事績ヲ無ニスルニ至ルヘキヲ信スル旨言明スルノ已ムナキヲ遺憾トス曩ニ日本ノ震災ニ際シ罹災民救助ノ爲米國人ノ示シタル仁俠ハ本法案制定ノ結果生スヘキ日本國民ノ激昂ヲ輕減スルニ足ラサルヘシ何トナレハ右ノ如キ立法ハ如何ナル慈善行爲ヲ以テスルモ到底緩和シ得サル侮辱ト目セラルルヲ以テナリ實ニ此ノ感觸カ正當ナリヤ否ヤヲ論議スルハ無用ニシテ單ニ斯ル感觸ノ生スヘキコトヲ言フヲ以テ足ル現ニ這般ノ消息ハ日本ニ於ケル本法案ニ關スル論議中ニ之ヲ認メ得ヘク如何ニ論議ヲ重ヌルモ之カ除去ニ資スル處ナカルヘシ

茲ニ吾人ノ逢著スル問題ハ吾人カ最モ親善ナル關係ヲ維持シ來レル友邦ヲ斯ク侮辱スルコトカ果シテ得策ナリヤ否ヤ竝ニ右ノ如キ行爲ヨリ得ヘキ利益如何ノ點ナリ予ハ本法起案ノ目的ニ對シテハ右立法ハ全然不必要ナルモノナル事ヲ提言セムトスルモノナリ第十二條(b)項ノ規定ヲ削除シ本

法案第十條所定ノ步合ヲ日本ニ適用スルコトトセハ右步合ノ下ニ入國シ得ヘキ日本移民ハ僅ニ二百四十六名ニ過キサレヘシ而シテ右ノ數ハ一八九〇年ノ國勢調査ニ基ク在米日本人數ノ二「パーセント」ニ二百ヲ加ヘタルモノニ等シ勿論其他ニ非步合移民ノ入國ヲ見ルヘキモ若シ第四條ノ規定アルカ爲不當ニ入國者數ヲ増加スル虞アル場合ニハ別ニ日本人ヲ目的トスル差別的立法ヲ制定セスシテ該規定ヲ變更スルコト可能ナリ吾人ハ現ニ日本政府トノ間ニ一ノ了解ヲ有シ日本ハ右了解ニ基キ合衆國在住者ノ親及妻子ヲ除キ日本勞働者ノ合衆國移住ヲ阻止シツツアリ更ニ日本政府ハ右了解ニ附隨シ合衆國ニ密入國スル虞アル者ノ日本出國ヲ防止スルノ目的ヲ以テ合衆國接壤地ニ對スル移民ヲモ取締リツツアリ

若シ第十二條(b)項削除セラレ合衆國行移民ニ發給セラルル許可證ニ關スル規定ヲ日本ニモ適用シ得ルコトトセハ吾人ハ日本政府トノ現存了解ニ依リ旅券及移民許可證發給ニ付日本官憲ノ積極的協力ヲ求ムルヲ得ヘク更ニ日本政府カ日本ヨリ合衆國ニ接壤スル領域ニ渡來スヘキ移民ノ審査及取締上協力スヘキコト確實ナリ

右ノ如キ措置ハ毎年二百五十名ヲ出テサル日本ノ步合移民ニ對シ二重ノ取締ヲナスモノニシテ南北ノ長キ國境線ニ互リ日本臣民ニ對シ障壁ヲ築造シ以テ其合衆國及隣接領域ヘノ移動ヲ取締ルニ

方リ吾人カ日本政府ノ協力ナクシテ自ラ之ニ當ルヨリモ遙ニ有效ニ日本移民中同化シ難ク且好マシカラサル者ノ取締ヲ爲スヲ得ヘシ

予ハ入國禁止規定ノ必要ヲ認ムル能ハサルト共ニ同規定ヲ削除スルハ我對外關係上得策ナルコトヲ貴下ニ力說セサルヲ得ス日本政府ハ既ニ本件ニ關シ國務省ノ注意ヲ喚起スル處アリタルカ議會ノ本件ニ關スル態度如何ハ實ニ深甚ナル利害關係ヲ有スルモノト言フヘシ

第三、殘ル問題ハ步合制限ノ基礎トシテ一八九〇年ノ國勢調査ヲ採用スルノ問題ナルカ本件ニ付テハ既ニ歐洲諸國殊ニ伊太利ヨリ申入ノ次第アリ同國ハ右基礎ノ選定ヲ以テ同國ニ對スル差別待遇ト看做シ居レリ一九二三年十二月三十一日予ハ貴下ニ宛テ伊國大使カ國務省ニ提出セル覺書ヲ通報シタルカ予ハ貴委員會カ之等ノ申入ヲ慎重考慮セラルヘキヲ確信スルカ故ニ茲ニハ此上事實ノ説明ヲ爲ササルヘシ移民制限ノ必要ナルハ予ノ充分ニ認識スル處ナルモ之ヲ適當ニ規定シ差別待遇云々ノ批難ヲ招カサルヘキ基礎ヲ發見シ得ラレムコトヲ切望ス

前述ノ諸問題ニ附加シ予ハ次ノ點ニ付貴下ノ注意ヲ請ハムトス

本法案第四條(c)項ハ英國「ホンデユラス」竝ニ英、佛、蘭領「ギアナ」ヨリノ移民ニ關シ何等規定ナキカ如シ蓋シ右地域ハ法案ノ所謂「中央又ハ南亞米利加諸國」ニアラサルカ如ケレハナリ

第一一條(a)項)又「ハイチ」、「ドミニカ」共和國、英、佛、蘭領西印度諸島、聖「ピエール」、「ミケエロン」及「グリーンランド」ニ對シ規定スル所アリヤ第四條(c)項ニ明ナラス

第四條(c)項ハ明記セラレタル諸國ノ住民ニノミ適用セラル而シテ該諸國ニ生レタル者及其市民ニシテ國外ニ居住スル者ニ對シ何等規定スル所ナキニ注意スルヲ要ス第十一條(a)項ニ依レハ本法ノ適用上國籍ハ出生國ニヨリ決ストアルニヨリ前記ノ者ハ出生國ノ國籍ヲ有スルモノトシテ取扱ハルルモ而モ非步合移民トシテ入國シ得サルカ如シ故ニ此種ノ者ヲモ包含スル様步合ヲ定ムルコト必要ナルカ法案ノ精神果シテ茲ニ在リヤ明カナラス他方ニ於テ彼等モ第四條(c)項ニ列記セラルル者ト同様「非步合移民」トシテ入國シ得サルノ理ナシ故ニ予ハ第四條(c)項ヲ左ノ如ク修正セムコトヲ提言ス

(c)加奈陀、「ニューファウンドランド」、墨西哥共和國、玖瑪共和國、「ハイチ」共和國、「ドミニカ」共和國、中央若ハ南亞米利加諸國及中央亞米利加、南亞米利加、西印度諸島又ハ亞米利加大陸ニ近接セル他ノ島嶼ニ於ケル歐洲諸國ノ植民地並ニ屬領ニ生レ又ハ合衆國入國出願直前少クトモ十年間繼續シテ前記ノ地域ニ居住シタル移民並其ノ同伴又ハ呼寄せタル妻及十八歳未満ノ未婚ノ子

第六條(e)ニヨレハ移民許可證願書其ノモノハ移民許可證ニ添付セラルルニ依リ右書類ハ移民許可證ト共ニ外國人ニ與ヘラレ合衆國ノ到達港ニ於テ移民官吏ニ交付セラルルヲ要スルノ事實ニ付予ハ貴下ノ注意ヲ喚起セムトス之カ爲政府ニハ願書ノ寫ナク又移民許可證ノ發給セラレタル事情ニ付何等ノ記録ナキコトトナル從テ許可證喪失ノ場合虚偽ノ陳述アリタル時訴追スルカ爲願書ノ寫ヲ必要トスル場合又ハ許可證カ移民ノ所持中ニ變更セラレタル場合等ニ不都合ヲ生ス故ニ予ハ移民許可證下附願書ノ寫ハ領事館ノ記録ニ保存セシメムコトヲ希望ス

第八條(c)項ハ移民總監ハ願書記載事項ノ眞實ナルコト及出願者ニシテ非步合移民トシテ合衆國ニ入國スル資格アルコトヲ認メタルトキハ國務長官ヲ經テ領事官ニ移民許可證ヲ發給スルコトノ權能ヲ付與スヘシト規定ス予ハ領事官ヲ引續キ國務省ノ指揮監督ノ下ニ置クコト必要ナリト思考ス右監督權ハ領事官カ關係外國政府ヨリ受ケサルヘカラサル承認ヲ得ムカ爲メ必要ナルモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ他ニ移管セムトスルハ蓋シ本項ノ精神ニ非サルヘシト解ス

予ハ第八條(e)項ノ修正問題ヲ未然ニ避ケムカ爲同項ヨリ「移民總監ハ國務長官ヲ經由シ移民許可證ノ出願ヲ受ケタル領事官ニ移民許可證發給ノ權能ヲ付與スヘシ」トノ字句ヲ削除シ左ノ字句ヲ加ヘムコトヲ提言ス

移民總監ハ其ノ決定ヲ國務長官ニ報告スヘシ國務長官ハ移民許可證ノ出願ヲ受ケタル領事官ニ移民許可證ヲ發給スルコトノ權能ヲ付與スヘシ

第十一條(a)項ニ關シ予ハ現行歩合法ノ下ニ「合衆國ノ國勢調査ニ於テ各別ニ計算セラレタル植民地若ハ屬領ヲ別箇ノ國トシテ取扱フモノトス」トアルハ英帝國內ノ自治領土タル濠洲ニ別箇ノ歩合ヲ許與セリト認ムルニ充分ナリヤ否ヤニ付問題ヲ惹起セルコトヲ述ヘムトス此疑問ヲ除去セムカ爲予ハ第十四頁第十七行中 countries (國)ノ次ニ the self-governing dominions (自治領)ナル文字ヲ附加セムコトヲ提言ス

第十一條(a) (一)ニハ非合衆國出生ノ外國人タル父又ハ母ニ帶同セラルル非合衆國出生ノ二十一歳未滿ノ子ノ國籍ハ其父又ハ母カ移民許可證ノ發給ヲ受クル資格アルトキハ父又ハ母ノ出生國ニ依リテ之ヲ定ムトアル處二十一歳未滿ノ子カ兩親ニ帶同セラルル場合其國籍ハ父ノ出生國ニ依リ定ムヘキヤ母ノ出生國ニ依リ定ムヘキヤ明瞭ナラス故ニ予ハ次ノ條項ヲ附加セムコトヲ提言ス

若シ二十一歳未滿ノ子カ兩親ニ帶同セラルル場合ニハ其國籍ハ父ノ出生國ニ依リ之ヲ定ム

第十一條(a)項(二)ニ關シ本條ニ依レハ歩合移民許可證ト看做ス可カラス又非歩合移民許可證トシテ發給セラレタルモノニモ非サル移民許可證アルヘキコトヲ指摘セムト欲ス此種許可證ノ發給ハ

領事官ノ發給スヘキ移民許可證ノ數ヲ按配スルニ付困難ヲ生スルノ虞アリ故ニ此點ニ關シ予ハ本法律中ニ更ニ明確ナル規定ヲ設クルノ必要アリト信ス

第十一條(b)項ハ現行歩合法中ノ諸規定ヲ包含ス右諸規定ノ適用ニ當リ種々困難ヲ生セルニ鑑ミ予ハ本法案ニ次ノ如キ修正ヲ爲スヲ妥當ナリト信ス

第十一條(b)項(一)ハ一八九〇年以後ニ於テ外國ノ政治的國境ニ變更ヲ生シ其ノ結果トシテ合衆國ノ承認シタル政府ヲ有スル新國ニ關聯スルモ一八九〇年以後英帝國內ニ建設セラレタル新自治領ニ付規定スル所ナシ現行歩合法ノ規定ノ下ニ於テ新自治領タル愛蘭土自由國ニ對シ別個ノ歩合ヲ定ムルニ付考慮ヲ費セリ然レトモ斯ル別個ノ歩合ハ現行歩合法ノ條項ニ依リ保障セラレ居ラサルカ如シ行政上ノ理由ニ依リ若シ各自自治領ニ對シ別個ノ歩合ヲ與フルヲ得ハ便宜多カルヘシ因ニ一八九〇年ノ國勢調査ハ新西蘭土又ハ南阿聯邦ヲ各別ニ計算セサリシナリ故ニ二十五頁十八行 States 「合衆國」ノ文字ノ次ニ or in the establishment of self-governing dominions (又ハ自治領ヲ生シタルトキ)ノ文字ヲ追加スルノ必要アリト信ス

予ハ又第十一條(b)項(二)中ニ包含セラルル現行歩合法ノ規定ノ下ニ於テ一九一〇年從來其ノ地ニ主權ヲ行ヒ居タル政府ニ依リ讓渡セラレタルモ合衆國政府カ其ノ讓受國ノ正式承認ヲ爲ササル地

域ニ對スル歩合ノ制定ニ關シ問題ノ惹起セルコトヲ指摘セムトス此種問題ハ「バレスタイン」、「シリア」、「フューメ」其ノ他世界戰爭ノ結果生シタル諸植民地ニ包含セラルル地域ニ關シ起レリ此點ハ第十一條(b)項(二)ノ後ニ次ノ如キ新條項(三)ヲ追加スルニヨリ解決セラルヘシト信ス

一國カ他ノ一國ニ領土ヲ割讓セルモ其割讓カ合衆國ノ承認ヲ受ケサルトキ

予ハ又一八九〇年ノ國勢調査ハ同年合衆國ニ依リ承認セラレタル數個ノ小國ヲ各別ニ計算セサリシ點ニ付貴下ノ注意ヲ請ハムトス一九一〇年以前合衆國ノ承認セル「サン・マリノ」ニ別個ノ歩合ヲ與フルニ付現行歩合法ノ適用上同様ノ問題ヲ生セリ予ハ合衆國カ此種國家ニ對シ別個ノ歩合ヲ規定スルヲ妥當ナラシムル爲本法案十五頁第二十五行中 boundary (境界)ノ文字ノ後ニ次ノ句ヲ挿入セムコトヲ提言ス

一八九〇年合衆國ノ承認シタル國ニシテ同年ノ國勢調査ニ於テ別個ニ計算セラレサリシモノニ付テハ前記官憲ハ共同シテ國籍別人口數表ヲ作成スルコトヲ得

第十五條(b)項ニ關シ同項ハ同項所定ノ金額納付ニ充分ナル金額ヲ供託セハ船舶ノ出港ヲ許可スルコトヲ規定セリ現行法ハ同様ノ規定ヲ有シ同規定ニ依レハ外國船所有者ハ金錢供託ノ義務アリ擔保附公債證書ヲ以テ之ニ充ツルヲ得スト解釋セラレ居レリ斯ル規定ハ重大ナル事實問題ヲ包含シ

且所要ノ供託金カ極メテ多額ニ上ル場合ニ於テハ不當ノ不便ヲ生スヘシ故ニ予ハ勞働長官カ其裁量ニ依リ右金額ノ支拂ヲ確保スルニ足ル擔保附公債證書ヲ受クルヲ得トノ規定ヲ設クルコト可ナリト思考ス

第十九條(f)項ニ付テモ同様ナリ

第二十四條ニハ移民總監ハ本法ノ規定ヲ施行スルニ必要ナル細則ヲ定ムルコトヲ得但シ右細則ハ領事官ニ依ル本法ノ施行ニ關係アル限り國務長官ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムルモノトストアル處予ハ本條ニ關シ第八條(e)項ニ對スル予ノ意見ヲ參照セム事ヲ希望ス予ハ該所ニ述ヘタル理由ニ依リ右細則ハ領事官ニ依ル本法ノ施行ニ關係アル限り總監ノ勸奨ニ依リ國務長官ヲシテ之ヲ定メシムヘシトノ意見ヲ有ス

十一、上院議員「リード」提出ノ移民法案

上院議員「リード」(「ペンシルヴァニア」州選出民主黨)ハ「ジョンソン」法案カ上院ニ廻付セラレタル場合ニ對スル準備トシテ二月十二日其修正案ヲ上院ニ提出シタルカ其後十六日「リード」ハ右修正ヲ施セル移民法案ヲ自己ノ法案トシテ上院ニ提出セリ(附屬書第百九號)

「リード」案ト「ジョンソン」案トノ重要ナル差異左ノ通

- (一) 移民許可證 (immigration certificate) ヲ查證許可證 (visa certificate) ト改メ (内容ハ大體同様) 移民ハ查證許可證ノ外旅券ニ對シ他ノ查證ヲ受クルヲ要セス
- (二) 歩合移民ト非歩合移民トノ差別ヲ廢シ移民ハ一律ニ之ヲ歩合中ニ包含セシメ唯米國市民ノ家族ニ對シ查證許可證發給上優先權ヲ認ム
- (三) 歩合ハ一九一〇年國勢調査ニ依ル在米當該外國人數ノ一「パーセント」ニ二百人ヲ加ヘタルモノトス
- (四) 歸化不能外國人入國禁止ニ關スル規定ヲ設ケス
尙右法案中ニハ歸化不能外國人ニ關スル條項ヲ挿入セサル點ニ鑑ミ歸化不能外國人ニモ歩合ヲ適用スル趣旨ナリト解セラレタリ
- 十二、移民法案ニ關スル上院移民委員長「コルト」氏宛國務長官「ヒューズ」書翰
國務長官ハ移民法案ニ關シ二月十九日附書翰ヲ上院移民委員長「コルト」氏ニ寄セタリ右書翰ハ冒頭ニ於テ「ジョンソン」案中歸化不能外國人ニ關スル規定ノ日本ニ及ボス影響ニ付考慮ヲ加ヘムコトヲ求ムル旨ヲ記載シ下院移民委員長宛同長官ノ書面寫ヲ添付セリ (附屬書第百十號)
- 十三、在米大使ト國務長官ノ會見

二月二十一日在米埴原大使ハ國務長官ニ面會同長官ヨリ「ジョンソン」氏宛書翰ニ關スル我新聞論調ノ英譯ヲ示シ右ニヨリ本問題ニ對スル長官ノ態度闡明カ如何ニ我國ニ反響アリタルカノ一斑ヲ伺フニ足ルヘキ旨ヲ申陳ヘタリ

十四、加州排日諸團體ノ華府ヘ代表者派遣計畫

二月二十日桑港「エキザミナー」紙ハ國務卿及日米關係委員會カ排日條項ニ反對シ移民委員會ニ反省ヲ促シタルニ對抗シ加州「アメリカン・リージョン」(在郷軍人會)、勞働聯盟、加州農業組合及「ネイティヴ・サンズ」ノ四團體ハ十九日移民委員會ニ「ヒヤリング」ヲ要求スル趣旨ノ電報ヲ發シ尙加州檢事總長「ウエブ」勞働聯盟書記「シャーレンバーグ」(Paul Sharenberg) 及排日協會會長「マクラチー」(V. S. McClatchy) 三氏等排日派ノ主要人物ヲ華盛頓ニ派遣方畫策中ナル趣ナリキ

十五、上院移民委員會ノ上院案起草

二月二十八日上院移民委員會ハ移民法案ノ上院ニ於ケル審議ヲ迅速ナラシムル爲「ジョンソン」法案ノ下院ヨリ廻付セラルルヲ俟タス上院移民委員會ニ於テ小委員會ヲ設置シ「リード」法案ヲ基礎トシテ新法案ヲ起草セシムルニ決シタリ

右ハ上院ニ於テハ一九二三年十二月六日「ロッヂ」法案ノ提出アリテヨリ一九二四年一月十七日ニハ「スターリング」法案（「サウス・ダコタ」州選出共和黨議員「スターリング」提出）二月七日ニハ「モーゼス」法案（「ニュー・ハンブシャ」州選出共和黨議員「モーゼス」提出）二月十六日ニハ「リード」法案ノ提出アリ此四法案ヲ個別的ニ討議スレハ法案ノ審議ヲ紛糾遲滯セシムルヲ以テ移民委員會ハ小委員會ニ上院案ノ起草ヲ命シタルナリ

尙「スターリング」法案及「モーゼス」法案ハ本書ニ輯録セス

十六、移民法案ニ關スル「ジョンソン」宛國務長官「ヒューズ」書翰

國務長官ハ移民法案ニ關シ曩ニ「ジョンソン」宛ニ送レル修正意見ニ關シ三月十四日附ヲ以テ更ニ同氏ニ書翰ヲ送附シ其寫ヲ上院移民委員長「コルト」ニモ同日附ニテ送付シタリ

右書翰ハ曩ニ長官カ「ジョンソン」法案第三條中ニ附加センコトヲ提議シタル「條約ノ規定ニ依リ合衆國ニ入國シ得ル外國人」ノ一項ハ米國ノ立法權ヲ制限ストノ非難ノ爲「現行條約ニ依リ合衆國ニ入國シ得ル外國人」ト改メ差支ナキ旨通告セルモノナリ（附屬書第百十一號）

十七、上院移民委員會ニ於ケル「リード」法案ノ修正

上院移民委員會小委員會ハ三月十八日其ノ起草ニ係ル移民法草案ヲ委員會ニ報告セリ右草案ハ

「リード」法案ニ大體左ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ

(一) 非移民中 (イ) 「一時的ニ用務若ハ觀光ノ爲ニ合衆國ニ渡來スル外國人」トアリタルヲ「一時的ニ用務、勉學若ハ觀光ノ爲ニ云々」ト改メ (ロ) 「條約ノ規定ニ依リ入國スルヲ得ル外國人」トアリタルヲ「條約又ハ移民ニ關シ特ニ定メタル協約ノ規定ニ依リ云々」ト改ム

(二) 歩合ハ一九一〇年國勢調査ニヨル米國大陸在留各國人數ノ二「パーセント」トシ一國ニ對スル歩合ノ最少限ヲ百名トス

(三) 外國人海員ニ關スル條項全部削除

(四) 一九一七年移民法第九條修正ニ關スル條項全部改正

(五) 一九一七年移民法第十七條修正ニ關スル條項全部削除

尙上院移民委員會ハ三月二十七日小委員會案ヲ可決シ上院ニ報告セリ

十八、「ジョンソン」第三次移民法案下院ニ提出

下院移民委員會ハ「ジョンソン」ノ希望ニ依リ移民法案ニ關シ修正ヲ加ヘタル新法案ヲ脱稿シ三月十七日「ジョンソン」ノ名義ニテ下院ニ提出シ委員會附託トナレリ其前法案トノ主ナル相違左ノ通

(一) 移民ノ定義中非移民トシテ左ノモノヲ加ヘタルコト

現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人

(二) 步合ハ一八九〇年國勢調査ニ依ル米國生レ外國人數ノ二「バーセント」ニ百名ヲ加ヘタル數トス

(三) 第二十五條ノ最後ニ左ノ條項ヲ加ヘタルコト

外國人ニシテ本法ノ規定ニ依リ入國シ得ル者ト雖本法以外ノ移民法ノ規定ニ依リテ禁止セラルルトキハ合衆國ニ入國スルコトヲ得ス外國人ニシテ本法以外ノ移民法ノ規定ニ依リテ入國シ得ル者ト雖本法ノ規定ニ依リテ禁止セラルルトキハ合衆國ニ入國スルコトヲ得ス

十九、下院移民委員會ノ「ジョンソン」移民法案贊成報告書可決

三月二十四日下院移民委員會ハ「ジョンソン」法案ニ對スル報告書ヲ可決シ直ニ下院ニ報告シタリ前記多數報告書ハ舉證ノ責任ニ關スル條項中 individual (個人) ヲ alien (外國人) ト修正スル外原案ヲ其儘可決スヘキモノトシ日本移民問題ニ關シ約八頁ニ互リ論述シ居ル處立論論旨共ニ上院「ヒヤリング」ニ於ケル加州排日協會會長「マクラッチ」ノ所説ト略々同一ナリ(附屬書第一百二號)

尙下院「ジョンソン」移民法案報告書中日本ニ關スル主要點左ノ通

(一) 新法案ハ通商條約上入國ノ權利アル者ヲ移民中ヨリ除外スルコトニ依リ外國トノ條約ヲ擁護セムトスル國務長官ノ提議ヲ容レタルモノナリ然レトモ新法案ハ右ノ除外的規定ヲハ現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ米國ニ入國シ得ル者ノミニ限定スル趣旨ノ字句ヲ用ヒタルカ故ニ議會ニ專屬スル移民事項管理權ヲ毀損セラルル憂ナキト同時ニ日本ヲモ含ム一切ノ外國トノ現行通商航海條約ニ何等牴觸スルトコロナキヲ信ス

(二) 國務長官ハ政策問題タル歸化不能外國人入國禁止問題及一八九〇年ノ國勢調査ノ結果ニ步合ノ基礎ヲ置カムトスル問題ニ付テモ提議スル處アリタリ第一ノ問題ニ付テハ日米間ニ現存スル條約ハ米國ト他ノ外國トノ間ニ存スル條約ニ比シ其範圍廣キニ非サルヤノ疑問ヲ起サシムルモノナルカ日米通商條約第一條ハ實質ニ於テ他國トノ通商條約ニ異ナルトコロナシ尤モ日米間ニハ所謂紳士協約ト稱スルモノ存スルカ如シ右協約ハ兩國政府間ニ往復セラレタル書翰ヨリ成ルモノニシテ一個ノ文書ニ非スト承知ス合衆國大審院ハ既ニ日本其他ノ亞細亞人ヲ歸化不能ノ外國人ナリト判決シタルヲ以テ之等歸化不能外國人ヲ移民トシテ入國セシメサル條規ヲ設クルハ決シテ不當ニアラス此問題ニ對シ大ニ抗議ヲ爲シタルハ日本又ハ日本ノ爲ニ論議スル者ノミニ

シテ同シク不利益ヲ蒙ルヘキ他ノ諸國ヨリハ何等抗議ヲ受ケタルコトナシ國務長官ハ歸化不能外國人入國禁止條項ハ日米通商條約及紳士協約ニ牴觸スルトノ論據ニ依リ反對シタルヲ以テ委員會ハ右通商條約ノ關スル限り同長官ノ提議ヲ容レタリ

一九一一年ノ日米條約ハ其名稱及目的共ニ通商航海條約ニ外ナラサルカ故ニ其中ニ移民ニ關スル條項アリトセハ不當ニ挿入セラレタルモノト言フヘク議會ハ移民事項管理權ヲ有スルヲ以テ右條項ノ有無ニ關セス議會ノ有スル當然ノ權限ニ基キ行動スルコトヲ得日米條約第一條ハ故「ルーズヴェルト」大統領ノ解釋ニ據レハ日本人ニ對シ移民及定住ノ門戸ヲ開放シ從テ紳士協約ニ依リ設ケタル障壁ヲ破壞スルモノニシテ「ルーズヴェルト」氏ハ紳士協約ノ實施ニ拘ラス日本カ米國本土ニ於ケル其ノ人口増加ヲ防止シ得サル時ハ入國禁止立法ヲ實施スヘシト言ヘリ若シ「ルーズヴェルト」氏ノ右條約解釋論カ正當ナルモノトセハ今日右過誤ヲ是正スルハ適當ナル措置ニシテ本法案ハ右目的ヲ達成スルモノナリ猶右條約締結ノ際米國議會ニ於テハ該條約ハ米國ノ移民法規ヲ變改スルモノニアラストノ趣旨ヲ明ニシ又特ニ內田大使ノ附帶聲明ヲ必要トシタル事情ニ顧ミルモ右條約カ決シテ紳士協約ノ精神竝ニ運用ニ變更ヲ加フル趣旨ニアラサルコトハ察スルニ難カラス若シ果シテ紳士協約ノ眞ノ目的ヲ實現セムトスルニ於テハ本法案ノ條項

ニ反對スヘキ適當ノ論據アルマシキ筋合ナリ

(三) 本法案ト紳士協約トノ牴觸論ニ關シテハ委員會ハ協約ノ本文ヲ知ルヘキ資料ナキ爲不利ノ地位ニアルモ少ナクトモ此協約ニ依リ米國カ移民事項管理ニ關スル議會ノ專屬權ヲ日本政府ニ讓渡シタルモノナルコト丈ケハ明カナリ此事實ハ右協約ノ内容カ祕密ニ附セラレ居ルノ事實ト相俟チ本協約ノ即時廢棄ヲ至當ナラシム尙紳士協約ノ本文カ勞働省ニスラ祕密ヲ附セラレ居ルハ

誠ニ不可解ノ次第ナルカ今日迄ニ知ラレタル範圍ニテハ該協約ハ米國本土ニ對スル日本勞働者ノ入國防止及加奈陀竝ニ墨西哥ヨリノ密入國防止ヲ唯一ノ目的トナスモノト解セラル協約成立當事者タル「ルーズヴェルト」大統領ハ該協約ハ日本移民ノ一層嚴重ナル制限竝ニ米本土ニ於ケル日本人口増加ヲ防止スルヲ目的トスルコトヲ確言シ又米國ニ於ケル日本人口ノ増加ハ其經濟的競爭力及不同化性ト相俟チ人種の鬭爭ヨリ延テハ兩國間ノ葛藤ヲ惹起セシムヘシトサヘ云ヘリ右ノ意味ニ於テ該協約ノ目的ノ達セラレサリシコトハ否定ノ餘地ナク日本人口ハ移民ト出生ト密入國トニ依リ着々増加セルハ明瞭ノ事實ナリ吾人ハ紳士協約ノ遵奉ヲ高唱スル日本ノ誠意ヲ疑フモノニハアラサルモ現實ノ結果ハ如何トモスヘカラス紳士協約ノ下ニ數千ノ日本婦女ノ入國ヲ見タリ彼等ハ公然勞働者トシテ入國シ入國後ハ農業勞働者トシテ又平均五人ノ子女ノ

母トシテ二重ノ勞務ヲ爲シツツアリ寫眞結婚ノ禁止ニ依ル入國防止モ何等ノ效果ナク觀光團花嫁ナル手段按出セラレタリ更ニ密入國者ニ關スル勞働省其他ノ調査ニ依レハ數千ノ南米向日本勞働者ハ墨西哥ヨリ加州ニ入り込ミタリ紳士協約モ不正入國者追放規定モ何等密入國日本人ヲ取締ルニ足ラサル狀態ナリ

(四) 國務長官ハ一八九〇年國勢調査ニ依ルトキハ日本ノ歩合ハ極メテ少數ナルヘキカ故ニ日本ヲ同步合中ニ入ルヘキコトヲ提議シ日本ハ此解決方法ニ同意スヘキ旨述ヘタリ然レトモ此方法ハ在米日本人ヲシテ歸化法ニ牴觸スル地位ニ置クト共ニ他ノ歸化不能亞細亞人ニ比シ獨リ日本人ヲ有利ノ地位ニ置クモノナルカ故ニ吾人ノ最モ反對スル處ナリ此點ニ關シ考慮ヲ要スルハ日本ハ吾人同様自國民保護ノ爲同人種タル支那人及自國ノ版圖内ニ住ム朝鮮人ノ入國ヲモ禁止シ居ルコトナリ又日本ノ同盟國タリシ英國ノ自治領ニ於ケル日本人排斥立法ヲ看過シ南阿、濠洲、新西蘭ハ諸種ノ方法ニ依リ日本移民ヲ絶對的ニ排斥スルノ措置ヲ執レルニモ拘ラス日本ハ嘗テ之ニ抗議シタルコトナク加奈陀議會モ紳士協約ノ不結果ニ顧ミ一九二二年五月東洋移民排斥ノ爲遲滯ナク措置ヲ講セムコトヲ政府ニ要求セリ以上ノ事實ニ顧ルモ米國ハ其ノ領土ニ於ケル歸化不能外國人ノ増加ヲ甚シク寛大ニ許容シ之カ救濟手段ノ實行ヲ遲延セルコト餘リ久シキニ過

キタリ

二十、紳士協約ノ内容公表方ニ關スル在米大使宛外務大臣訓令
四月二日松井外務大臣ハ在米埴原大使宛左記訓令ヲ發シタリ

米國下院移民委員會報告等ニ鑑ルニ最近紳士協約ニ對スル誤解又ハ疑惑カ一部米國人間ニ傳ハレルハ甚タ遺憾トスル所ニシテ此上該協約ヲ祕密ニシ置クトキハ更ニ一般ノ揣摩憶測ヲ増シ日本カ移民ニ關シ利益ヲ受ケ居ルカ如キ誤解ヲ與ヘ我方ニ不利ナル結果ヲ招致スヘキカ故ニ此際同協約ノ要領竝ニ之ニ基ク政府ノ制限の措置ノ要旨ヲ大體左記ノ趣旨ニ依リ國務長官ニ通知シ且適當ノ方法ニヨリ之ヲ一般ニ周知セシムル様取計ハレタシ

- (一) 紳士協約ノ内容ハ大體幣原「モーリス」協議英文議事錄所載ノ項目ニ依ルコト
- (二) 紳士協約ノ下ニ於ケル制限の措置ニ關シテハ前顯議事錄所載ノ趣旨ヲ略記シ寫眞結婚ニ對スル取扱振ヲモ附言スルコト

(三) 紳士協約ハ勞働者ノ渡米制限ニ關スル日本政府ノ行政的措置ヲ定メタルモノニシテ移民制限ニ關スル米國ノ主權ヲ制肘スルモノニ非ス一九一七年ニ制定セラレタル現行米國移民法カ紳士協約ノ存在ニ拘ラス一般外國人ト共ニ日本人ニモ適用アルハ此事實ヲ證スルモノナリ

(四) 同協約ハ勞働者ノ渡航制限ニ關スル差別的立法カ日本ノ自尊心ヲ傷クル事大ナルヘキヲ顧念シ右ノ如キ差別的立法ヲ不必要ナラシムルカ爲制定セラレタルモノナリ爾來日本政府ハ同協約ノ目的達成ノ爲之ヲ誠實ニ遵守シ來リタルモノニシテ米國ニ於テモ此際日本ノ自尊心ヲ傷クルカ如キ差別的立法手段ニ訴フルカ如キコトナカルヘキハ日本政府ノ之ヲ信セムトスル所ナリ

(五) 同協約ハ特定ノ例外ヲ除キ一切ノ勞働者ノ米國渡航ヲ阻止スルヲ目的トスルモノニシテ今日其目的ヲ貫徹シツツアルハ日本政府ノ確信スル處ナルト共ニ政府ハ將來ニ於テモ同協約ヲ繼續實行スルノ覺悟ヲ有ス

二十一、「ショートトリッヂ」修正案

四月二日上院全院委員會ニ於ケル移民法案審議ニ際シ「ショートトリッヂ」(加州選出共和黨)ハ左ノ修正案ヲ提出シタリ

(一) 非移民中「條約又ハ移民ニ關シ特定メタル協約ノ規定ニ依リ合衆國ニ入國シ得ル外國人」トアルヲ全部削除シ「現行通商航海條約規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人」トスルコト

(二) 合衆國入國禁止ニ關スル條項中左ノ挿入ヲ爲スコト

歸化不能外國人ハ合衆國ニ入國スルヲ得ス但シ左ノ者ハ此限リニ非ス

(イ) 第三條ノ諸條項ノ下ニ非歩合移民トシテ入國シ得ル者

(ロ) 合衆國入國出願直前少クトモ二年間引續キ孰レノ宗派タルヲ問ハス布教師ノ職ニ在リシ者又ハ「カレッヂ」、「アカデミー」、「セミナリー」又ハ「ユニヴァーシテイ」教授ノ職ニ在リシ者ニシテ單ニ其職ニ從事スル目的ヲ以テ入國セムトスル移民

(ハ) 十八歳以上ノ善意ノ學生ニシテ本人ノ指定シ勞働長官ノ認可セル一定ノ「カレッヂ」、「アカデミー」、「セミナリー」又ハ「ユニヴァーシテイ」ニ入學セムトスル者

(ニ) 前ニ適法ニ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル移民ニシテ一時外國ニ赴キタル後歸還スル者

(ホ) 本條第二項ノ下ニ入國ヲ許可セラルル移民ノ妻及十八歳未滿ノ未婚ノ子女ニシテ右移民ニ同伴若ハ呼寄セラレタル者

二十二、四月十日附國務長官宛在米大使抗議書送附ト同長官ノ回答
在米埴原大使ハ紳士協約ノ要旨公表ニ關スル松井外務大臣ノ訓令ノ趣旨ヲ敷衍シテ書翰ニ認メ四月十日午後六時國務長官宛公文ヲ送付セルニ對シ國務長官ハ同日直ニ答翰ヲ寄セタルカ右ニハ大

使書翰中記載ノ紳士協約ノ要點ハ國務長官ノ了解スル所ト一致スル旨竝ニ右ハ紳士協約ノ性質及目的ニ付或ハ起リ得ヘキ誤解ヲ一掃セムトスル趣旨ナルヲ以テ彼我往復書翰寫ヲ上下兩院移民委員長ニ送付スヘキ旨ヲ記シアリ（附屬書第百十三號及第百十四號）

右國務長官宛在米大使往信譯文

千九百二十四年三月二十四日下院移民委員會第三百五十號報告中ニハ所謂紳士協約ニ關シ誤解ヲ招キ易キ事項ノ記載アルヲ以テ本使ハ日本政府力了解シ履行シ居レル該協約ノ目的及要領ヲ陳述セムト欲ス而シテ本使ハ右日本政府ノ了解シ實行スル處ハ米國政府ノ了解及實行ト一致スルモノナルコトヲ信ス

抑モ紳士協約ナルモノハ日米兩國政府間ノ一ノ了解ニシテ日本政府ハ之ニ從ヒ日本勞働者ノ米國ニ移住スルヲ防止スルカ爲自發的ニ一定ノ行政的措置ヲ採用履行シ來レリ右ハ決シテ移民取締ニ關スル合衆國ノ主權ヲ拘束スルノ意圖ニ出テタルモノニアラスシテ此點ハ千九百十七年制定ノ現行移民法カ他外國人ト同様ニ日本人ニモ適用セラルル事實ニ徴スルモ明白ナリ

兩國政府間ニ於テ最モ友好的ニ且胸襟ヲ開キテ討議ヲ盡シタル結果紳士協約ノ成立ヲ見タルハ米國ニ於テ差別的移民法制定セラルル場合ニハ自然日本國民ノ國民的感情ヲ損傷スルノ虞アリタル

カ爲ニシテ右協約ハ合衆國ニ對シ友邦ノ國民の自尊心ヲ傷クルノ虞アル事態ノ發生ヲ防止スルヲ目的トスルモノナリ

日本政府ハ自發的制限トシテ同協約ノ條項ヲ最モ正確且忠實ニ實行シ來レルカ現行日米通商航海條約締結ニ際シ公然聲明シタル如ク今後モ引續キ右協約ヲ實行スルノ覺悟ヲ有スルモノナリ而シテ日本政府ハ他方若シ米國議會ニ於テ日本國民ノ感情ヲ多大ニ損傷スルカ如キ措置ヲ執ラムトスル場合ニハ米國政府ハ必要ニ應シ之カ阻止方ヲ議會ニ勸告スルモノト確信ス

紳士協約ノ一目的ハ上述セルカ如ク同協約中ニ除外例ヲ設ケタルモノヲ除キ總テノ日本勞働者ノ米國入國ヲ阻止セムトスルモノナリ該協約ハ兩國政府間ニ交換セラレタル幾多ノ長文且詳細ナル文書中ニ包含セラルルモノナルカ一々右文書ヲ公表スルハ何等裨益スル所ナシト信スルカ故ニ其ノ主要ナル條項及實行狀況ヲ左ニ概言スヘシ

一、日本政府ハ熟練及不熟練勞働者ニ對シテハ以前ニ合衆國ニ定住セル者又ハ此等ノ者ノ兩親、妻若ハ二十歳以下ノ子供ヲ除ク外一切合衆國大陸ニ通用スヘキ旅券ヲ發給セサルヘシ旅券ノ形式ハ偽造ヲ防止スル様工夫セラレ其ノ發給ハ詐僞ヲ防遏セムカ爲ニ各種ノ探查規則ニ基キ之ヲ行フ日本政府ハ千九百十七年四月八日ノ合衆國行政命令ニ示サレタル勞働者ノ定義ヲ是認セ

二、旅券ハ外務省ノ監督ノ下ニ特ニ權限アル少數ノ官吏ノミニ依リテ發給セラルヘシ外務省ハ本件ニ關シ最高ノ監督權ヲ有シ右行政事務ヲ處理スル爲ニ必要ナル職員ヲ有ス此等職員ハ學生、商人、旅行者其他ノ者カ旅券下付ヲ申請セシ場合右申請者カ勞働者トナル虞アリヤ否ヤニ關シ十分ナル調査ヲ遂ケ且申請者カ現在ノ身分ヲ維持スルニ必要ナル資力又ハ其ノ保證ヲ有スルヲ要ストノ條件ヲ勵行セサルヘカラス申請者カ旅券ノ發給ヲ受クル資格アリヤ否ヤニ付疑アル場合ニハ當該事件ハ其ノ決定ヲ得ル爲ニ外務省ニ移牒セラルヘシ合衆國ニ定住シタルコトアル勞働者ニ對スル旅券ハ合衆國ニ於ケル日本領事官ノ證明書ノ提出アル場合ニ於テ始メテ發給セラレ當該勞働者ノ兩親妻子ニ對スル旅券ハ日本領事官ノ證明書ノ提出及日本ニ於ケル勞働者ノ家族ノ戶籍謄本ノ提出アル場合ニ始メテ發給セラルヘシ而シテ日本政府ハ詐僞ヲ防遏スル爲ニ慎重ナル最善ノ手段ヲ講ス

三、所謂寫眞花嫁ニ對スル旅券ノ發給ハ紳士協約ノ條項ニ依リ禁止セラレ居ラスト雖モ日本政府ハ千九百二十年三月一日以來之ヲ停止セリ

四、日米兩國政府ハ米國ニ入國シ及米國ヨリ出國スル日本人ニ關スル月別統計表ヲ交換ス

五、紳士協約ハ布哇諸島ニハ適用セラレスト雖該諸島ニ對スル旅券ノ發給ヲ制限スルノ方策ハ合衆國大陸ニ對スルト實質上同様ニ強行セラレツツアリ

六、日本政府ハ日本勞働者カ合衆國ニ密入國スルヲ防遏スル爲ニ合衆國ニ隣接セル外國領土ニ赴カムトスル此等勞働者ノ取締ヲ一層嚴重ナラシメツツアリ

此等ノ箇條ヲ一層要約シタルモノハ千九百八年、千九百九年及千九百十年ニ於ケル米國移民長官ノ年報中第一二五六頁、第一二一頁及第一二四五頁ニ發表セラレ居レリ

日本政府カ紳士協約ノ總テノ條項ヲ嚴守シ來レルハ上述ノ如クニシテ右ハ米國政府ニ於テ熟知セラルル所ト信ス本使ハ右ニ關聯シ出入國ニ依ル米本國ニ於ケル日本人口ノ増減ニ付米國移民長官年報中ニ發表セラレタル統計ニ付貴官ノ注意ヲ喚起セムト欲ス右報告ニ依レハ（年報中ノB表參照）千九百八年ヨリ千九百二十三年ニ至ル期間内ニ米本國ニ入國ヲ許可セラレタル日本人總數ハ十二萬三百十七名ニシテ同國ヨリ出國シタル日本人總數ハ十一萬千六百三十六名ナリ換言スレハ出國シタル者ニ比シ入國許可ヲ受ケタル者ノ増加ハ十五年間ニ僅ニ八千六百八十一名ニシテ一年平均五百七十八名ニ過キス而モ此八千六百八十一名中ニハ雷ニ紳士協約ノ條項ニ網羅セラレ居ル者ノミナラス商人、學生、旅行者、官吏等ノ如キ其ノ他總テノ種類ノ日本人ヲモ包含スルコト

ニ注意スルコト肝要ナリ米國移民當局ノ調製セル右數字ハ紳士協約ノ有效ニ施行セラレ居ルコトヲ明確ニ表示スルモノト云フヘシ勿論此ノ外ニ米國內ニ於ケル出生ニ基ク日本人人口ノ増加アルモ右ハ紳士協約又ハ移民法ニ毫モ關係ナキモノナリ

茲ニ附言セムトスルハ若シ提案カ紳士協約中ノ或ル條項ヲ改修スルヲ可トスルヤ否ヤノ問題ナリトセハ是レ自ラ別個ノ問題ニシテ米國政府カ本件ヲ討議スルノ希望アルニ於テハ日本政府ニ於テハ之ヲ辭セサルヘキハ本使ノ私カニ信スル所ナリ

更ニ本使ハ曩ニ日本政府ノ訓令ニ基キ貴官ニ表明シタルコトヲ敢テ反覆シ率直ニ述フレハ移民法案中ニ日本人ヲ國民トシテ排斥スルヲ目的トスル條項ヲ插入シ日本政府カ米國政府及國民ノ希求ニ副ハムカ爲執リ來リタル最慎重ニシテ友好的ノ努力ヲ明ニ無視シタルノ事實ノミニテモ日本政府及國民ノ感情ヲ激セシムルニ足ルモノナリ然レトモ日本政府及國民カ此ノ際隱忍維レ努ムル所以ノモノハ米國政府及國民ノ抱持スル正義及公平ノ觀念ニ鑑ミ同政府及國民ヲシテ前述ノ如キ差別的規定ヲ合衆國法律ノ一部ト成スノ要ナキヲ了解セシムヘキコト必スシモ困難ナラスト思惟スルヲ以テナリ

日本政府カ外國移民取締ニ關シテ一國ノ有スル主權ニ付云爲セムトスル意思ナキヤ云フ迄モナク

又日本人ヲ歡迎セサル國ニ向テ移民ヲ送ラムト欲スルモノニモ非ス却テ日本政府ハ本問題發生ノ當初ヨリ合衆國ノ希望セサル種類ノ日本人ノ合衆國入國ヲ有效ニ阻止セムカ爲合衆國政府ト協力シ苟モ名譽ト兩立スヘキ一切ノ手段ヲ講スルニ吝ナラサル旨ヲ表明シ充分之力確證ヲ與ヘタリ而シテ此ノ事タル米國政府ノ熟知スル所ナリ惟フニ本問題ハ日本ニ取リ便宜ノ問題ニアラスシテ主義ノ問題ナリ單ニ數百乃至數千ノ日本人カ他國ノ領域ニ入國ヲ許サルヤ否ヤノ問題ハ延テ國民感情ノ問題ヲ惹起セサル限リ何等重要ナルモノニアラス日本政府ノ重要視スル所ハ日本カ國民トシテ他國民ヨリ相當ノ尊敬及考慮ヲ受クル資格アリヤ否ヤノ問題ナリ換言スレハ日本政府カ米國政府ニ對シテ要求スル所ハ畢竟一國民カ普通他國民ノ自尊心ニ對シテ與フル所ノ正當ナル考慮ニシテ之レ實ニ文明諸國間ニ於ケル友誼的國交ノ基調タルヘキモノナリ

何故ニ米國ニ於テ下院移民法案第十二條(b)項(註)ノ如キ條項ヲ制定スルノ必要アリヤハ日本政府及國民ノ了解スル能ハサル所ニシテ恐ラク貴國政府及貴國民中本問題ヲ慎重ニ研究シタル者ニ於テモ亦之カ了解ニ苦シム所ナルヘシ

千九百二十四年二月八日附下院移民委員會會長宛貴翰中ニ指摘セラレタル如ク右條項カ日本人ヲ對象トスルモノニアラストノ主張ハ當ラス蓋シ此點ハ本條項ノ首唱者及支持者カ本條項ノ目的ニ關

シテ爲セル公表文ハ云フニ及ハス本法案(第二十五條)カ現行支那移民取締法規及支那以外一定地域ノ亞細亞ヨリ來ル移民ノ入國ヲ禁止スル移民法規中ノ排斥區域規定ヲ引續キ有效ナリトナシ居ルノ事實ニ徴シ明白ナレハナリ換言スレハ第十二條(b)項ノ目的ハ特ニ日本國民ヲ摘出シ之ニ米國國民ヨリ見テ價值ナク且好マシカラサル國民ナリトノ汚名ヲ印スルニ在ルコト明白ナリ而モ之カ法律トナリタル曉其ノ實際ノ結果ハ唯一年僅ニ百四十六名ノ日本人入國ヲ排斥スルノミ他面紳士協約ハ此ノ百四十六名ノ入國ヲ許ス以外ニ於テハ事實上日本人排斥條項ニ依リテ達セムトスル凡ユル目的ヲ達成シ居ルモノナリ從來國際的交際ニ當リ常ニ正義ト公正トノ崇高ナル主義ニ立脚シ來リタル貴國民カ毎年百四十六名ノ日本人ヲ排斥セムカ爲ニ貴國トノ友情維持ニ熱心ト電勉トヲ以テ絶エス努力シ來リシ友邦國民ノ自尊心ヲ著シク傷ケ且米國政府若ハ少クトモ行政部ノ誠意牽イテハ名譽ヲ毀損スルカ如キ手段ニ訴フルノ意思ヲ有スヘシトハ信シ難シ貴官カ從來本使ニ示サレタル信義ニ依頼シ本使ハ茲ニ最率直且友誼的精神ヲ以テ以上ヲ反覆陳述シタル次第ナリ若シ此ノ特殊條項ヲ含ム法案ニシテ成立ヲ見ムカ兩國間ノ幸福ニシテ相互ニ有利ナル關係ニ對シ重大ナル結果ヲ誘致スヘキハ本使ノ感知セサルヲ得サル所ニシテ貴官モ亦同感ナルヲ信スルモノナリ

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表ス

千九百二十四年四月十日

華盛頓日本大使館ニ於テ

塙 原 正 直

國 務 長 官

「チャールス・イー・ヒューズ」閣下

(註) 歸化不能移民排斥條項

在米大使宛國務長官回答譯文

本官ハ下院移民及歸化委員會最近ノ報告(千九百二十四年三月二十四日附報告第三五〇號)ニ關聯シ貴大使カ所謂紳士協約ノ趣旨ニ關スル貴國政府ノ了解及日本ヨリ米國ヘノ移住者ニ對スル貴國政府ノ取扱及之カ目的ニ關シ陳述セラレタル四月十日附貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有ス千九百七年兩國政府間ニ交換セラレタル往復文ヨリ成立シ四年前ヨリ實施セラレタル所謂寫眞花嫁ニ關スル日本政府ノ追加的處置ニ依リ變更セラレタル所謂紳士協約ノ内容ニ關スル貴大使ノ敘述ヲ見ルハ本官ノ欣幸トスル所ナリ紳士協約ノ要點ニ關シ貴大使ノ陳述セラレタル所ハ右協約ニ關シテ本

官ノ了解スル所ト合致ス

貴翰ハ紳士協約ノ性質及目的ニ付或ハ起リ得ヘキ誤解ヲ一掃セムトスル趣旨ナルヲ以テ本官ハ貴翰寫及本官ノ此回答文寫ヲ議會兩院當該委員長ニ通達スヘシ

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表ス

千九百二十四年四月十日

華盛頓國務省ニ於テ

「チャールス・イー・ヒューズ」

日本國大使

垣 原 正 直 閣 下

二十三、「ジョンソン」移民法案下院通過

紳士協約ニ關スル垣原大使ノ抗議書及國務長官ノ答翰公表後下院ニ於ケル移民法案ノ討議ハ急速ニ進捗シ排日條項ヲ含ム「ジョンソン」案ハ十二日午後三百二十二對七十一ヲ以テ下院ヲ通過シ上院ニ廻付セラレタリ

右「ジョンソン」移民法案ニ關スル下院討議ノ模様左ノ通

歸化不能外國人ニ關スル條項ハ殆ト何等ノ討議無ク下院ヲ通過シタルカ只「バートン」(「オハイオ」州選出共和黨)ノミ發言シ大使國務長官間ノ往復文書ヲ指摘シ右條項ニ反對シ歩合ヲ日本人ニ適用スルコトノ得策ナルヲ主張シ平和維持ノ爲又米國自身ノ安全ノ爲日本ト友好關係ヲ維持スルコト絶對必要ナリ國際友好關係ノ維持ハ單ニ正義公正ノ行動ノミニ依リテ達成セラルルニ非スシテ之ニ加フルニ他國民ノ感情ヲ尊重スルヲ必要トス第十二條(b)項ハ最モ甚シキ侮辱ヲ日本ニ與ヘ且日本人入國制限ノ目的ヲ達スル爲ニハ不必要ノ條項ナリ紳士協約成立以來日本ノ執リタル行動ニ顧レハ日本人排斥論者ノ目的ハ日米間ノ友誼的解決ニ依リ達セラルヘキ事實確實ナリトテ日本カ紳士協約ヲ忠實ニ實施セル事ヲ略說シタル上此ノ協約ヲ廢棄セハ日本移民ノ取締ハ今ヨリモ一層困難ト成ルヘシト云ヒ更ニ日本大使ハ日本政府ノ感情ヲ直截ニ述ヘ又日本政府ハ日本移民ヲ歡迎セサル國ニ對シ之ヲ送ルノ意思無キ事ヲ明カニ聲明シ居レリ本問題ハ上院ニ懸案ト成リ居ル次第モアリ本員ハ敢テ下院ニ對シ右條項ノ削除ヲ請フ者ニ非サルモ茲ニ本條項ニ對スル本員ノ反對意見ヲ最強ク表明シ本法力大統領ノ手許ニ送致セラルル以前ニ右條項カ全然削除セラルルカ又適當ノ修正ヲ加ヘラレムコトヲ切望スルモノナリト述ヘタリ

二十四、四月十日附在米大使國務長官間往復書翰ト上院

四月十一日上院ニ於テ移民委員長「コルト」ノ求メニヨリ紳士協約ニ關シ塩原大使國務長官間ニ往復セル四月十日附文書全文朗讀セラルルヤ「ショートリッチ」ハ之ヲ難詰シ余ハ改メテ正確ノ事實ヲ擧ケ之ヲ駁ス可シト留保シツツ短評ヲ加ヘタルカ結局「ショートリッチ」等ノ辯駁討論ノ行ハルル以前各議員ニ於テ充分研究スル爲右書翰ヲ印刷配付スルコトナレリ

二十五、「リード」ノ歸化不能外國人入國禁止條項挿入ニ關スル言明

上院ニ於テハ四月十四日「リード」移民法案ヲ討議シタルカ「ロッヂ」ノ動議ニ依リ排日條項審議ノ爲祕密會議ニ入り約四十五分後常會ニ復シタルカ七十六對二ヲ以テ條約又ハ移民ニ關シ特ニ定メタル協約ニ依リ入國スル者ヲ移民ヨリ除外スル趣旨ノ規定ヲ挿入スヘシトノ移民委員會修正案ヲ否決シタリ次テ「リード」ハ其代リニ下院ノ「ジョンソン」案ト同様ニ「現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人」ノ字句ヲ挿入スヘシトノ修正案ヲ提議シタルカ直ニ可決セラレタリ「リード」ハ更ニ進ムテ右ノ如ク上院ノ意思カ決定シタル以上歸化不能外國人入國禁止條項ヲ挿入スルコト必要ナルヲ以テ明日更メテ修正案ヲ提出シ討議シタキ旨ヲ陳述シ其通り決定セリ

二十六、上院ノ歸化不能外國人入國禁止條項可決

四月十五日午後上院ハ「リード」ヨリ新ニ提出シタル歸化不能外國人入國禁止條項ヲ何等ノ討議ナク又投票ヲ用ヒス可決セリ右條項ハ結局「ショートリッチ」ノ修正案即チ下院「ジョンソン」法案中ノ條項ト同趣旨ノモノナリ

二十七、四月十四日上院ニ於ケル移民法案討議

四月十四日上院移民法案討議ノ模様左ノ通

(一) 劈頭「ロッヂ」(上院共和黨院內總理、外交委員長)ハ祕密會議ヲ要求シ「リード」(「ペンシルヴァニア」州選出共和黨)之ニ賛成シ動議成立シテ直ニ祕密會議ニ入り約五十分ヲ經テ常會ニ復シタリ

(二) 「ショートリッチ」(加州選出共和黨)ハ先ツ米國憲法カ移民問題ヲ議會ノ專權ニ委ネタルコトヨリ説キ起シ上院カ此問題ヲ論議スルハ其權利ニシテ且義務ナルヲ以テ何等外國ノ容喙ヲ許スヘキニアラスト述ヘ排日條項ハ條約ニ牴觸セサルノミナラス紳士協約ニモ拘束セラレス何トナレハ該協約ハ其目的ヲ達スルコトニ失敗シ其結果無効ニ歸シタルヲ以テナリ移民問題カ純然タル國內問題ニシテ國內問題ハ各國自由ニスルコトハ四國條約附屬宣言書ニモ明定ス即チ何レノ國モ自由ニ移民取締權ヲ行使シ得ヘク現ニ日本ノ如キモ朝鮮、支那、馬來、暹羅、瓜哇、印度

人等ノ入國ヲ取締リ居リ何人モ之ヲ非議スルモノナシ吾人カ移民法ヲ制定スルモ右ト同様日本側ヨリ苦情ヲ謂ハルヘキ理由ナシト論斷シ「ボラー」(「アイダホ」州選出共和黨)ハ何人ヲ移民トシテ入國セシムヘキヤハ最基本的ノ國家主權ニ屬ストテ「ショートリッジ」ニ贊成シ「ショートリッジ」ハ更ニ日本ハ其人民ノ爲ニ米國ニ於テ土地ヲ得又市民權ヲ得ムト欲シタルモ何レモ失敗ニ歸シ無差別の人種平等ヲ得ムトスルニ當リ吾人ハ極力之ニ反對ス吾人ハ平和ヲ欲シ日本ト親善關係ヲ望ムモ米國人ノ利益ヲ考慮スルコトカ先決問題ナリト述ヘタリ

(三) 次ニ「ロッチ」ハ祕密會議ニ於テ述ヘタル所ヲ略述スヘシトテ予ハ常ニ日本ニ對シテ好意ヲ有シ兩國ノ親善關係増進ノ爲全力ヲ傾注シタリ從テ今回ノ法案ニ付テモ出來得ル限り問題ヲ起ササラムコトニ努メタレトモ移民入國決定權タルヤ基本的國家主權ノ最顯著ナルモノナリ日本大使カ國務省ニ宛テタル書翰ハ大國ノ代表者ヨリ友邦ニ宛テタルモノトシテハ不穩當ト思考セラル予ハ該書翰ハ veiled threat (覆面ノ威嚇) ヲ含ムモノト謂ハムト欲ス合衆國ハ外國ノ覆面ノ威嚇ニ依テ立法ヲ左右スヘキニアラサルカ故ニ此際全世界ニ對シ何人カ入國シテ市民タリ得ルヤハ獨リ合衆國ノミ之ヲ決スルモノナルコトヲ了解セシムルコト必要ト認ム云々ト述ヘタリ

「モーゼス」(「ニュー・ハンブシヤ」州選出共和黨)ハ之ニ對シ何故ニ「覆面ノ威嚇」ナル語ヲ用ヒタリヤ外交上ノ用語トシテ grave consequences (重大ナル結果)ノ二字ハ覆面ノ威嚇ニ非ス其意義人ノ熟知スル所ニ非サヤト質シ「ロッチ」ハ人ノ此語ヲ熟知スルハ恰モ米國カ「モンロー」主義ノ侵犯ヲ can not regard with indifference (無關心タル能ハス)ト云フノ意義人ノ熟知スルニ等シ共ニ外交上ノ慣用語ナリト答ヘ更ニ日本大使ノ書翰ハ予ヲシテ修正條項ヲ支持スルコトヲ不可能ナラシムル事態ヲ惹起シタリ予ハ斷シテ外國ニ對シ米國カ移民ノ方針ヲ決定スルニ當リ威嚇又ハ讀辭ニ依リテ米國ノ行動ヲ阻止シ得ヘシト考フルカ如キ前例ヲ作ルコトニ同意スル能ハスト斷言セリ

(四) 續イテ「リード」ハ修正條項ヲ出スニ至リタル所以ノモノハ紳士協約ヲ承認シ步合法ト相俟テテ日本移民制限ノ目的ヲ完全ナラシムルニ在リタルモ今ヤ事態ハ變化シ日本移民制限ノ方法如何ハ問題トナラサルニ至レリ實ニ日本大使ノ書翰ハ「重大ナル結果」ヲ以テ吾人ヲ脅スモノニシテ此「覆面ノ威嚇」ノ故ニ予ハ排日條項ニ贊成シ移民委員會修正ニ反對スルノ已ムナキニ至リタリト述ヘ更ニ此舉ハ過去二十年間ニ於ケル外交上ノ努力ノ結果ヲ失フモノトシテ予ノ痛心ニ堪ヘサル所ニシテ予ハ實ニ深憂ヲ以テ反對ノ一票ヲ投セムトスルモノナリト結ヘリ

(五) 「スワンソン」(「ヴァージニア」州選出民主黨)ハ吾人ハ移民問題ニ關シ日本ニ對シテ讓歩ニ讓歩ヲ重ネタリ予ハ日本ニ對シ多大ノ尊敬ト好意トヲ有スルモノナルモ自國ニ對スル愛護ノ念ノ一層切ナルモノアルヲ以テ移民問題ヲ外國ノ勢力ニ依リ決定スルカ如キ行爲ニ賛成シ難シ抑紳士協約ハ結果ニ於テ米國ハ日本移民ヲ排斥セス日本自身ヲシテ排斥權ヲ行使セシムルモノニシテ此特權ハ日本ニノミ與ヘラレタル所ナリ吾人ハ日本ニ對シ敵意ヲ有セスト雖吾人ハ吾人ニ適スル排斥立法ヲ爲スノ權利アルコトヲ強調セムトス其結果ハ日本ノ誇ヲ傷クルコトナルモ若シ外國ノ威嚇ニ屈從セムカ之米國ノ誇ヲ傷クルモノニアラスヤトテ米國ノ移民入國決定權ノ確保ヲ主張セリ

右ニ對シ「キング」(「ユタ」州選出民主黨)ハ今日迄日米兩國トモ紳士協約ヲ確守シ來リタルニ今議會ニ於テ之ヲ法律ヲ以テ廢棄スルトセハ日本ハ吾人ノ行動ヲ目シテ野蠻且無禮ト爲スヘキカ故ニ寧ロ國務省ヲシテ議會ノ意思ニ基キ該協約ヲ廢棄セシムル方得策ナラスヤト反問シタルニ「スワンソン」ハ行政部單獨ニテ國際約束ヲ結フノ權限ナキコトヲ主張シ且現行移民法ノ有效期限切迫セル今日現ニ提出セラレ居ル原案ニ依テ移民問題ノ解決ヲ圖ルヲ適當ト信スル旨ヲ答ヘタリ

(六) 「ペッパー」(「ペンシルヴァニア」州選出共和黨)ハ紳士協約ハ何レノ當事國モ協約ナキ場合ニ生スヘキ結果ノ重大ヲ云爲セサルヘキ性質ノモノナリ予ハ從前其存續ニ賛成シタルモ日本大使カ其ノ抗議書ニ於テ若シ吾人カ何等適當ノ措置ヲ執ラヌムハ重大ナル結果ヲ惹起スル虞アルヲ述ヘタル瞬間ニ該協約ノ效力消滅シ何等之ニ拘束セラレサルニ至リタリト述ヘ

(七) 「ウイルス」(「オハイオ」州選出共和黨)ハ予ハ委員會ノ一員トシテ委員會ノ修正條項ニ賛成シ紳士協約ニ依リ最善ノ效果ヲ擧ゲ得ヘシト信シタリ然レトモ今ヤ日本大使ノ書簡ニ依リ新事態發生シ上院トシテハ移民問題ハ米國ノ問題ナリ外國ニ其決定權ヲ委讓スヘカラスト爲スノ外途無キニ至リタリト論シ

(八) 「スターリング」(「サウス・ダコタ」州選出共和黨)ハ今日ノ上院ノ討議ハ日本大使ノ書簡ノミニ集中シ居ルモ本末ヲ顛倒シタル議論ナリ若シ吾人カ日本移民ヲ排斥セムトセハ右排斥カ米國及米國人ノ爲ニ正當ナリトノ理由ヲ以テ排斥スヘク日本大使ノ書簡ヲ口實トシテ委員會修正條項ヲ否決スヘキニ非ス予ハ又日本大使ノ書簡ニ依リ紳士協約カ廢棄セラレタリトノ論ニモ賛成スルヲ得ス該書簡ハ寧ロ米國ノ該協約廢棄ニ對スル強キ抗議ト見ルヘシ予ハ大使ノ書簡ハ他ノ議員ノ云フカ如キ意味ヲ有スルモノト考ヘス語調或ハ強キ箇所アラムモ非禮又ハ反抗的ノモ

ノト考フルヲ得ス大使ハ移民法ヲ制定スル合衆國ノ主權ヲ承諾シ只差別的待遇ニヨリ蒙ムル事アルヘキ日本國民ノ自負心及感情ニ言及シタル迄ノ事ナリ予ハ大使ノ言中如何ナルモノモ兩國間ノ戰爭又ハ敵對行爲ヲ寓意スル「覆面ノ威嚇」ト解釋スルヲ得ス大使ハ consequences (結果) ニ言及シタルモ若シ吾人カ不必要ナル行動ヲ敢テシ自負心強キ國民ヲ疎スルニ於テハ consequences (結果) カ grave (重大) ト成ルハ當然ナリ人或ハ曰ク我太平洋沿岸ハ脅威ヲ受ケツツアリト然レトモ予ハ曾テ此種ノ脅威アリタリト考ヘラレス寧ロ脅威ハ年毎ニ減少シ日本ノ侵入ヲ怖ルル理由ハ益々乏シクナリツツアリト信ストテ紳士協約ノ取極ヲ引用シテ其立證ニ努メ一九一三年ノ加州土地法ニ言及シ如何ニ其制定カ米國政府ニ懸念ヲ與ヘタルカヲ述ヘ加州ニ於ケル日本人ノ土地所有カ抑々何ノ脅威ソ僅ニ加州耕地面積ノ一分六厘カ日本人ニ依リテ耕作セラレ其ノ所有面積ハ一「バーセント」ノ十分ノ一以下ニ過キス而モ州法ノ結果之以上増大ノ虞ナシ爰ニ於テカ西部沿岸諸州ノ受クル日本ヨリノ脅威ト排日ノ結果平和通商兩國親善關係ニ及ホスヘキ脅威トヲ比較シ何レカ重大ナリヤ紳士協約存續スルトスルモ步合制限ノ結果一年ノ日本人入國數ハ一四六名ニ過キス一億一千萬ノ人口ヲ有スル米國カ此ノ少數ノ日本人ノ勢力ニ對抗スルヲ得スト言フカ如キ事アルヘカラストテ埴原大使書簡中ノ數節ヲ引用シ折角是迄築キ

上ケタル兩國間ノ親善關係ヲ水泡ニ歸セシムルノ愚擧ヲ難詰シ加州ニ於テスラ重大ナラサル小事ノ爲ニ友邦ノ利益ヲ犧牲ニスルノ不得策ナル所以ヲ力說シタリ

(九) 之ニ對シ「デイル」(華州選出民主黨)ハ假令百四十六名ハ少ナルモ將來ノ影響ノ大ナルヲ思ハサル可カラス一度日本人ニ步合ヲ認メムカ懸テハ他ノ東洋人ニ對シテモ等シク之ヲ認メサル可カラサルニ至ルヘシトテ「スターリング」ノ說ヲ駁シ更ニ予ハ日本大使ノ書翰ヲ他議員ノ如ク無禮ノモノト解セス却テ之カ爲ニ移民問題カ根本的ニ解決セラレ將來同問題カ兩國間ノ爭議ニ上ラサルニ至ルヘキヲ喜フ終リニ他議員ハ常ニ加州ヲ例示セラルルモ日本人ノ脅威ヲシツツアルモノハ獨リ加州ノミナラス他ノ西部沿岸諸州モ同様ナリト述ヘタリ

(一〇) 「シエッパード」(「テキサス」州選出民主黨)ハ白色人種以外ニ歸化ヲ許ササルハ米國傳來ノ政策ナルコトヨリ說キ起シテ歸化權ニ關スル小澤ノ試訴判決ニ言及シ此傳來ノ政策ヲ變更シ又其變更ヲ誘發スルノ虞アル行動ヲ執ルヘカラサル事ヲ說キタル後日本内地ノ人口問題ニ論及シテ日本ハ其人口過剰ノ當然ノ結果トシテ海外ニ人口ノ捌口ヲ求メツツアリ吾人ハ之ニ同情ヲ禁セサルモ米國ハ外國ニ對シ人口ノ捌口ヲ供給スルノ義務ナク實際ニ於テ米國自身モ亦漸ク人口過剩難ニ面セムトシツツアリ過去ニ於テ米國ハ日本ノ感情ヲ尊重スル爲紳士協約ヲ成立セシメ

テ日本移民入國制限ノ途ヲ講シタリ日本ハ該協約ヲ遵守スト稱シツツ多數ノ移民ヲ米國ニ送りテ人口ノ捌口ト爲セリ米國諸州中ニ於テ日本土地所有禁止法ヲ實施シツツアルハ事實ナルモ尙種々ノ方法ニ依リ日本人ハ實際上土地所有ニ等シキ利益ヲ受ケ得ル事ニ成リ居レリ外交手段ニ依リ紳士協約ヲ改訂スルモ結構ナリ然レトモ之等ノ事情ニ顧レハ「ヒューズ」國務長官如何ニ大ナル外交家ナリトスルモ農事ニ關係スル日本人ノ入國ヲ絶對ニ禁止スルノ條約締結ヲ日本ニ同意セシムルコトハ不可能ナルヘシ故ニ此際米國カ卒直ニ立法手段ヲ以テ傳來ノ政策ヲ實行シ以テ兩國間今後ノ不和ヲ防止スルノ措置ニ出テナハ日本國民ハ寧ロ吾人ノ行動ヲ諒トスヘシト述ヘタリ

- (二) 「ブルース」(「メリーランド」州選出民主黨) モ予ハ國民トシテ日本人ヲ尊敬スルモノニテ其ノ排斥條項ニ投票セサルヲ得サルニ至レルハ遺憾ナルモ已ムヲ得スト冒頭シテ日米兩國人ハ既ニ双方トモ離婚ヲ快トセサル程全ク異ナリタル人種ニシテ離婚シ能ハサル人種カ同シ土地ニ平和裡ニ雜居シ能ハサルハ歴史ノ明證スル所ナリ移民問題モ日米其ノ地位ヲ轉換セハ日本ハ必ス米國ト同一ノ行動ニ出ツヘキ性質ノモノニテ排斥條項ハ何等日本ノ感情ヲ傷クヘキモノニ非ス然シテ今日ノ事情ニ顧レハ東洋人入國禁止ニ關スル米國人ノ信念ハ此際 decisive and final

manner (決定的ニシテ終局的方法) ニテ之ヲ表明スル事兩國ノ爲利益ナリト信スト述ヘタリ

- (三) 「スミス」(「サウス・カロライナ」州選出民主黨) ハ予ハ紳士協約ハ米國ヨリ日本ニ與ヘタル favor (恩惠) ト心得タルニ今回ノ日本大使書簡ノ語調ニテ聊カ失望スルモノナリト述ヘタル後移民問題ハ獨リ日本移民ノミニ限ラサルカ故ニ簡單ニ一切ノ外國移民ニ對シ我門戸ヲ閉鎖セハ我對外關係特ニ日米國交ニ不快ノ陰影ヲ投スヘシトノ懸念ヲ芟除シ得ヘシト論シ米國ノ産業乃至農業界ハ目下外國移民ノ吸收ヲ必要トセサルノミナラス米國ノ富源ハ本來米國人自身ニ依リ利用厚生ノ途ニ充テラルヘキモノナリ予ハ他ノ議員カ移民入國ノ歩合率ヲ低下スルニ依リテ之ヲ殆ト有名無實タラシメムトスルノ心理ヲ解スルニ苦シム予ハ何國ヲモ侮辱スルコトナク而モ米國ニ大利益ヲ齎ラスノ方策トシテ他日之カ改廢ノ要アル迄一律ニ外國移民ノ入國ヲ絶對ニ禁止スルノ妙ナルヲ高唱セムトス

- (三) 「ヘッフリン」(「アラバマ」州選出民主黨) ハ共和黨領袖等カ先週迄執リ來レル態度ヲ一變シテ吾人ノ主張ヲ支持スルニ至レルハ吾人頗ル清新ノ感ニ堪ヘス彼等ハ聲ヲ大ニシテ排日條項ニ反對シ其反對タルヤ之カ爲日本大使ヲシテ上院ノ形勢ヲ左右シ得ト信セシムルニ充分ナリキ然ルニ民主黨及共和黨進歩派等ノ態度漸ク强硬ト成リ形勢非ナリト見ルヤ共和黨領袖ハ遽ニ日本

大使ノ書簡ニ難ヲ付ケ以テ其態度ヲ一變セリ民主黨ハ最初ヨリ米國ノ基本權ヲ日本ニ讓與シ置ク事ノ不可ナルヲ主張シタリ排日條項ヲ支持スル爲ニハ此理由ノミニテ充分ナルニ共和黨領袖ハ何ヲ苦ンテ遽ニ日本大使ノ書簡ニ憤慨シタルカ如ク裝ヒ之ヲ口實ニ其態度ヲ一變セリヤ之全ク政略ノ爲ニアラスシテ何ソヤ共和黨ハ今ヤ西部諸州ヲ欺カントシツ、アリトテ日本大使書簡ニ對スル共和黨ノ態度ハ全ク政治的策略ニ基クモノナルコトヲ攻撃セリ

二十八、上院ノ歸化不能外國人入國禁止條項再度可決

四月十六日上院ニ於ケル移民法案討議ニ際シ歸化不能外國人入國禁止條項ハ十五日投票ニ依ラスシテ可決ヲ見タルモ該條項ハ重要ノモノナルニ付鄭重ナル手續ニ依リ決定スルコト然ル可ク依テ今一應本條項ノ採否ヲ投票ニ依リ決ス可シトノ動議成立シ投票ノ結果七十一對四票ノ多數ニテ再度可決セラレタリ

二十九、移民法案兩院協議會ニ附議

四月十八日上院ハ下院ヨリ廻附セラレタル「ジョンソン」法案ヲ採用セス上院案ヲ以テ之ニ代フルニ決シ十九日下院ハ上院案ニ不同意ヲ表シタルヲ以テ茲ニ兩院協議會ヲ開クコトナリ二十五日第一回協議會開會ニ決定セリ

右上下兩院案ハ歸化不能外國人入國禁止條項ノ實施期日ニ付規定ヲ異ニセルノミナラス（上院案ハ即時施行、下院案ハ七月一日）查證許可證、非步合移民、步合計算方法、千九百二十七年七月一日以後ニ於ケル入國移民數及ヒ外國海員等ニ關シ相當ノ差異アリ

三十、四月十日附抗議書ノ用語ニ關スル四月十七日附國務長官宛在米大使書翰及同月十八日附同長官ノ回答

埴原大使ハ四月十日附抗議書ノ用語 *grave consequences* カ米國議會ニ於テ激シキ論議ノ題目トナレルニ鑑ミ右文字ノ意義ヲ釋明センカ爲十七日附ヲ以テ左記書翰ヲ國務長官ニ送付シ國務長官ハ同十八日之ニ回答スル所アリタリ（附屬書第百十五號及第百十六號）

右國務長官宛在米大使往信譯文

本使ハ千九百二十四年四月十四日附議會議事錄ヲ閱讀スルニ四月十日附貴官ニ宛テタル本使ノ書翰寫カ上院移民委員會ニ廻付セラレ同書翰ハ上院ニ於テ論議ノ目的トナリシカ如シ

右議事錄ニ據レハ一部ノ上院議員ハ本使ノ書翰カ「覆面ノ威嚇」ヲ包含スルモノナリトノ意見ヲ表明シ且上院多數議員カ之ヲ承認セルコト明白ナリ右議事錄ニ據ルニ一部上院議員カ「覆面ノ威嚇」ナリト解釋シタルハ本使カ其ノ書翰ノ末節ニ使用シタル「重大ナル結果」ナル字句ナルカ如

キヲ以テ本使ハ茲ニ問題トナリタル字句ヲ包含セル文章ノ全部ヲ引用スヘシ

「貴官カ從來本使ニ示サレタル信義ニ信賴シ本使ハ茲ニ最モ率直且友誼の精神ヲ以テ以上ヲ反覆陳述シタル次第ナリ若シ此ノ特殊條項ヲ含ム法案ニシテ成立ヲ見ムカ兩國間ノ幸福ニシテ相互ニ有利ナル關係ニ對シ重大ナル結果ヲ誘致スヘキハ本使ノ感知セサルヲ得サル所ニシテ貴官亦同感ナルヲ信スルモノナリ」

之ヲ率直ニ述フレハ此ノ二語カ文脈上威嚇ヲ意味スルカ如ク解釋セラレ得ヘキヤハ本使ノ了解スル能ハサル所ナリ本使ハ唯提出中ノ法案中ニ一特殊條項ヲ採用スルニ依リ兩國ノ傳統的友情ニ對シ最不幸ニシテ憂慮スヘキ影響ヲ及ホスヘキヲ力說セムト試ミタルニ過キス右特殊條項ノ採用ハ兩國ノ善良且共助的關係ヲ甚シク毀損スルノミナラス過去七十五年間ノ兩國國交ノ特徵ヲ表明シ且華盛頓會議ニ依リ並我國今次ノ災害ニ當リ貴國民カ表示シタル最モ深甚ナル同情ニ依リ一層深厚ノ度ヲ増加シタル相互尊敬及信任ノ精神ヲ減殺スルニ至ルヘシ日本及北米合衆國間ノミナラス爾餘ノ世界列國ノ幸福ニ必要ナリト信セラレル兩國間ノ眞摯ナル協力ハ充分期シテ待チ得ヘキニ拘ラス若シ斯ノ如キ特殊條項採用セラレタリトセハ兩國間ノ關係ニ惡感ト疑惑トノ不幸ナル雰圍氣ヲ醸成シ又ハ少クトモ之ヲ醸成スルノ虞アルヘシ

從來日米兩國民間ニ存シタル欣フヘキ友情ノ連鎖ヲ維持シ尙ホ能フヘクムハ更ニ之ヲ緊密ナラシメムコトヲ最高義務トスル日本ノ代表者トシテ本使ハ眞摯ニ如上ノ影響カ「重大ナル結果」タルヘキヲ信スルモノナリ本使ハ唯淡白ニ右字句ヲ用ヒタル次第ニシテ勿論毫モ不快若クハ非禮ノ念ヲ傳ヘムトスル意思ヲ有セシニアラス況ンヤ「覆面ノ威嚇」ヲ加ヘムトスルカ如キ意思ニ於テヤ本使ハ却テ最モ切實ナル敬意ト信賴ト坦懷ノ精神ヲ以テ該字句ヲ用ヒタルモノナリ而シテ此ノ精神ヲ以テ起草セラレタルカ故ニ本使ハ貴官ニ宛テタル書翰ノ全文ヲ通シ右精神ノ流露シ居レルヲ希望ス斯ノ如キ精神ヲ以テ用ヒタル字句カ現在流布セラレル批難ト解釋トヲ生スルニ至ラムトハ本使ノ毫モ想像セサリシ所ナリ

本使カ毫モ米國民若ハ米國政府ノ感情ヲ害スルカ如キ原因ヲ與フルノ意思ヲ有セサリシコトハ貴官ノ既ニ熟知セラルル所ニシテ本使カ貴官ニ宛テタル書翰ヲ草スルニ當リ抱懷シ居タル精神竝本使ノ用ヒタル字句ニ依リ貴官ニ傳ヘムト欲シタル字義ニ付誤解セラルルコトナカルヘキハ本使ノ確ク信シテ疑ハサル所ナリ

然ルニ上院ニ於ケル公開討論中現レタル事實ニ顧ミ本使ハ右ノ字句ハ決シテ今回云爲セララルカ如キ意義ニ用ヒラレタルモノニアラサルコトヲ記錄ニ留メムカ爲之ヲ貴官ニ通告スルノ要アリト

感スルモノナリ

右申進ス 敬具

千九百二十四年四月十七日

華盛頓日本大使館ニ於テ

垣 原 正 直

國 務 長 官

「チャールス・イー・ヒューズ」閣下

在米大使宛國務長官回答譯文

本官ハ目下審議中ノ移民法案ニ關スル貴大使ノ最近公文ノ趣旨ニ付卒直且友誼的ニ説明スル所アリタル本月十七日附貴翰ヲ接受セルヲ欣幸トス

本官ハ「重大ナル結果」ナル文字ヲ讀ムニ當リ文脈上及貴大使カ本官トノ久シキ交誼中常ニ表示セラレタル友情ト了解トノ精神ニ鑑ミ本官ハ右ノ字句ハ當然貴大使カ陳述セラレタル意義ニ於テ解セラルヘキモノナルコトヲ毫モ疑フ所アラサリシナリ而シテ又貴大使カ毫モ何等威嚇ノ意ヲ寓シ又ハ言明セムトスルノ意思ヲ有セラレサリシモノト確信シ居タリシコトヲ茲ニ貴大使ニ確言シ

得ルヲ欣幸トス尙本官ハ貴大使カ常ニ日米兩國民ノ最モ親善ナル關係ノ増進ヲ念トセラルルヲ大ニ多トスルモノナルコトヲ茲ニ附言スルコトヲ欣幸トス

右申進ス 敬具

千九百二十四年四月十八日

華盛頓國務省ニ於テ

「チャールス・イー・ヒューズ」

日 本 國 大 使

垣 原 正 直 閣 下

三十一、移民法案ニ對スル大統領ノ態度

四月二十五日大統領「ク्रीリッヂ」ハ新聞記者トノ會見ニ於テ排日論者ヲ満足セシムルト共ニ日本ニ侮辱ヲ與フルコトヲ避クル方法ニ依リ移民問題ヲ解決セムト努力ヲ試ミツツアル旨ヲ聲明シタルカ諸新聞ノ華府通信ハ同日大統領カ「ロッチ」、「ベッバー」、「コルト」ノ諸氏ヲ招キ其所見ヲ聞キタルコトヲ報道シ種々ノ觀測ヲ下シタルカ「ホワイト・ハウス」、國務省何レモ右方法ノ如何ニ付固ク沈黙ヲ守レリ

四月二十五日大統領ノ新聞記者ニ對スル聲明後二十六日迄ハ單ニ上院領袖ト其意見ヲ交換シタルニ止マリシモ大統領ハ二十八日朝兩院協議會下院代表「ジョンソン」ヲ招致シ次テ上院代表「リード」モ再ヒ官邸ニ赴キ國務長官モ亦之ニ參加協議セル由ナルカ右ハ拒否ニ依ラス何等カ兩院トノ了解ヲ遂ケタル後外交手段ニ依ル解決方法ヲ執ラムトスルニ非サヤト觀測スルモノモアリ或ハ移民法案ハ其儘通過セシムルモ排日條項ニ付テハ其施行期ヲ延期スルカ又ハ施行期ヲ定メス其間ニ外交手段ニ依リ本件解決ノ餘地ヲ殘スカ如キ案ヲ考究スヘシト傳フルモノモアリタリ

三十二、「ジョンソン」法案ニ關スル國務省ノ見解ト帝國政府ノ見解

曩ニ二月八日附ヲ以テ國務長官カ「ジョンソン」ニ對シ「ジョンソン」移民法案ニ對スル國務省ノ見解ヲ表示セルコトハ第二節九ニ詳述セル處右回答ニ依レハ國務省ハ一九一一年日米通商條約ハ單ニ商業ノ爲ニ入國スル者ニ對シテノミ保障ヲ與フルニ過キスト解釋セルモノノ如ク同條ニ對スル帝國政府從來ノ解釋ト一致セサルモノアルヲ以テ帝國政府ニ於テハ埴原大使ヨリノ電照ニ對シ四月二十八日左記ノ趣旨ヲ回訓セリ

(一) 帝國政府ニ於テハ條約締結當時日本ニ於テ作成シ御批准ノ上公布セラレタル條約譯文ニ據ルモ明白ナルカ如ク同條約第一條ハ單ニ商人ノミナラス勞働者ヲ包含スル一切ノ締約國民ノ往來

居住自由ノ原則ヲ定メタルモノト解釋シ來レルモノニシテ (イ) 該條約ノ文理解釋ニヨルモ入國旅行滞在ノ自由ト商業遂行ノ自由等トヲ對立セシムルコト妥當ナルノミナラス (附屬書第百二十二號參照) (ロ) 若シ現行條約ニシテ締約國民ニ對シ通商ノ爲ニスル入國ノミヲ指スモノトセハ同條約締結ノ際舊條約第二條末段ヲ削除シ其ノ代リニ帝國政府ニ於テ移民制度ニ關スル宣言ヲ爲シタル經緯ヲ説明シ得サルヘク又 (ハ) 日本ニ於テハ小村條約改正以後通商條約中ニハ一般日本臣民ノ入國居住旅行ノ權利ニ關シ少クトモ最惠國待遇ヲ保障スルノ規定ナキ限り之ヲ締結セサル方針ヲ採リ現ニ右方針維持上濠洲、南阿、波斯、「ウルグアイ」等トハ未タ條約關係ヲ設定スルニ至ラサルナリ

(二) 現行日米條約締結ノ際日英條約ノ如キ形式ノ日本政府提案ヲ米國ニ於テ採用シ得サリシ理由ハ米國ト列國トノ間ニ日本政府提案ノ如キ條約存セサリシカ爲日本ニ對シテモ他外國トノ條約ト等シキ條約ノ外締結スルコト困難ナリト云フニ存シ決シテ日本國民ニ對シ差別待遇ヲ爲シ得ルノ餘地ヲ留保セムカ爲ニアラサリシコトハ當時米國政府交渉委員ノ言明セル所ナルト共ニ同條約批准ニ關シ當時施行中ノ移民法トノ關係ニ付日本政府ノ了解ヲ求メ來リタル場合ノ公文中文ニモ右移民法中ニ差別待遇ナキニ付日本政府ニ於テ異議ナカルヘキヲ指摘セル事情ニ徴シ明白

ナリ從テ現行條約ハ何等移民ノ入國ニ關係ナシトスル解釋ハ到底之ヲ容認スルコトヲ得ス

(三) 尤モ米國政府ニ於テモ既ニ現行「バーネット」移民法制定ノ際本邦側ノ條約違反論(附屬書第五十七號)ヲ是認シ一切ノ點ニ付日本國民ニ對シ差別的規定ヲ削除シタル事實ニモ顧ミ此點ニ關スル帝國政府ノ見解ヲ充分承知シ居ルモノト確信スルニ付當方ニ於テハ今日事新シク條約解釋問題ニ付論議ヲ試ミントスルモノニアラサレトモ排日條項カ明カニ條約違反ナルニ不拘之ヲ不問ニ附スルコトハ對内關係ニ於テモ對外關係ニ於テモ到底出來難キコトナルノミナラス大統領ニ於テ移民法案ヲ否認スル際條約違反ヲ理由トスルヲ便トスルコトアルヘキニヨリ可然覺書ヲ作成シ適當ノ時期及方法ニ於テ國務省ニ申入ルルコトトスヘシ

依ツテ五月一日在米埴原大使ハ國務長官ニ面謁ノ上此際條約問題ニ關シ論議ヲ試ミントスル意思ナキコトヲ前置シタル上日米通商條約第一條カ一般締約國民ノ往來自由ノ原則ヲ定メタルモノナリトノ帝國政府ノ見解ニ付同長官ノ一考ヲ煩ハシタキ旨ヲ述ヘタルニ同長官ハ凡ソ一國民ノ永遠的構成分子ヲ爲スヘキ外國移民ヲ制限スルコトハ國家固有ノ主權ニ關シ條約上明確ナル規定ナキ限り之ヲ制限シタルモノト解スヘカラスト述ヘ同長官カ排日條項ニ反對スルハ政策上ノ見地ニ出ツルモノニシテ今後モ依然右ノ見地ヨリ反對ヲ持續スルモノナリトテ條約ノ解釋ニ

關シ論議ヲ發生セサルコトヲ深ク希望スル旨述ヘタルヲ以テ在米大使ハ同長官ニ於テ飽ク迄排日條項ニ反對スルノ決意アル以上此際難澁ナル新論議ヲ惹起スルハ何等問題ノ解決ニ利スル見込ナク却テ惡影響ヲ生センコトヲ恐レ差當リ本件條約ノ解釋ニ關スル論議ニ深入リスルコトヲ避ケタリ

三十三、排日條項實施延期ニ關スル大統領ノ修正意見
其後排日條項實施延期ニ關シ大統領ハ兩院協議會ニ對シ左ノ修正案文ヲ提示シタリ(附屬書第一百七號)

「一九二六年三月一日以後ニ於テハ歸化不能外國人ハ(一)第四條(b)項(再渡航者)(d)項(布教師、教授)若ハ(g)項(學生)ノ下ニ非步合移民トシテ入國シ得ル者(二)右(d)項ノ下ニ入國シ得ル移民ノ妻若ハ十八歲未滿ノ未婚ノ子ニシテ右移民ニ同伴シ若ハ呼寄せラレタル者又ハ(三)第三條ノ定義ニ依ル移民ニ非サレハ入國スルヲ得ス但シ右諸規定ハ本法制定後合衆國カ上院ノ協賛ヲ經テ移民ノ制限ニ關シ條約ヲ締結スヘキ國ノ國民ニハ適用セス」

兩院協議會ハ右大統領ノ提議ニ從ヒ歸化不能外國人入國禁止條項ノ實施期ヲ一九二六年三月一日迄延期スルコトニ一應內協議ヲ纏メタル趣ナリシモ其後西部諸州代表者等ノ運動激烈ヲ加ヘタル

結果前議ヲ翻シテ實施期ヲ一九二四年七月一日トスルコトニ決定セリ

五月六日ニ至リ兩院協議會ハ妥協案ヲ確定シ最後ノ票決ヲ遂ケ日本移民ニ關シテハ下院案第十二條(b)項ヲ採用シ其ノ實施期日モ下院案ノ通本年七月一日ト決シタル趣ナリシ處七日午後再開審議ノ結果前記第十二條(b)項ノ末尾ニ「但シ本項ハ入國禁止ニ關シテハ一九二五年三月一日迄效力ヲ發生セサルヘク大統領ハ其以前ニ本問題ニ關スル現行協定廢棄ニ關シ日本國政府ト商議セムコトヲ求ム」トノ但シ書ヲ附スルコトニ確定セリ(附屬書第百十八號)

三十四、上院ニ於ケル兩院協議會案討議

五月八日上院ニ於ケル排日條項延期ニ關スル討議ノ模様左ノ通

(一)「キング」(「ユタ」州選出民主黨)ハ予ハ此際黨派觀念ヲ離レテ大統領ヲ支持スルコトカ國家ノ利益ニ合スルモノト考フルヲ以テ協議會案カ議題トナラハ之ニ贊成セサルヲ得スト述ヘ更ニ協議會ノ報告カ紳士協約ヲ認ムル條項ヲ含ムヤトノ「マッケラー」(「テネシー」州選出民主黨)ノ質問ニ對シ紳士協約ハ行政部カ廢棄ノ手續ヲ執ラサル限リ排日條項カ效力ヲ生スル迄即チ協議會案ニ依レハ來年三月一日迄有效ナリト答ヘタリ

(二)「ロビンソン」(「アーカンサス」州選出民主黨)ハ協議會案ハ移民問題ヲ國際間ノ商議事項ト

スルモノニシテ何人ヲ合衆國ニ入ラシムヘキヤハ純然タル國內問題ナリトスル米國政府從來ノ主張ヲ拋棄スルモノナリ若シ一度日本ニ移民條件ヲ定ムル權利ヲ認ムルニ於テハ忽チ他ノ諸國ヨリ同一權利ノ要求續出スルニ至ルヘシト論シ之ニ對シ「リード」ハ協議會案ハ決シテ日本ニ對シ斯ル權利ヲ附與スルモノニ非ストテ「ロビンソン」ト問答ヲ重ネタリ

(三)「ボラー」(「アイダホ」州選出共和黨)ハ排日條項延期ノ結果六十七名内外ノ日本人カ入國スト謂フカ如キハ問題ニ非ス最重要ナルハ第一ニ移民取締ニ關シ外國政府ノ容喙權ヲ認ムルコトト第二ニ協議會カ日本ニ對シ歩合主義ヲ許與シタルコトノ二點ナリト述ヘ「ロビンソン」ハ紳士協約ヲ條約上ノ義務トナシ之ヲ廢棄スルニ非サレハ法律ヲ設クルコトヲ得スト云フカ如キハ紳士協約ノ效力ヲ議會ノ立法權ノ上ニ置クモノナリト述ヘタリ

(四)「ハイラム・ジョンソン」(加州選出共和黨)ハ何レノ國ニ對シテモ認メサル移民ニ關スル條約締結權ヲ日本ニ對シテ認ムルハ重大ナル根本問題ナリト述ヘ

(五)「ロビンソン」ハ條約ノ商議ハ大統領ノ權限事項ナルヲ以テ法律ヲ以テ大統領ニ日本トノ條約締結ヲ要求スルコトハ當ヲ得サルノミナラス移民ニ關スル事項ヲ條約ヲ以テ定ムルハ重大事ナリ若シ日本カ條約締結ヲ拒絕スルカ大統領カ其政策ヲ變更スル場合ニハ如何スヘキヤト難詰

セリ

(六) 「ロヂ」(「マサチューセツ」州選出共和黨)ハ移民ノ資格ヲ決定スルハ議會ノ權限ト信スト前提シ米國ハ過去ニ於テ移民事項ヲ條約ヲ以テ規定シタルコトアルモ這ハ誤レル政策ト謂ハサルヘカラス協議會案ハ紳士協約ニ關シ大統領ニ或ル種ノ權限ヲ附與シタルカ這ハ純然タル立法行爲ニシテ議會ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ヘシト爲シ最後ニ議會ハ宜シク全世界ニ對シ議會ノミカ何人カ移民トシテ合衆國ニ入ルヘキカヲ決シ得ル旨ヲ聲明スヘシト論シタリ

(七) 「アシャースト」(「アリゾナ」州選出民主黨)ハ吾人ハ行政部ヲ苦シメムトスル意思ヲ有セス大統領ヲ苦境ニ立タシメタルハ實ニ内閣員ノ一人ニシテ新聞ノ報道ニ依レハ彼ハ自己ノ意見容レラレサル時ハ辭職スヘシト威嚇シテ兩院協議會ヲシテ無理ニ延期條項ヲ挿入セシメタル趣ナリ協議會ノ報告ハ第一ニ兩院カ既ニ否決シ去リタル事項ヲ挿入セルコト第二ニ其挿入カ外國カ何等容喙ノ權利ナキ國內問題ニ關シ行政部ノ要求ニ依リ爲サレタルコトノ二ツノ理由ニ基キ非難ニ値スト述ヘタル後協議會案ハ一黃色人種ナル東洋ニ於ケル一國家ニ對シ白色人種ニ與フル待遇以上ノモノヲ與ヘムトスルモノナリ吾人ハ英國ニスラモ移民問題ニ關シテ米國ノ法律ニ從フヘキコトヲ要求シ其他ノ歐洲諸國ニモ同様ノ要求ヲ爲セルニ拘ハラヌ國務長官ノ迷妄ヨリ白

色人種ナラサル一黃色人種ニ優先權ヲ與ヘムトスト難シ日本人カ墨國方面ヨリ侵入シ來ル危險ヲ例證シテ協議會案ヲ葬リ去ルヘキコトヲ力説シタリ

(八) 「リード」ハ紳士協約ハ一九〇七年ノ移民法中ニ之ヲ承認セルノミナラス一九二一年ノ歩合法中ニモ之ヲ認メ移民ニ關スル「アグリーメント」ヲ有スル國ノ人民ハ同法ノ歩合制限ヨリ除外スル旨ヲ規定シ居リ加之「ルーズヴェルト」大統領以來歷代ノ大統領ノ下ニ於ケル各政府ハ何レモ該協約ヲ承認シ又何人モ該協約カ合衆國ノ名譽及威嚴ヲ毀損スルモノナリト思惟シタルコトナカリキ過去ニ於ケル事態既ニ斯ノ如シ然ルニ今回ノ妥協案ハ法律中ニ紳士協約ノ存在ヲ承認スルモノト云フヨリモ寧ロ法律ヲ以テ紳士協約ヲ廢棄スルコトヲ定ムルモノナルヲ以テ何レノ點ヨリ考フルモ今回ノ妥協案ニ對スル攻撃ハ何等當ヲ得タルモノニ非スト力説辯明シタルカ「ショートリッヂ」ハ若シ單ニ紳士協約ヲ廢棄スルノミナラハ本年七月一日迄ノ延期ニテ充分ナリ何ノ必要アリテ明年三月一日迄トセリヤト質問シ「ハイラム・ジョンソン」モ妥協案中ニ「現行協定廢棄ニ關シ」トアルハ何事ヲ意味スルモノナリヤ大統領ハ過般日本人入國禁止ニ贊成ナリト聲明シタルニ拘ハラス今ヤ條約締結ノ意思アルコトヲ示スニ至レルハ前後矛盾ニシテ單純ニ紳士協約ヲ廢棄スル意ナルヤ或ハ他ニ何等考慮シツツアルモノナリヤ判斷ニ苦シムトテ暗ニ

大統領ノ態度ヲ攻撃シタルカ「リード」ハ大統領ハ支那人排斥條項ト同様ノ條約ヲ日本ト締結スル意思アリタルモノナリ但シ協議會ハ右ノ如キ條約締結ノ餘地アル曖昧ノ法文ヲ非ナリトシタルカ爲之ヲ修正シ今回ノ妥協案ヲ採用シタルモノニシテ右ハ單純ニ紳士協約ノ廢棄ヲ目的トスル商議ヲ爲サシムル趣旨ナリト説明シ尙大統領カ本件ノ如キ修正案ヲ提起シタル動機ノ内主ナルモノノ一ツハ日本ノ感情ヲ顧慮スルコトナリ予ハ埴原「ノート」ヲ見合衆國ノ威嚴保持ノ爲排日立法ニ投票スルノ要アリト思惟シタルモ埴原「ノート」ニ對シテハ日本側ヨリ既ニ充分ナル辯疏アリタルヲ以テ出來得ヘクハ友好的溫和ノ方法ニ依リ排日ヲ實現スルニ如カス大統領ノ立場ハ日本ニ在ル米國宣教師ノ事業ヲ困難ナラシムルカ如キコト無ク又日米國交ヲ傷付クルカ如キコト無キ方法ニ依リ日本移民入國禁止ヲ實現セムコトヲ切望スルニアルヲ以テ政派ノ別ナク妥協案ニ贊成ヲ希望スル旨述ヘタリ

(九) 最後ニ「ショートリッジ」發言シテ移民問題ハ内政問題ナルカ若シ同問題カ條約締結權ノ範圍内ニ屬スルコトヲ認メ又ハ同問題ニ關シ何レカ一國ト協議スルコトアレハ他ノ諸國モ同種ノ要求ヲ爲スニ至ルヘクスノ如キ措置ニハ絶對ニ反對スル外ナク今回ノ妥協案ハ協議會ニ返附シ再考セシムヘキモノナリトノ趣旨ヲ述ヘタリ

尙議事規則上上院ハ何時如何ナル問題ニ付テモ論議スルコトヲ得ルニ依リ上院ハ下院ヨリ兩院協議會案ノ廻附ヲ待タス右討議ヲナセルモノナリ

三十五、兩院協議會報告書下院ニ提出

五月八日午後下院移民委員長「ジョンソン」ハ兩院協議會報告書ヲ下院ニ提出シタリ該報告書中排日條項實施延期ニ關スル説明ノ要點左ノ通(附屬書第百十九號)

我外交關係ヲ適當ニ處理スルカ爲ニハ排斥條項ノ效力發生期日ヲ多少延期スルノ必要アリト認メラレタリ本條項ニ於テ下院原案所定ノ期日ヲ八箇月延期シタルハ本問題ニ關スル我外交關係ヲ友誼的方法ニ於テ處理スルト共ニ議會カ日本トノ現存諒解ヲ特定ノ期日ニ終了セシムヘキ法律ヲ制定シタルコトヲ適當ナル外交の手續ニ依リテ通告スル爲適當ノ措置ヲ執ルコトヲ目的トスルモノナリ本條項ハ條約締結ヲ勸誘スルモノニ非ス排斥條項ハ一九二五年三月一日ニ效力ヲ生スルモノトス換言セハ排斥條項ハ今議會閉會前ニ完全ニ效力ヲ發生スルニ至ルヘク一九二四年七月一日ヨリ一九二五年三月一日ニ至ル期間ニ於テハ日本移民ハ總テノ國ノ學生、宗教家及教師ノ爲ニ設ケラレタル除外規定ノ下ニ入國シ得ル者ノ外移民法案中ノ歩合規定ニ依ル八十人ニ制限セラルヘシ

三十六、「ジョンソン」ノ兩院協議會案ニ關スル陳述書

五月八日下院移民委員長「ジョンソン」ハ左記趣旨ノ陳述書ヲ公表セリ（附屬書第二百十號）

兩院協議會ノ妥協案ハ排日條項ノ實施ヲ一九二五年三月一日迄延期シタルモ其實際上ノ效果ニ於テハ本年七月一日ヨリ直ニ之ヲ實施スルト何等異ル所ナシ即チ本年七月一日ヨリ一九二五年三月一日迄ハ日本人ニモ歩合ヲ適用スル次第ナルカ右期間中ノ日本ニ對スル歩合ハ僅々八十名内外トナリ紳士協約ハ本年七月一日ヨリ事實上行ハレサルコトナルヲ以テナリ而モ右妥協案ノ條文ハ一九二五年三月一日以後ハ排日條項カ必ス實施セラルヘキコトヲ確保スルモノナリ本年七月一日迄ニ迎妻歸米ノ目的ヲ以テ目下桑港埠頭ニ蟬集シ居ル日本人數百名アリ又四百名ノ日本人獨身者ハ五月十二日出帆ノ日本船ヲ待チ切レスシテ五月二日ノ「プレジデント・ウイilson」號ニテ日本ニ向ヒ出發セリト云フ又日本新聞ノ報スル處ニ依レハ紳士協約上入國ノ權利アル日本婦人其他加州在住者ノ親族ニシテ入米ヲ企テ居ルモノハ六千人アリトノコトナルモ本年七月一日後ハ之等ノ者ハ入國ヲ許サレサルヘシ

三十七、下院ノ兩院協議會案不承認

五月九日午後協議會報告下院ニ附議セラレ排斥條項實施期延期ニ關シ數時間ニ互ル論議アリ其結

果一一四對一五九ヲ以テ下院ハ該報告ヲ承認セサルコトニ決定シタルカ更ニ下院側協議委員ニ對シ實施延期ニ同意スルヲ許サストノ訓令ヲ與ヘテ本法案ヲ再ヒ協議會ニ附スヘシトノ動議起リ採決ノ結果一七一對一九一ニテ成立シタリ

三十八、下院ニ於ケル兩院協議會案討議

五月九日下院ニ於ケル移民法兩院協議會案審議ノ模様左ノ通

「ジョンソン」ヨリ協議會案ハ本年七月以後右條項實施迄ハ歩合ヲ日本ニ適用スルモノニシテ其間ニ入國シ得ヘキ日本移民ハ僅ニ八十名ニ過キス右協議會案ハ唯日本ニ對スル禮讓ノ爲排日條項實施ヲ八ヶ月間延期スルニ過キササルヲ以テ議會ハ此事情ヲ諒トシテ可決セムコトヲ求ムル旨力説シタルカ其間若シ議會力之ヲ否決セハ此移民法全體ハ遂ニ法律ト成ル望ミナキ事情ニアルヤノ趣旨ヲ洩シタルニ對シ議員ヨリ大統領ハ之ヲ否認スヘシト云フ意味ナリヤト質問シ「ジョンソン」ハ予ハ否認セラルル危險ヲ冒スヲ欲セサル次第ナリト答ヘテ大統領カ否認スル虞アル旨ヲ暗示シ次テ「バートン」（「オハイオ」州選出共和黨）ハ日本カ今ヤ一流ノ文明國ノ列ニアル事ヲ稱讚シ之ニ拘ラス其風俗習慣ノ懸隔ニ顧ミ吾人ハ其入國禁止條項ヲ制定セムトスルモノナルカ下院原案ノ如キ方法ニテ之ヲ實行スレハ日本國民ハ永ク其憤ヲ忘ルル事ナカル可シトテ協

議會案ノ支持ヲ力説セリ次テ「サバス」ハ本案中反對スヘキハ單ニ日本人問題ニ止マラス一九二七年後ノ歩合ニ關スル條項ノ如キ最甚シキモノナリトテ其理由ヲ説明シ本法案ハ協議會ニ返附ス可シト主張セリ次テ「レーカー」ハ大統領カ此案ニシテ容レラレスハ法案ヲ否認ス可シト云フニ等シキ事ヲ協議會委員ニ述ヘ斯クテ協議會ハ大統領ニ屈服セリ之レ大統領ノ權限外ノ行動ニシテ議會ハ正ニ行政部ニ其權限ヲ奪ハレツツアリト爲シ法案ノ協議會返附ヲ主張スルヤ「ジョンソン」ハ痛烈ニ「レーカー」ノ反省ヲ求ムル所アリタルモ「レーカー」ハ飽ク迄憲法違反ヲ論シ勞働省モ若シ大統領案通過セハ來年三月迄ニ多數ノ日本人入國ヲ見ル可キノミナラス支那人印度人モ續々入國スルノ虞アリトノ意見ヲ述ヘ次テ「ウエップ」(加州檢事總長)其他個人及諸團體ヨリノ協議會案反對電報數通ヲ朗讀シ更ニ協議會ノ經過ニ關シ最初大統領カ提出セル一九二六年延期案ハ協議會ノ否決スル所トナリタルニ拘ラス大統領ハ更ニ今回ノ案ヲ強制シテ協議會ノ決定ヲ翻ヘサシメタル内部ノ事情ヲ説明シ其憲法ニ違反スルコトヲ繰返シ力説セリ「ロングウオース」(「フロリダ」州選出共和黨)ハ移民問題ニ關シ日本ハ叱責ノ聲ヲ放タサル迄モ少クモ憂慮ノ情ヲ示セリト云フ日本ノ強大ニシテ米國ニ友誼ヲ重ネタルハ過去ノ歴史殊ニ華府會議ノ實證スル所ナリ日本ハ米國ノ貴重ナル友邦ナルト共ニ或ハ米國ノ危險ナル敵國トナラサル

ヲ保セス然ルニ何故斯ノ如キ隣邦トノ友好關係ヲ危殆ナラシメムトスルヤ西岸諸州選出議員諸氏ハ多年排斥の移民法制定ノ爲奮闘セラレ今ヤソノ成果ヲ收メムトスルニ際シ此協議案ヲ容レラルルトモ諸氏ノ勝利ハ毫モ損傷セラルコトナキニアラスヤト述ヘ最後ニ「ジョンソン」立チテ巷間頻リニ協議會案ニ依レハ三月一日前多數日本移民渡來ノ危險アリトナスモノアルモ事實ニアラス過去數日間數百ノ在米日本人カ迎妻ノ目的ヲ以テ歸國シタルハ事實ナルモ來ル七月一日以後ノ八月間ハ歩合制限ノ適用ヲ受クヘシト述ヘ茲ニ討論ヲ終リ直ニ票決ニ入リタル結果「レーカー」ノ動議ニ基キ排斥條項實施延期ニ同意スルヲ許サストノ訓令附ニテ議案ヲ協議會ニ返附スルコトナレリ

三十九、兩院協議會ニ於ケル歸化不能外國人入國禁止條項實施延期否決

五月十日午前兩院協議會開催排斥條項實施期日ニ關シ協議ノ結果九日下院ニ於テ否決セラレタル但書ヲ削除シ排斥條項ハ下院原案通り本年七月一日ヨリ實施スルコトニ決定セラレタリ

四十、移民法案全部可決

兩院協議會ニ於テ決定セル移民法案ハ五月十五日午後下院ニ上程セラレ討論ノ結果五八對三〇ハ多數ニテ可決セラレタリ次テ十五日夕上院ハ六九對九ノ多數ヲ以テ移民法案ヲ可決セリ而シテ

右移民法案ハ十七日大統領ニ送達セラレタリ

四十一、大統領ノ態度ニ關スル米國新聞界ノ觀測

以上排日移民法問題ノ推移ニ伴ヒ大統領ノ態度特ニ一般ノ注意ヲ惹クニ至リ華府通信ハ大統領カ該法案ヲ拒否セサルヘキハ略々確實ニシテ拒否以外ノ方法ニ解決策ヲ求メツツアル旨ヲ報シ聯合通信ハ「法案ハ國務省ノ手ニアルモ五月二十日大統領ハ國務長官ト打合セラナシ二十一日「ロングウオース」「リード」等共和黨領袖連ト對議會策ヲ協議シ移民問題ニ關スル談合ヲ了シタルカ内容一切不明ナリ尤「リード」カ「ホワイト・ハウス」退出ニ當リ新聞記者ニ對シ予ノ微笑ニ注意セヨトテ言ヲ紛ラシタルヨリ察スルニ結局大統領裁可スルコトニ決シタルモノナルヘシト報シ尙「大統領側ニ於テ考量ニ上リタル手段ニアリ一ハ日本ノ感情ヲ緩和スヘキ陳述書ヲ附シテ裁可スルコトニハ排日條項ヲ除キ法案全體ヲ承認スヘク且該條項ニ幾分ノ修正ヲ求ムル旨ノ敎書ヲ附シテ法案ヲ議會ニ返附スルニアルカ二者何レヲ採ルヘキヤ未定ナルモ拒否以外ニ何等カノ措置ヲ執ルコト明ナリ」ト報シ各新聞多ク之ニ依レルモ「バブリック・レヂャー」通信ハ國務長官ハ日本ヲ激昂セシムルコトヲ憂慮シ居レリト報セリ

四十二、大統領ノ移民法案裁可竝ニ陳述書公表

大統領「クーリック」ハ五月二十六日一九二四年移民法案ニ署名シ同時ニ左ノ陳述書ヲ發表セリ
(附屬書第二百一十一號)

予ハ本法案ニ署名スルニ當リ主要諸點ニ就テハ衷心贊成スルモノナルモ唯現行法律上特ニ日本人ニ影響ヲ及ホスヘキ排斥條項ヲ本法案ヨリ引離ス能ハサルヲ遺憾トス日本國民ニ對スル賞讃ノ念ト深厚ナル友誼ノ情ハ今後モ從來ニ於ケルト等シク依然充分ニ披瀝セラルヘク右情念カ本條項ノ制定ニヨリ何等變化ヲ生スルモノニ非サルコトヲ確認スルハ予ノ喜トスル所ナリ本法案ハ議會カ移民取締ヲ國際間ノ協定ニ委セスシテ立法ニ依リ之ヲ定ムルノ權能ヲ實行セムトスル決意ヲ表明スルモノナリ本法案カ官吏、旅行者トシテ又ハ用務若ハ觀光ノ爲一時入國スル者、通過旅行者、海員、再渡航者、敎授、布敎師、學生及現行條約ノ規定ノ下ニ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ入國スル者ヲ排斥條項外ニ置キタル點ニ注意スルヲ要ス然レトモ吾人ハ永年日本トノ間ニ一ノ了解ヲ有シタルカ日本政府ハ右了解ニ從ヒ自發的ニ勞働者ノ合衆國渡航ヲ阻止スルノ手段ヲ採リ來レリ此歷史的關係竝ニ右關係ヲ生セシメタル情念ニ鑑ミ本件ニ關シ引續キ日本ノ客マサル協力ヲ得以テ不必要ナル法律制定ヨリ生スル誤解ノ素因ヲ作ルコトヲ避クル方却テ良好ナル結果ヲ齎シ且移民ノ實際上ノ取締ニ當リ一層有效ナリシナルヘシト思考ス而モ此方法タ

ル議會ノ行動ヲ必要トスヘキ事態生シタル場合ニ議會自ラ移民問題ヲ處理スヘキ權能ヲ何等毀損スルモノニ非ス吾人ノ所期スル結果ニ對シテハ何等反對スヘキ理由ナキモ之ヲ達セムトスル今次ノ手段ハ此際不必要ニシテ且悲シムヘキモノナリ若シモ排斥條項ニシテ獨立ノ法案ナリシナラムニハ之カ署名ヲ求メラルルニ際シ予ハ之ヲ拒否スルニ躊躇セサル次第ナルモ本法案ハ移民ノ全問題ニ關シ且必要ナル行政機關ノ設置ニ關スル廣汎ナル法案ナリ

一九二一年制定ノ現行歩合法ハ來ル六月三十日ヲ以テ廢止セラルヘキカ故ニ之ニ代ルヘキ廣汎ナル法律ヲ制定シ直ニ之カ實施ニ關スル措置ヲ講シ以テ困難ト混雜ヲ避クルコト最肝要ナリ從テ予ハ本法案ヲ全體トシテ考量シ且米國カスル一般的ノ立法ヲ緊要トスル所以ヲ考慮セサルヘカラサルカ故ニ本法案ヲ是認スル次第ナリ

四十三、一九二四年米國移民法及排日條項

敍上ノ如クニシテ成立シ七月一日ヨリ實施セラレタル一九二四年米國移民法(本章附錄參照)中日本人排斥ヲ規定スル關係條項ヲ摘記スレハ次ノ如シ

Sec. 3. When used in this Act the term "immigrant" means any alien departing from any place outside the United States destined for the United States, except (1) a government

official, his family, attendants, servants, and employees, (2) an alien visiting the United States temporarily as a tourist or temporarily for business or pleasure, (3) an alien in continuous transit through the United States, (4) an alien lawfully admitted to the United States who later goes in transit from one part of the United States to another through foreign contiguous territory, (5) a bona fide alien seaman serving as such on a vessel arriving at a port of the United States and seeking to enter temporarily the United States solely in the pursuit of his calling as a seaman, and (6) an alien entitled to enter the United States solely to carry on trade under and in pursuance of the provisions of a present existing treaty of commerce and navigation.

Sec. 4. When used in this Act the term "non-quota immigrant" means—

(b) An immigrant previously lawfully admitted to the United States, who is returning from a temporary visit abroad ;

(d) An immigrant who continuously for at least two years immediately preceding the time of his application for admission to the United States has been, and who seeks to enter the United States solely for the purpose of, carrying on the vocation of minister of any religious denomination, or professor of a college, academy, seminary, or university ; and his wife, and his unmarried children under 18 years of age, if accompanying or following to join him ; or

(e) An immigrant who is a bona fide student at least 15 years of age and who seeks to enter the United States solely for the purpose of study at an accredited school, college, academy, seminary, or university, particularly designated by him and approved by the Secretary of Labor, which shall have agreed to report to the Secretary of Labor the termination of attendance of each immigrant students, and if any such institution of learning fails to make such reports promptly the approval shall be withdrawn.

Sec. 13.

(c) No alien ineligible to citizenship shall be admitted to the United States unless such alien (1) is admissible as a non-quota immigrant under the provisions of subdivision (b), (d), or (e) of section 4, or (2) is the wife, or the unmarried child under 18 years of age, of an immigrant admissible under such subdivision (d), and is accompanying or following to join him, or (3) is not an immigrant as defined in section 3.

Sec. 11.

(d) For the purpose of subdivisions (b) and (c) the term "inhabitants in continental United States in 1920" does not include (1) immigrants from the geographical areas specified in subdivision (c) of section 4 or their descendants, (2) aliens ineligible to citizenship or their descendants, (3) the descendants of slave immigrants, or (4) the descendants of American aborigines.

Sec. 28. As used in this Act—

.....

(c) The term "ineligible to citizenship", when used in reference to any individual, includes an individual who is debarred from becoming a citizen of the United States under section 2169 of the Revised Statutes, or under section 14 of the Act entitled "An Act to execute certain treaty stipulations relating to Chinese", approved May 6, 1882, or under section 2 of the Act entitled "An Act to authorize the President to increase temporarily the Military Establishment of the United States", approved May 18, 1917, as amended, or under law amendatory of, supplementary to, or in substitution for, any of such sections;.....

第三、移民法成立直後ニ於ケル日米交渉

一、移民法ニ關スル五月三十一日附日本政府ノ抗議書

前項縷説ノ如ク移民法案ハ不幸ニシテ大統領「クローリッヂ」ノ署名スル所トナリ茲ニ成立スルニ至リ
 スノ如クニシテ日本政府カ一九〇七年紳士協約以來苦心ニ苦心ヲ重ネ維持シ來レル Status quo
 ノ立場ハ終ニ根本ヨリ破壊セラルルコトナリタルヲ以テ此差別的立法行爲ニ對シ嚴肅ナル抗議
 ヲ米國政府ニ致スノ必要ヲ認メ五月二十八日在米埴原大使ニ左記抗議文（附屬書第百二十二號）
 ヲ提出スヘキ旨訓電シ同大使ハ五月三十一日之ヲ國務長官「ヒューズ」ニ手交セリ

右抗議文譯文

千九百二十四年五月二十六日裁可セラレタル千九百二十四年移民法第十三條(c)項ニ包含セラ
ルル日本人差別的規定ニ關シ本使ハ茲ニ政府ノ訓令ニ依リ日本ノ立場ヲ闡明セル覺書ヲ閣下ニ
提出スルノ光榮ヲ有ス

尙日本政府カ右覺書ヲ米國政府ニ提出スルハ全ク虚心坦懷友好ノ精神ニ出ツルモノナルヲ以テ
米國政府ニ於テモ同一ノ精神ニ依リ之ヲ接受セラルヘキヲ確信シ此旨ヲモ附言スヘキコトヲ命
セラレタリ

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表ス

千九百二十四年五月三十一日

華盛頓日本大使館ニ於テ

埴 原 正 直

國 務 長 官

「チャールス・イー・ヒューズ」閣下

覺 書

日本政府ハ米國ニ於テ「千九百二十四年移民法」ト稱スル法律制定セラレタルノ報ニ接シ憂慮ニ
堪ヘス本法中ノ差別的條項即チ第十三條(c)項ハ歸化不能外國人ニ付他ノ種類ノ外國人ト區別
シテ入國ノ禁止ヲ規定シ其ノ適用ハ日本人ヲ目的トスルノ意圖ニ出テタルコト明白ナルヲ以テ
日本政府ハ曩ニ米國議會ニ於ケル本法案ノ討議中機ヲ失セス該差別的條項ニ對スル米國政府ノ
注意ヲ喚起シタリ然ルニ右日本政府ノ申入竝大統領及國務卿ノ勸告ハ共ニ米國議會ノ無視スル
所トナリ遂ニ同條項ハ米國成文法ノ一部ヲ成スニ至ヘリ

凡ソ國際間ノ差別待遇カ其ノ形式又ハ事項ノ如何ヲ問ハス假令純然タル經濟上ノ理由ニ基ク場
合ニ於テモ正義公平ノ原則ニ背反スルコトハ敢テ言說ヲ要セス惟フニ正義公平ノ原則ハ列國親
交ノ根底ナリ現今一般ニ承認セラレ米國ノ終始支持セル機會均等主義亦實ニ此原則ニ基礎ヲ有
ス殊ニ人種ニ因ル差別待遇ハ不快ノ念ヲ一層深カラシム千九百十二年米國政府ハ露國ニ於テ特
殊人種ノ外國人カ不公平ナル待遇ヲ受クルヤ之ニ對スル抗議トシテ千九百十一年十二月三十一
日ノ下院ノ決議ニ從ヒ米露通商條約ヲ廢棄セリ是レ米國政府自ラ人種ニ因ル差別待遇ニ對シ強
ク不滿ノ意ヲ示セルモノナリ然ルニ今ヤ米國新移民法ハ之ト同様ナル差別待遇ノ規定ヲ設ケタ

リ歸化法ニ關スル米國最高法院ノ解釋ニ顧ミルニ右移民法ハ外國人ニ對スル米國入國ノ許否ヲ以テ個人ノ具備スル資格ノ適否ニ依ルコトナク入國請求者ノ屬スル人種ノ如何ニ依リテ決定セムトスルノ法則ヲ樹立セルコト疑ヲ容レス殊ニ曩ニ公表セラレタル千九百二十四年二月八日附下院移民歸化委員長宛國務長官ノ書翰中ニモ指摘セラレタルカ如ク日本人以外ノ亞細亞人種ハ從來ノ諸法律ニ依リテ入國ヲ禁止セララルモノナルヲ以テ前顯新移民法中ノ人種の區別ハ其ノ實質ニ於テ日本人ノ入國禁止ヲ目的トセルモノト思惟セラレ

日本人ハ到底米國ノ生活及理想ニ同化スルモノニ非ストノ說ハ從來米國ニ於テ此種ノ差別的措置ヲ辯護セムカ爲ニ屢々唱ヘラレタル所ナルモ第一ニ外國系移民ニ對シ單ニ人生一代ノ短期間内ニ新ナル環境ニ同化セムコトヲ期待スルカ如キハ難キヲ求ムルモノト謂ハサルヘカラス顧ミルニ日本人カ多少米國ニ移住スルニ至レルハ十九世紀ノ末期數年以來ノ事ニシテ此際米國ニ於テ各人種ノ同化力ニ付日本人ト歸化權ヲ有スル外國移民トヲ比較シテ斷定的判斷ヲ下スハ早計ニ失スルモノト思考ス

將又同化ノ實現ハ公正平等ナル待遇ノ溫情アル雰圍氣中ニ於テノミ之ヲ期スルコトヲ得ヘク約二十年間米國ノ若干諸州ニ於テ日本人カ法律上並事實上海リ來レルカ如キ冷酷ナル差別待遇ノ

下ニ於テハ同化力ノ自然的發達ノ阻害セラルヘキハ當然ナリ一社會自ラ或外國系分子ヲ爾餘ノ分子ヨリ隔離シナカラ其ノ外國系分子カ該社會組織中ニ融合セサルヲ批難スルカ如キハ公平ノ所見ニ非サルヘシ從テ日本人ニ對スル非同化性ノ論斷ハ根本的ニ不正ナルカ然ラサレハ少クトモ時期尙早タルヲ免レス

翻ツテ日米間ニ於ケル通商條約ヲ考察スルニ千八百九十四年ノ舊條約第二條中ニハ左記ノ但書ヲ存セリ

「但シ本條及前條ノ規定ハ兩締盟國ノ各方ニ於テ商業、勞働者ノ移住、警察及公安ニ關シ現ニ行ハレ又ハ將來制定セララルヘキ法律勅令及規則ニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ」

千九百十一年條約改訂ノ際日本政府ノ要求ニ依リ新條約ニ於テハ右但書ヲ削除シ入國、旅行及居住ノ自由ヲ保障セル通則ハ依然之ヲ存スルコトナリ之ト同時ニ日本政府ハ條約ノ附屬文書トシテ千九百十一年二月二十一日附ヲ以テ左記ノ宣言ヲ爲セリ

「本日日米通商航海條約ニ調印セムトスルニ當リ華盛頓駐劄日本國特命全權大使タル下名ハ本國政府ノ委任ヲ受ケ左ノ通宣言スルノ光榮ヲ有ス

日本帝國政府ハ勞働者ノ合衆國移住ニ關シ過去三年間實行シ來リタル制度及取締ヲ從來ト均

シク有效ニ維持スルノ覺悟ナリ」

新條約ノ批准ヲ交換スルニ當リ國務長官代理ハ千九百十一年二月二十五日日本大使ニ通知スルニ「米國上院ニ於テハ該條約ハ千九百七年二月二十日裁可セラレタル外國人ノ合衆國移住取締法ト稱セララルル法律ノ何レノ條項ヲモ廢止又ハ變更スルモノト認ムヘカラストノ了解ノ下ニ條約批准ニ對スル協賛ヲ與ヘ且此了解ハ批准書ノ一部ヲ成スヘキコトヲ決議セル旨」ヲ以テシ且左ノ如ク附言セリ

「本法ハ合衆國ニ移住スヘキ總テノ國ノ移民ニ適用セララルルモノニシテ何レノ國ノ利益ノ爲ニモ差別待遇ヲ設定セルモノニ非サルヲ以テ貴國政府ニ於テモ右了解ヲ批准書中ニ記載スルニ付別段ニ異議ナキモノト思惟ス」

日本國政府ハ斯ノ如ク米國政府カ日本人ニ對スル何等差別的ノ法律規定ナキコトヲ保障セルニ信賴シ前記ノ了解ヲ批准書中ニ記載スルコトニ同意シタル次第ナリ

敍上ノ交渉ニ際シ終始日本政府ノ念頭ヲ離レザリシ一點ハ移民ニ關スル合衆國ノ差別的立法ニ對シ本邦人ヲ擁護スルニ在リタルコトハ前述ノ歴史ニ照シ自ラ明白ナリ右日本ノ立場ハ米國政府ノ十分理解シ諒悉シタル所ニシテ此點ハ現行條約ノ調印及批准交換ニ方リ常ニ考量中ニ加ヘ

テレタリ事情斯ノ如クナルヲ以テ千九百二十四年移民法第十三條(c)項ノ規定ト千九百十一年條約ノ規定トノ牴觸及其ノ牴觸ノ範圍ニ關スル專門的法理問題ノ提起ハ他日ノ機會ニ留保スルモ新立法カ右條約締結ノ根底タル精神竝經緯ヲ全然無視セルモノナルコトハ茲ニ日本政府ノ指摘セムトスル所ナリ

次ニ所謂紳士協約ナルモノヲ考查スルニ同協約ハ一方ニ於テ日本移民ニ關シ米國政府ノ認メタル現實事態ノ須要ニ副ハムカ爲又他方合衆國ニ於テ日本人民ノ正當ナル感情ヲ害スヘキ排斥法制定ノ要求アルヘキヲ豫防セムカ爲案出セラレタルモノニシテ千九百八年ヨリ實施セラレタルカ爾來著々其ノ效果ヲ發揮セリ合衆國移民長官年報中ニ掲載セラレタル統計ニ徵スルモ千九百八年ヨリ千九百二十三年ニ至ル十五年間ニ米本國ニ入國ヲ許可セラレタル日本人ハ同國ヨリ出國シタル日本人ニ比シ數ニ於テ僅々八千六百八十一人ノ増加ヲ見タルニ過キス而モ右數字中ニハ勞働移民ノミナラス商人、學生及其ノ他ノ非勞働者及非移民ヲモ包含シ此等ノ者ノ員數カ兩國間ニ於ケル商業的、學問的竝社會的關係ノ發達ト共ニ増加スヘキハ自然ノ理ナリ加之若シ斯ノ如キ少數ノ者スラモ合衆國ニ取リテ好マシカラストスルニ於テハ日本政府ハ移民ヲ更ニ制限スルノ目的ヲ以テ現存取極ヲ改訂スルノ意向アルコトヲ既ニ表示セリ然ルニ不幸ニモ日本人ニ

對シテ差別待遇ヲ設クル新法律ノ規定ハ竟ニ日本國ニ於テ紳士協約ニ因ル義務ノ繼續承認ヲ不可能ナラシムルニ至レリ日米兩國政府間ニ於テ長時日ニ互リ反覆討議ノ未成立セル友好的協約ノ了解ハ今ヤ米國ノ立法行為ニ依リ突如トシテ破壞セラレ日本カ兩國ノ親善關係ノ爲ニ過去十六箇年以上耐忍ヲ以テ誠實且正確ニ遵守シ來レル自制的取締モ今ヤ徒爾ニ終レルカ如シ

根本論トシテハ各國ノ版圖内ニ於ケル移民入國ノ制限及取締カ國家固有ノ主權内ニ屬スルコトハ茲ニ之ヲ否定セムトスルモノニ非ス然レトモ右權利行使ニ當リ外國ノ正當ナル自尊心國際間ノ了解又ハ禮讓ノ通義ヲ無視シ外國ニ對シテ明ニ公正ヲ失スルノ措置アルニ於テハ問題ノ性質トシテ固ヨリ外交的交渉及解決ニ訴フルコトヲ得サルヘカラス仍テ日本政府ハ茲ニ千九百二十四年ノ移民法第十三條(c)項ニ包含セラルル差別的條項ニ對シ嚴肅ナル抗議ヲ持續シ之ヲ記錄ニ留メ且米國政府ニ對シ差別待遇除去ノ爲一切ノ適當ナル措置ヲ執ラレムコトヲ要請スルヲ以テ其ノ當然ノ責務ナリト思考ス

右抗議文ヲ受領シ一讀シタル國務長官ハ非公式ノ所感トシテ(一)日本政府ノ覺書中ニ現行日米條約締結ノ由來ニ言及シアルモ長官ノ記憶ニ依レハ右締結商議開始ノ際米國政府ハ移民ノ制限取締ニ關スル國家固有ノ權利ヲ完全ニ留保スル了解ノ下ニ該商議ニ應シタル次第ナリ又(二)差別待遇

ノ問題ハ其源ハ寧ロ米國傳來ノ歸化問題ニ存シ移民法ハ寧ロ其結果ナリト見ルヘク必スシモ日本人カ不同化ナリト斷定セルノ趣旨ニアラサルヘシ何レニシテモ議會カ問題ノ排斥條項ヲ主張セルハ日本人ニ對スル非友誼的感情ノ發露ト見ルヨリハ寧ロ大統領ノ聲明書ニ述ヘタル如ク議會カ其ノ特權ヲ確認セントスル一念ニ囚ハレタル結果ト見ルカ正當ナルヘク長官トシテハ議會カ其特權ヲ振廻スコトニ急ナラサリシコトヲ冀ヒタル次第ナル旨ヲ述ヘ辯疏ニ努ムル所アリタリ

二、日本ノ抗議書ニ對スル米國新聞論調

米國新移民法中排日條項ニ對スル日本ノ抗議書公表ニ關シ

六月一日ノ新聞ハ何レモ我方ノ抗議書全文ヲ重要欄ニ掲ケ特ニ排日法ヲ以テ人種ニ基ク差別待遇トナセル點條約法理論ヲ他日ニ譲リ其沿革及精神ニ反ストナセル點及日本側ニハ今モ尙紳士協約改訂ノ意ヲ有スル點ニ重キヲ置キテ讀者ノ注意ヲ喚起シタリ各新聞華府通信ハ右ニ關シ本抗議ハ友邦ニ對シ穩當且威嚴アル近來稀ナル外交文書ナリト評スルモノアル位ニテ其報道振ヨリ察スルニ一般ニ友好且慎重ノ考慮ヲ受クルナルヘシトノ印象ヲ與ヘタリ唯「ハースト」系新聞ノミハ日本ハ條約違反論ヲ爲シテ排日法ノ法律的效力ヲ脅スモノナリトノ觀測ヲ報シ政府筋ニテハ此際之カ批評ヲ避ケ沈黙ヲ守レルモ聯合通信ハ國務省ハ排斥條項ニ對スル特殊ノ差別待遇トスル點及條

約締結當時ノ談判ノ沿革及了解カ米國ノ移民制限自由ノ權ヲ制限セルモノナリトノ二點ニ付テ駁論ヲ爲スヘシトノ觀測ヲ傳ヘタリ

二日主要ナル各新聞ハ論說欄ニ於テ日本ノ抗議ノ批評ヲ爲シ何レモ抗議カ非常ニ強硬ナルモノナルヘシトノ前觸ニ反シ寧ロ穩當且威嚴アルモノナルニ意ヲ安シタルモノノ如クニテ一、二ノ論點殊ニ米國移民立法權擁護ニ努ムル點ヲ除ケハ寧ロ好感ヲ以テ迎ヘタルカ如シ

華府「ポスト」ハ日本ノ抗議ハ強硬ナル文書ナルカ排日自體ヨリモ排斥ノ方法ヲ強ク批議セリ議會ノ措置ヲ以テ國際通義ニ反ストノ論議ハ誠ニ正當ニシテ米國民ノ多數ハ之ニ同感ナリ大統領モ政府モ此點ニ關シテハ其陳述書ニ徴シ又其努力ニ鑑ミ非難スヘキニアラス日本ハ排日立法カ直接條約違反ナリヤ否ヤノ問題ハ之ヲ他日ニ保留セルカ該法ハ條約ノ精神及締結當時ノ事情ヲ無視セルコトヲ指摘セリ右ハ當時日本カ米國ノ差別的立法ニ對シ日本國民ヲ擁護セムトノ意ヲ有セシコトニ付了解ノ存シタルコトヲ意味スルモノナラムカ吾人ハ日本國民ノ失望ニハ同情スルモ米國カ國際了解ヲ破棄セリトナセルハ首肯シ難シ移民立法カ全然米國ノ權利ノ範圍内ナル限り正不正モナク條約違反モナキ譯ナリ況ヤ一九一一年ノ條約締結ニ際シ米國ハ明示又ハ默示ノ表示ヲ以テ排日法ノ制定ヲ爲サストノ了解ヲ與ヘタルコトナク上院ハ却テ條約ハ現行移民法ヲ改廢スルノ效力

アルモノト思考スヘカラサルコトヲ留保セリ尤モ不正ナリトノ非難カ遣方ノ惡キ點ニアルナラハ米國ハ議會ノ行爲ニ依リ日本ニ對シ確ニ不正ヲ爲シタルモノト云フヘキモ右以外ニハ不正モナク又條約ノ違反モナシ抗議中ニ屢々用ヒラレタル「デイスクリミネーション」ハ機微ナル人種問題ニ關係スルモノナルカ今次ノ排日規定ハ日本人ノ同化不能ヲ理由トスルモノニシテ此點ニ關スル雙方ノ不一致ニ付テハ條約タルト法律タルト將又國際禮讓ヲ以テスルトヲ問ハス救済ノ方法ナカルヘク議論ヲ要セサル問題ナリト論セリ

紐育「トリビューン」ハ抗議ハ一部分排日規定ト通商條約ノ矛盾ニ立脚セルモ人種問題ト結ヒ附ケサル限り國際上左シタル意義ナカルヘシ然シ日本ハ米國ノ移民制限主權ヲ承認シ居レリト評シ轉シテ議會ノ立法權ヲ擁護シ要ハ國內主權ヲ無禮ニ行使スルヤ巧妙慫慂ニ行フヤニアリタルナリト論シ米國ノ政策ノ實行ニ際シ喜ンテ手ヲ貸サムトセシ日本ニ對シ徒ニ惡感情ヲ抱カシムヘカラサリシコトニ付後悔ノ念ヲ再ヒ喚起セシメムト論セリ

費府「バブリック・レヂャー」ハ抗議ハ控目ナルモ威嚴アルモノナリ右ハ非友誼的行爲ニ對スル友好的抗議ニシテ何等威嚇ノ言辭ナシト述ヘタル上露國ノ猶太人排斥ニ關スル米國ノ抗議ヲ指摘セル點ヲ舉ケ吾人ハ自己ノ語ヲ以テ自己ヲ責メ得ルモノナリ過去十六年ノ友好的努力カ一朝ニシテ

廢棄セラレ不必要ニ日本ノ自負心ヲ傷ケタルモノナルコトヲ覺ラセラレタリ日本ハ今尙紳士協約改訂ノ意アルヲ告ケ移民主權ヲ承認セリトテ議會ノ行動ヲ非難シ其惡結果ノ終熄スルハ蓋シ長年ノ後ナラムト歎息シタリ

紐育「ウオールド」ハ抗議ハ其精神ニ於テ卓越シ議論ニ於テ有力ナリ米國ノ公正ナル措置及條約尊重ニ訴ヘタル點ハ米國ノ一般輿論ニハ通スヘキモ聾者ノ耳ニハ通セサルヘシ排日規定ハ事實人種的差別ナリ條約締結當時ノ精神ニ牴觸セリトハ一應尤モナレトモ議會カ曾テ條約ニ違反シテ支那人排斥法ヲ制定シタルコトヲ照合セハ思ヒ半ハニ過クヘシ此點ハ他日ニ留保セラレタルモ日本ヲ不必要ニ侮辱セルノ事實ハ永久ニ消エサルヘシト歎シタリ

紐育「タイムズ」ハ日本ノ抗議ハ要スルニ國家ノ威嚴ヲ傷ケラレタリトナスモノナリ尤モ日本ハ條約論ヲ他日ニ譲リタルカ結局法理論ハ満足ナル解決ヲ得サルヘシ蓋シ議會カ移民立法ニ關シテ有スル權利ハ之ヲ爭ヒ難ク假令國際司法裁判所ニ提起スルモ唯國家ハ國內立法ニ付テ絶對的ノ權限ヲ有スル趣旨ノ決定ヲ得ルノ外ナカラム然レ共國際禮讓乃至國際通義ノ問題ニ至リ日本抗議ノ眞義初メテ明瞭ナルヘシ米國議會ノ求メムトシタルトコロハ日本ノ好意及協力ニ依リ之ヲ得タリシナラムニ世界ノ大國タル日本ニ侮辱ヲ與フルニ至レリトテ議會ヲ非難シ次ニ「ロツヂ」ヲ攻撃シ

轉シテ日米關係ニ重大ナル攪亂ヲ見ルヘシト思考スルハ無益ニシテ兩國識者間ニ戰爭ヲ考慮スルモノナシ然レ共議會カ日本國民ノ感情ヲ侮辱シタルハ永久ニ日本國民ニ傷痕ヲ止メタルモノナルコトハ之ヲ否定スルヲ得サルヘシ但シ此惡影響ニ對スル米國識者ノ痛恨ノ感ハ今後大統領ノ忠言ニ從ヒ有ユル場合ニ於テ日本ノ有スル地位ノ向上ニ對シ尊敬ヲ表示スルコトニ於テ良好ナル結果ヲ齎スヘキヲ疑ハスト論シタリ

華府「スター」ハ條約違反論ノミヲ捉ヘテ極力移民ニ關スル米國主權擁護論ヲ高唱セリ尙抗議前ノ排日論爭ニ關シ前駐英大使「ハーヴェー」ハ華府「ポスト」紙ノ最高顧問就任後初メテノ論文ニ於テ長文ノ批評ヲ掲ケ排日問題ノ經緯ニ付日本大使ノ手落、國務卿ノ過失及「ロツヂ」ノ不親切ヲ指摘シ大統領ヲ辯護セリ

三、移民法ニ關スル日本政府抗議書ニ對スル六月十六日附米國政府ノ回答

六月十六日在米埴原大使國務長官ニ面會シタルニ同長官ハ移民法ニ關スル米國政府回答文ヲ大使ニ手交シ之ト同時ニ「本回答ヲ貴官ニ手交スルニ當リ右ハ日本ニ對スル米國政府ノ最誠實ナル友好ノ念ヲ以テ爲スモノナルコトヲ貴官ニ於テ諒トセラレムコトヲ希望ス」ト附言シタルヲ以テ大使ハ如斯ハ本使ノ多トスル所ニシテ我政府モ亦之ヲ諒トスヘキヲ信スル旨答ヘタリ（附屬書第百

二十三號)

米國政府回答書譯文

本官ハ茲ニ千九百二十四年移民法第十三條(c)項ニ關スル日本政府ノ立場ヲ闡明セル覺書ヲ載録セル五月三十一日附貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有ス

本官ハ右覺書カ虛心坦懷友好ノ精神ヲ以テ提出セラレタル旨ノ貴官ノ陳述ヲ欣然了承シ米國政府モ亦同一ノ精神ヲ以テ貴官ノ開陳セラレタル所見ヲ考慮スルモノナルコトヲ茲ニ確言ス

大統領ハ移民法案署名ニ際シ陳述書ヲ公表シ右寫ハ曩ニ本官ヨリ貴官ニ手交シタル所ナルカ大統領ハ日本國民ニ對スル賞讃ノ念ト深厚ナル友誼ノ情ハ今後モ從來ニ於ケルト等シク依然十分ニ披瀝セラルヘク右情念カ排斥條項ノ制定ニ依リ何等變化ヲ生スルモノニ非サルコトヲ欣然確認セラレタリ試ミニ同條項ノ内容ヲ略述スレハ第十三條(c)項ハ歸化不能外國人ニ適用セラルルモノナルカ同條項ハ特定ノ例外ヲ設ケ次ニ列舉セラルルモノニ對シテハ排斥條項ヲ適用セサルコトトセリ

移民法第三條ノ定義ニ從ヒ移民タラサル者即チ「(一)政府ノ官吏竝其ノ家族從者僕婢及雇人(二)一時的ニ旅行者トシテ又ハ一時的ニ用務若ハ觀光ノ爲ニ合衆國ニ渡來スル外國人(三)合衆國ヲ横切

リテ繼續的ニ通過ヲ爲ス外國人(四)適法ニ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル後同國ノ一地方ヨリ接壤外國領土ヲ通過シテ他ノ地方ニ赴ク外國人(五)合衆國ノ港ニ到着スル船舶ニ從業スル善意ノ外國人海員ニシテ單ニ其ノ職務ノ爲一時的ニ合衆國ニ入國セムトスル者(六)現行通商航海條約ノ規定ニ準據シ單ニ商業ヲ營ム目的ヲ以テ合衆國ニ入國シ得ル外國人」

第四條(b)(d)又ハ(e)項ノ下ニ非步合移民トシテ入國シ得ル者即チ「(b)前ニ適法ニ合衆國ニ入國ヲ許可セラレタル移民ニシテ一時外國ニ赴キタル後歸還スル者(d)合衆國入國出願直前少クトモ二年間引續キ孰レノ宗派タルヲ問ハス布教師ノ職ニ在リシ者又ハ「カレッヂ」、「アカデミー」、「セミナリー」又ハ「ユニヴァーシテイ」教授ノ職ニ在リシ者ニシテ單ニ其ノ職ニ從事スル目的ヲ以テ入國セムトスル移民竝其ノ同伴シ若ハ呼寄セタル妻及十八歲未滿ノ未婚ノ子(e)十五歲以上ノ善意ノ學生ニシテ單ニ公認セラレタル學校、「カレッヂ」、「アカデミー」、「セミナリー」又ハ「ユニヴァーシテイ」ニ於テ勉學ノ爲入國セムトスル移民特ニ右學校ハ本人自ラ之ヲ指定シ勞働長官ノ認可ヲ經タルモノナルコトヲ要ス又右學校ハ各移民學生ノ就學終了ヲ勞働長官ニ報告方承諾シタル者ニシテ之ヲ怠リタル場合ニハ右認可ハ直ニ取消サルモノトス

尙前記第四條(d)項ノ下ニ入國ヲ許可セラルル移民ノ妻及十八歲未滿ノ未婚ノ子

此等例外ノ者ヲ考慮ニ入ルトキハ本件條項ハ其ノ實際ノ運用上又ハ之ニ基ク政策上日本勞働者ノ合衆國移住ヲ阻止スルニ付日本政府ト合衆國政府トノ協力ノ基礎ヲ爲セル紳士協約中ニ包含セラルル了解ト大差ナキコトヲ認メ得ヘシ此ノ多年ニ互リ確立セラレタル政策ヲ遂行スルニ當リ日本政府ノ提供シタル助力ハ吾人ノ充分多トシ且感謝スル所ニシテ右政策ノ樹立ヲ促セル經濟上ノ事由ニ付キテハ言及スルノ必要ナキモノト思惟ス右政策ハ日本國民及其ノ特性並業績ニ對シ何等尊敬ノ念ヲ缺如セルコトヲ表示セシニアラス其ノ妥當ナリシコトハ日本政府力自發的ニ之ヲ力遂行ニ助力シタルコトニ依リテ何等思議セラレタルコトナク却テ之ヲ確認ヲ受ケタルモノト云フヘシ現行協定ト本移民法ノ規定トノ實質的相違ハ蓋シ大統領ノ聲明セル如ク本移民法ニ在リテハ議會力移民ノ取締ヲ國際間ノ協定ニ委セスシテ立法ニ依リ之ヲ定ムルノ權能ヲ實行セムトスル決意ヲ表明シタルニ存ス

右權能ハ疑問ノ餘地ナキノミナラス「各國ノ版圖内ニ於ケル移民入國ノ制限及取締カ國家固有ノ主權ニ屬スル」コトハ寧ロ貴國政府ノ明ニ承認セラルル所ニシテ日本政府ニ於テモ外國人移入ノ許否、其ノ領土内ニ於ケル定住ノ條件及場所等ノ決定上適宜此權能ヲ行使シ居ルモノト信セラ

ル
元來大統領ハ日本政府トノ現行協定ノ存續ヲ希望シ又之ニ對シ望マシキ修正ヲ爲サムカ爲商議セムコトヲ欲シタルモ之ト同時ニ米國政府ハ此ノ如キ國際協定ニ制限セラレ又ハ現行協定ニ依リ若ハ米國政府力從來日本政府ト商議シ來リタルヲ理由トシテ本件ニ關シ其ノ本來有スル行爲ノ自由ヲ失ヒ又ハ毀損セラレタリト思考スルモノニ非ス此移民取締ノ自由タルヤ主權ノ要素ヲ爲スト同時ニ我國國際關係ノ基調タル友誼的感情ト全然相容ルルモノニシテ米國政府ハ從來如上ノ商議ニ際シ常ニ十分之ヲ留保シ來レリ

仍テ千八百九十四年日本ト締結セラレタル通商航海條約第二條中ニ次ノ明示の規定ヲ設ケタリ

但シ本條及前條ノ規定ハ兩締盟國ノ各方ニ於テ商業、勞働者ノ移住、警察及公安ニ關シ現ニ行ハレ又ハ將來制定セラルヘキ法律勅令及規則ニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

千九百十一年條約締結商議ノ際日本政府力前記規定ヲ削除セムコトヲ希望シ又千九百七、八年紳士協約ニ基キ米國ニ於ケル日本勞働者ノ員數ノ實質的增加ヲ阻止スルニ適當ナリト豫期セラレタル禁遏手段ヲ遂行シ來レルニ鑑ミ米國政府ニ於テモ日本政府ノ提議ニ同意シタルハ事實ナリ千九百十一年條約改訂ニ際シ日本政府ハ同條約附屬宣言ノ形式ニ據リ右協定ヲ更新セリ然レトモ米國政府ハ之ニ同意スルニ當リ其ノ裁量ヲ以テ移民ノ制限ヲ行フ完全ナル權利ヲ毀損セムトスル意向

ヲ否認スルニ注意セリ此等ノ商議ニ關シ貴翰中ニ陳述セラレタル所ニ顧ミ當時行ハレタル意見ノ交換ニ言及セムトス

貴官ノ承知セラルル如ク日本大使館ハ千九百十年十月十九日附覺書中ニ於テ當時考量中ノ條約改正ノ一要点ニ關シ左ノ如ク記述セラレタリ

米國行勞働移民問題ノ調節ニ關シ帝國政府カ過去二年有半ニ互リ勵行シ來レル手段方法ハ間然スル所ナク且移民禁止ノ手段ヨリモ遙ニ有效ナルコトヲ立證セルモノト信セラル而シテ此ノ如キ制限手段ハ勞働移民問題ニ關シ兩國間ニ論爭異論ノ發生スルコトヲ防止スル爲日本政府ノ自發的ニ執リタル所ニ係リ事態ノ必要トスル限り之ヲ持續セムトスルモノナルコトヲ茲ニ附言ス斯ノ如キ實情ニ鑑ミ帝國政府ハ右留保條款ハ當ニ不必要ナルノミナラス之ヲ將來ニ存スルニ於テハ困難ヲ排除スルノ資トナラスシテ却テ誤解ヲ招致スルノ因タルヘシト信ス蓋シ此ノ如キ規定ハ國民的感情ニ不快ヲ與フルコト自然ノ數ナリト謂フヘシ此ノ如キ事情ヨリシテ日本政府ハ新條約ニ於テハ上述ノ留保條款ヲ全然排除シ勞働移民問題ニ關シテハ條約上ノ規定ニ俟ツコトナク名實共ニ兩國政府ノ友誼的解決ニ依頼セムコトヲ希望スルモノナリ尤モ日本政府ハ此ノ希望ヲ述フルニ當リテハ米國政府カ移民問題ニ關シ種々難關ニ苦心シ居ラルルコトヲ看過スルモ

ノニアラサルヲ以テ若シ米國政府ニシテ希望セラルルニ於テハ新條約ハ何時ト雖六ヶ月ノ豫告ヲ以テ之ヲ廢止シ得ルコトト爲スモ異議ヲ存セス

日本大使館ハ如上ノ廢棄條款ヲ存置スル場合移民問題ノ關スル限り兩締約國カ保持スル行爲ノ自由ハ現存留保條款ヲ廣義ニ解スル場合ヨリモ實際上遙ニ廣汎ナルコトニ満足スルモノナリ

右提議ノ回答トシテ國務省ハ千九百十一年一月二十三日日本大使ニ送付シタル覺書ニ於テ同省ハ次ノ基礎條件ノ下ニ於テ新通商航海條約締結ノ商議ヲ爲スヘキ旨宣明セリ

前掲覺書ヲ以テ日本政府ノ爲シタル提議ハ即チ現行條約中移民ニ關スル條項ノ削除ヲ爲スハ勞働者ノ米國移住ニ關シ日本政府カ過去二箇年半實行シ來リタル制限及取締カ凡ユル事情ノ下ニ於テ適當ナル調節手段ナリト兩國政府ノ認メタル理由ニ基クモノニシテ新條約ノ效力存續期間日本政府カ從來ト均シク有效ニ之ヲ維持シ兩國政府ハ其ノ目的遂行ノ爲必要ノ協力ヲ爲スヘク又該條約ハ六箇月ノ豫告ヲ以テ消滅スヘシトノ點ニ在リト國務省ニ於テ了解シ且其ノ了解ヲ維持スルモノナリ

更ニ日本政府ハ條約調印ノ際前記ノ趣旨ヲ正式ニ宣言シ米國政府ハ其ノ裁量ニ依リ之ヲ公表シ得ヘシト了解ス

米國政府ハ兩國ノ領域又ハ屬領ニ來ルヘキ移民ノ制限及取締ヲ爲スヘキ兩國固有ノ主權ニ關シ一切ノ必要ナル留保ヲ爲シ該主權ヲ毀損セサルモノトシテ右提議ヲ兩國間移民問題解決ノ基礎ト爲スコトヲ承認ス

千九百十一年二月八日日本大使館ハ其ノ覺書ニ於テ日本政府ハ同大使館ノ提議シ且國務省ニ於テ前ニ引用セル留保ヲ條件トシテ同意セル所ニ從ヒ商議スヘキ旨同省ニ通告シ更ニ次ノ如ク述ヘタリ

日本政府ハ本年一月二十三日附前記公文ニ陳述セル移民問題ニ關スル提議ニ付キテノ了解ニ一致ス

前述ノ如ク千九百十一年條約ハ自國ノ領域又ハ屬領ニ來ルヘキ移民ノ制限及取締ヲ爲スヘキ兩國固有ノ主權ヲ何等毀損スルモノニ非ストノ明確ナル了解ノ下ニ締結セラレタルモノナリ而シテ米國政府ハ法律制定ヲ必要ナカラシメムカ爲考案セラレタル手段ヲ日本ニ於テ實行スヘシトノ協定ニ同意シタルモ此種法律制定ノ要否ノ決定ハ當然米國政府ノ立法權ノ範圍ニ屬スヘキモノナリトセリ而シテ今ヤ議會ハ右立法權ヲ行使シテ本件條項ヲ制定シタル以上此ノ立法行爲ハ行政部ニ對シ命令的ノモノニシテ該法律ニ表明セラレタル議會ノ意思ヲ遂行スルニ當リ行政的裁量ノ餘地ヲ

存セス

移民法ノ規定ニ據レハ貴官ノ言及セラレタル本法第十三條(c)項ハ千九百二十四年七月一日ヨリ實施セラルヘシ而シテ米國ニ於テ移民取締ニ關スル立法權ノ行使ヲ自制スレハ是レ日本政府カ米國ニ來ルヘキ勞働者ノ移住制限ニ關スル千九百七、八年紳士協約中ニ包含セラルル協定ヲ履行スルコトヲ以テ其ノ條件トシタルカ故ニ移民法第十三條(c)項ノ實施期日以後ハ前記協定ニ據ルノ責ニ任セサルヘシトノ日本政府ノ見解ニ對シ米國政府ハ之ニ同意セサルヲ得ス

本官ハ此ノ機會ニ於テ紳士協約ヲ實行スルニ當リ貴國政府ノ盡シタル自發的協力ハ米國政府ノ深く多トスル所ナルコトヲ反覆力說スルト同時ニ移民制限ニ關スル兩國立法權ノ承認ハ終始兩國間ノ特徵タリシ相互的好意及厚誼ヲ些カタリトモ毀損スルモノニアラサルコトヲ述ヘムトス
本官ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表ス

千九百二十四年六月十六日

華盛頓國務省ニ於テ

「チャールス・イー・ヒューズ」

日本國大使

埴原正直閣下

四、大統領「クーリッヂ」ノ演説ト日本政府ノ抗議

日本政府及國民ニ於テハ六月十六日附米國政府ノ回答ニ對シ満足スルモノニアラサルハ勿論ナリシカ當時米國ニ於テハ六月議會閉會後幾何モナクシテ政戰ノ期節トナリ上下ヲ通シテ十一月ニ行ハルヘキ總選舉ニ對スル運動ニ熱シ殊ニ當年ニ於テハ民主共和ノ兩黨ノミナラス政府ニ反對スル「ラフォレット」一派ノ第三黨運動アリテ政界愈々混亂ノ情勢トナリ從テ日本政府ニ於テハ更ニ覆答ヲ爲シ米國政府ト交渉ヲ繼續スルモ問題ノ解決ニ資スル所ナク却テ徒ニ兩國間ノ國民感情ヲ刺戟スルノ結果ニ止マルヘキヲ考慮シ暫ク總選舉ノ成行ヲ注視シ米國政界ノ平靜トナリタル後ニ於テ更ニ方策ヲ講スルコトセリ然ルニ大統領「クーリッヂ」ハ八月十四日ニ至リ共和黨大統領候補受諾演説ヲ爲シ其演説中ニ於テ左記ノ通一九二四年移民法問題ハ已ニ結末ヲ告ケタル事件ナリト述ヘタリ

To preserve American standards for all our inhabitants, whether they were descendants of former generations residing here or most recent arrivals, restrictive immigration laws were passed. I should have preferred to continue the policy of Japanese exclusion by some method less likely to offend the sensibilities of Japanese people. I did what I could to minimize any harm that might arise. But the law has been passed and approved, and the incident is closed.

We must seek by some means besides immigration to demonstrate the friendship and respect which we feel for Japanese nation.

Restrictive immigration is not an offensive, but a purely defensive action. It is not adopted in criticism of others in the slightest degree, but solely for the purpose of protecting ourselves. We cast no aspirations on any race or creed, but we must remember that every object of our institutions of society and government will fail unless America be kept American.

然ルニ日本政府ニ於テハ全然之ニ同意スルコトヲ得ス移民法ニ因リテ惹起セラレタル事態ハ飽クマテ之ヲ是正スルノ必要アリト爲セルノミナラス殊ニ敍上ノ理由ニヨリ本問題ニ對スル交渉ノ繼續ヲ中止セルニヨリテ從來ノ抗議ヲ放棄シ又ハ之ヲ弛緩セシメタリトノ感想ヲ聊カタリトモ米國政府ニ與フルヲ避ケムカ爲適當ノ機會ノ發生スル毎ニ同政府ノ注意ヲ喚起スルコト緊要ナリト認メ居リタル際ナリシヲ以テ九月十一日在米吉田代理大使ニ次ノ要旨ヲ訓電シ其寫ヲ國務長官ニ手交セシムルコトトセリ仍テ同代理大使ハ同月十五日國務長官ト面謁シ該訓電寫ヲ朗讀ノ上手交シタリ

(一) 日本政府ニ於テ六月十六日附國務長官公文ニ對シ回答セサリシハ目下移民法問題ニ關シ論議ヲ繼續スルモ徒ニ兩國ノ輿論ヲ激發シ事態ヲ紛糾セシムルニ過キサルヘキヲ顧念シタルニ由

- ル
- (二) 然レトモ今日ニ至ルマテ何等傷ケラレタル日本人ノ感情ヲ緩和セラレタルヲ見ス米國議會ノ立法ハ政府ニ對シ命令的ナルヘキモ日本政府ハ未タ本件ハ國際的ニ終結シタリト思惟スルコトヲ得サルモノニシテ五月三十一日附垣原大使公文中ニ闡明セラレタル抗議ニシテ調整セラレサル間ハ飽クマテ其抗議ヲ維持スルノ義務ヲ有スルモノナリ
- (三) 故ニ貴官ハ政府ノ此立場ニ付キ國務長官ノ注意ヲ喚起スルト共ニ成ルヘク速ニ且可能ノ限度ニ於テ兩國ノ満足スヘキ解決手段ヲ講スルヲ以テ兩國ノ親善維持上緊要ナル旨ヲ附加セラルヘシ(附屬書第二百二十四號)

第四、移民法排日條項ト輿論

一、移民法案ニ對スル本邦輿論

一九二三年十二月「アルバート・ジョンソン」カ歸化不能外國人入國禁止條項ヲ含ム移民法案ヲ下院ニ提出シタルヨリ幾多類似ノ法案ノ提出ヲ見遂ニ一九二四年五月二十六日一九二四年移民法成立スルニ至ル迄本邦ノ新聞雜誌ハ各反對意見ヲ發表シ又日本各地、朝鮮、滿洲其他ニ於ケル諸種團體及市民等ハ今回ノ排日移民法案ニ關シ大會ヲ開キ何レモ本案カ正義人道ニ悖レルコトヲ指

摘シ之ニ對スル米國大統領ノ拒否權行使ヲ要望シ且米國市民ノ猛省ヲ促スト共ニ政府ニ對シ同法案阻止方ニ付極力努力セムコトヲ希望シタリ

二、米國ニ於ケル移民法案排日條項ニ關スル各方面ノ反對意見

一九二四年四月以降米國各地ニ於ケル諸團體其他ノ發表セル移民法案排日條項ニ關スル主ナル反對意見左ノ通

- (一) 四月九日「ホノルル」米人商業會議所役員會ニ於テ移民法ニ關シ日本人ニ他ノ國民ト同等ノ待遇ヲ與フヘク日本移民ヲ更ニ制限スル必要アラハ日米間ノ條約ニ依リ取極ム可シトノ意見ヲ決議シ之ヲ電報ヲ以テ華府議會及國務長官ヘ通告スル手續ヲ執リタリ
- (二) 「フエダラル・カウンシル・オヴ・チャーチス」ハ兩院議員ニ訴ヘ其反省再考ヲ促ス趣旨ノ文書ヲ配布セリ

- (三) 「ナシヨナル・トレード・カウンシル」ハ上院ノ措置ニ反對シ其日米通商ニ惡影響ヲ及ホスコトヲ警告セリ

- (四) 「ハーヴァード」大學名譽總長「エリオット」博士ハ垣原大使ニ對シ左ノ通來電アリタルニ付大使ヨリ其好意ヲ謝スル旨回電シ且澁澤子爵ヘ傳達方取計ヒタリ

Japanese exclusion flies in the face of the historical good fellowship between America and Japan and of every American tradition concerning glad hospitality toward other peoples. It is also a policy of selfishness and panic. Use this as you think best. Please thank chairman Shibusawa for me.

右電報譯文

日本人排斥ハ日米兩國ノ歴史の親交及他國民歡待ノ我國風傳統ニ背反スルト共ニ利己のニシテ恐躁ナル政策ナリ右貴下ノ最善ト認メラル所ニ從ヒ利用セラレ度シ澁澤子ニ謝意傳達アリ度シ

(五) 米國宣教師協會太平洋沿岸支部ハ「排斥移民法案ハ基督教ニ背キ隣邦ノ友情ヲ傷クルモノナリ」トノ趣旨ノ宣傳書ヲ配布シ排日法案反對ノ氣勢ヲ擧ケタリ

(六) 「レーキ・カウンティ」ノ婦人聯合會ハ「移民問題ハ國內問題タルト同時ニ國際問題ニシテ外國ノ友情ヲ無視スルコト能ハス然ルニ今回移民法案ハ政爭ノ具ニ供セラレタルヲ以テ吾人ハ本法案ニ付此際正確ナル統計ニ基キ決定的研究ヲ爲シ健全ナル輿論ノ喚起ニ努ムヘシ」トノ決議ヲ爲シタリ

(七) 四月二十五日紐育「タイムス」所報ニ依レハ世界日曜學校聯合會ハ二十四日排日條項反對ヲ

決議シ「コロムビア」大學ノ職員モ亦紳士協約ノ廢棄ニ反對ノ所見ヲ國務長官及上院移民委員長ニ傳ヘ又「ナショナル・セキユリティ・リーグ」モ他國ノ名譽ヲ毀損スルカ如キ方策ニ出ツルヲ不可トスル趣旨ノ「ステートメント」ヲ公表セル趣ナリ

(八) 五月八日終了ノ「クリーヴランド」ニ於ケル全米國商業會議所大會ニ於テ桑港商業會議所副會頭「リンチ」(Robert Newton Lynch) ハ太平洋沿岸諸州ヲ代表シ東洋貿易ニ關スル演說ヲ爲シ移民問題ニ論及シ今回ノ日本移民問題ハ米國ノ東洋貿易政策ヲ阻害スト爲シ貿易業者ハ擧ゲテ之ニ反對ナル旨論斷シタリ尙「ボストン」實業家「フィリン」氏ノ動議ニ依リ「紳士協約ノ廢棄ハ條約違反ニシテ徒ニ日本ノ反感ヲ招クモノナレハ全米商業會議所ハ擧ゲテ國務長官ノ態度ニ贊成シ立法部ノ反省ヲ促スヘシ」トノ意味ノ決議文ヲ滿場一致ヲ以テ決議シ右決議ヲ直ニ政府及議會ヘ送付スルコトセリ

(九) 五月二十二日紐育「コングリゲーションナル・コンファレンス」ハ大統領ニ移民法案ノ拒否ヲ建言シ紐育ニ於テ會合ノ米國製造業者協會モ二十一日議會カ排日條項ヲ採擇セルヲ遺憾トスル趣旨ノ決議ヲ爲シタリ

三、排日條項ニ關スル米國新聞ノ態度

五月二十六日松井外務大臣ハ在米大使及在米各領事宛電報ヲ以テ移民法案カ法律トナル以前ニ於ケル米國輿論ノ趨向ヲ知ルノ資料トシテ排斥條項ニ關スル新聞ノ態度ヲ賛成、反對、無關心ノ三項ニ分チ成ルヘク地方竝ニ新聞別トシテ大要電報スヘキ旨訓令シタル處左記ノ通回電アリタリ

(一) 在米大使館

排斥條項ニ關スル各地方新聞ノ論調ニ付當方新聞係ノ有スル材料及各方面トノ接觸ニ依リテ得タル觀測左ノ如シ

(イ) 排斥條項ノ内容及議會ノ行動ニ賛成スルモノ

東部諸州

五分 (主トシテ「ハースト」系)

中西部諸州

四割乃至五割

南部諸州

五割

西部諸州

八割

(ロ) 排斥條項ニ關シ立法手段ニ依ル形式又ハ議會ノ行動ニ反對ノモノ

東部諸州

九割五分

中西部諸州

五割乃至六割

南部諸州

五割

西部諸州

二割

(ハ) 排斥條項ノ内容趣旨ニ反對ノモノ 絶 無

(ニ) 無關心ナルモノ

南部及中西部諸州ノ少數田舎新聞ニ過キサルヘシ

右觀測ニ當リテハ大體各新聞ノ讀者ノ範圍ヲモ考慮シ地方別ヲ定メタリ
尙當館ニ於テ閱讀セル新聞ニ付テ類別スレハ大要左ノ如シ

(イ) 排斥條項及議會ノ行動ニ賛成ノモノ

華 府

「タイムス」「ヘラルド」「ハースト」系)

紐 育

「アメリカン」「ハースト」系)

「ボルチモア」

「アメリカン」「ハースト」系)

(ロ) 排斥條項ニ關シ立法手段ニ依ル形式又ハ議會ノ行動ニ反對ノモノ

華 府

「イヴニング・スター」(中立)

紐 育

「ウォールド」「タイムス」「ブルックリン・デイルリー・イーグル」

(以上民主系)

「ヘラルド」「トリビューン」「イヴニング・ポスト」「サン」(以上共和系)

「ウォール・ストリート・ジャーナル」「ジャーナル・オブ・コンマース」「コンマーシャル」(以上中立)

(ハ) 時々賛成又ハ反對シ態度不明ノモノ

華 府

「ポスト」(中立但シ共和系)

「ボストン」

「イヴニング・トランスクリプト」(中立但シ共和系)

(二) 在市俄古領事館

(イ) 排斥條項ニ賛成ノモノ

市俄古市

「トリビューン」「ヘラルド・エキザミナー」

中西部地方

「ミルウォーキー・ジャーナル」「デ・モアン・カピタル」「インディ

アナポリス・スター」

(ロ) 反對ノモノ

市俄古市

「シカゴ・アメリカン」「ジャーナル・オブ・コンマース」「デイリ

ー・ジャーナル」「デイリー・ニュース」「イヴニング・ポスト」

「ミネアポリス・トリビューン」「デトロイト・ニュース」「セント・

ルイス・グローブ」

中西部地方

(三) 在「ニュー・オルリンズ」領事館

南部諸州ハ大體ニ於テ排日立法ニ關シ利害關係少キノミナラス當館管内刊行四百餘ノ新聞モ少數ノ例外ヲ除キ殆ト國際問題ニ關シ冷淡ニシテ偶々外交問題ヲ論議スルコトアルモ東部ノ大新聞又ハ市俄古若ハ南方都市ノ主要新聞ヲ模倣スルニ過キス從テ大體ノ形勢ハ東部ノ大新聞及左記各新聞ノ態度ニ依リ測知スルヲ得ヘシ

(イ) 排斥條項自體ニ觸レス米國ノ主權擁護ヲ主張スルモノ

「ガルベストン・デイリー・ニュース」「モビル・レジスター」「ヒューストン・ポスト」「タイムス・ビカユーン」

(ロ) 排斥條項ニ反對セサルモ米國議會ヲ批難スルモノ

「アトランタ・コンスチテューション」

(ハ) 排斥條項ニ賛成スルモノ

「ハースト」系諸新聞

(四) 在「ロス・アンゼルス」領事館

「ロス・アンゼルス」市ニ於ケル六新聞ハ何レモ排日條項ニ賛成ニシテ管内各地新聞亦概ネ同様ナリ尙大統領選舉ニ於テ「クローリッヂ」ヲ支持シ居ル當市「タイムス」ハ排斥條項問題ニ付テモ同氏ノ態度ヲ辯護シ居レリ

(五) 在「シアトル」領事館

(イ) 排斥條項ニ賛成ノモノ

「シアトル」

「スター」「ポスト・インテリジェンサー」「タイムス」「オーガス」

「タコマ」

「タイムス」「レッチャ」「トリビューン」

「スポカーン」

「ブレット」「クロニクル」「スポークス・レヴュー」

「ヤキマ」

「モーニング・ヘラルド」「イヴニング・レバブリカン」

(ロ) 反對ノモノ

「シアトル」

「ビジネス・クロニクル」

(ハ) 中立ノモノ

「シアトル」

「ユニオン・レコード」「ジャーナル・オブ・コンマース」

(六) 在「ポートルランド」領事館

「オレゴン」州ニ於ケル日刊新聞三十二(純然タル經濟紙ヲ除外ス)ノ中新移民法ニ付所見ヲ公ニシタルハ十四ニシテ賛成十一排斥ノ趣旨ニ賛成ナルモ其手段ニ反對ノモノニニシテ他ノ一ハ賛否ヲ明示セズ又週刊新聞百四十八中九新聞カ賛成論ヲ掲ケ一新聞カ反對論ヲ爲シタルニ過キス

(七) 在桑港總領事館

(イ) 排斥條項ニ賛成ノモノ

桑 港

「エキザミナー」「コール」「ビュレティン」「デイリー・ニュース」

「ジャーナル」

「サクラメント」

「ビー」

「フレズノ」

「ビー」

「サンノゼ」

「マーキュリー・ヘラルド」

(ロ) 反對ノモノ

桑 港

「サクラメント」

「クロニクル」「デイリー・コンマーシャル・ニュース」

「フレスノ」

「レバブリカン」

「サンノゼ」

「イヴニング・ニュース」

(ハ) 中立ノモノ

「オー克蘭ド」

「トリビューン」「インクワイアラー」

「スタクトン」

「レコード」「インデペンデント」

(八) 在「ホノルル」總領事館

管内ニ於ケル有力新聞ノ態度左ノ如シ

「アドヴァタイザー」ハ社長署名ノ論説ヲ掲ケ排斥條項ヲ激烈ニ攻撃シタリ

「スター・ビュレティン」ハ當初日本ヲモ歩合中ニ包含スヘシトノ國務長官ノ提案ニ賛成シ居タルモ議會ノ大勢定マリタル後ニ於テハ「ジョンソン」案ヲ支持シタリ

「ホノルル・タイムス」ハ右「ビュレティン」ノ所説ヲ論駁シタルコトアリ

尙排斥條項反對ノモノニ「ヒロ・トリビューン」「ヘラルド」アリ

(附 錄)

一九二四年米國移民法

(本譯文ハ一九二四年六月通商局ニ於テ刊行セル「千九百二十四年制定北米合衆國移民法」ノ全文ナリ原文ニ付テハ附屬書第二百二十五號參照)

合衆國ニ外國人ノ移住ヲ制限スルコト及其ノ他ヲ目的トスル法律

亞米利加合衆國議會上院及下院ノ協賛ヲ經テ左ノ如ク制定ス

本法ハ之ヲ千九百二十四年移民法ト稱ス

移民許可證

第二條イ 本法第三條ニ規定スル移民ノ出願アルトキハ領事官ハ以下規定スル諸條件ニ從ヒ並當該官憲ノ發給スル移民許可證ノ數ニ關シテ本法及本法ニ基ク諸規則ニ定ムル制限ニ從ヒ前記移民ニ對シ移民許可證ヲ發給スルコトヲ得右移民許可證ハ第七條所定ノ願書一通ニ該領事官ノ查證ヲ付シタルモノトス右查證ニハ (一) 移民ノ國籍 (二) 第五條ニ規定スル歩合移民ナルヤ又ハ第四條ニ規定スル非歩合移民ナルヤ (三) 移民許可證ノ有効期間滿了ノ日 (四) 諸法規ニ依リ定メラ